



令和5年度 新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム

報告集

— 目 次 —

【目的・体制】

○新庄・最上ジモト大学推進事業/コンソーシアム組織体制.....	2
----------------------------------	---

【新庄・最上ジモト大学に寄せて】

○大正大学地域創生学部 教授 浦崎 太郎氏.....	4
----------------------------	---

○新庄東高等学校 教頭 加藤 義広氏.....	5
-------------------------	---

【令和5年度事業報告】

○令和5年度事業一覧.....	7
-----------------	---

○新庄・最上ジモト大学プログラムパンフレット.....	11
-----------------------------	----

○ジモト大学グランドルール/Love ルール.....	13
-----------------------------	----

○プログラム参加者数(高校別・延べ人数/市町村別・延べ人数/実人数).....	14
---	----

○プログラム実施報告書

1. 新庄歴まち 謎解きウォークラリー.....	19
--------------------------	----

2. 語りつくそう！自分たちの暮らす地域について.....	20
-------------------------------	----

3. 「手で話そう」～手話通訳という資格を知ろう～.....	21
--------------------------------	----

4. モルック&ノルディックウォーク！北欧スポーツで健康に！.....	22
-------------------------------------	----

5. モノづくりの面白さ～「好き」を仕事に～.....	23
-----------------------------	----

6. あつまれ ミライの公務員.....	24
----------------------	----

7. ものづくり×ジモト.....	25
-------------------	----

8. 鮭の食べ方してる？.....	26
-------------------	----

9. 目指せそば職人！～そば打ち体験～.....	27
--------------------------	----

10. 尾花沢、最高！アクティブに活躍する大人と楽しむイベントづくり！.....	28
--	----

11. ヨット体験&イベント運営にチャレンジ ―徳良湖が作る歴史とドラマ―.....	29
--	----

12. 尾花沢からの SOS！私たちの防災チャレンジ.....	30
---------------------------------	----

13. しごとーーーク ～若手従業員のリアルなお話～(新庄南高等学校金山校).....	31
---	----

14. しごとーーーク ～若手従業員のリアルなお話～(新庄北高等学校).....	32
--	----

15. しごとーーーク ～若手従業員のリアルなお話～(新庄神室産業高等学校).....	33
---	----

16. しごとーーーク ～若手従業員のリアルなお話～(新庄南高等学校).....	34
--	----

17. しごとーーーク ～若手従業員のリアルなお話～(新庄東高等学校).....	35
--	----

18. しごとーーーク ～若手従業員のリアルなお話～(新庄北高等学校最上校).....	36
---	----

19. しごとーーーク ～若手従業員のリアルなお話～(新庄神室産業高等学校真室川校).....	37
---	----

20. 聞いてみよう！最上の医療・福祉のはなし.....	38
------------------------------	----

21. 最上の暮らしを守る最前線！医療現場見学会.....	39
-------------------------------	----

22. ふるさとをまもり未来をつくる土木技術者のはなし.....	40
----------------------------------	----

23. You は何する？最上(てっぺん)で！.....	41
------------------------------	----

24. 最上小国川鮎釣り甲子園～最上小国川の文化に触れる～.....	42
------------------------------------	----

25. 高校生モニター募集！.....	43
---------------------	----

26. ゆめりあマルシェと一緒に盛り上げよう！.....	44
27. 未来創造戦士ユメリオンのステージを創ろう.....	45
28. 新庄・もがみ SDGs体験ツアー.....	46
29. 世界 2 位のアパレル企業 ユニクロのここがすごい！.....	47
30. 今年のお祭りは浴衣で出掛けよう！着物男子也大歓迎！.....	48
31. 新庄・最上を盛り上げよう「Fiesta Festa2023」①.....	49
32. 新庄・最上を盛り上げよう「Fiesta Festa2023」②.....	50
33. 「18 歳のリアル」ジブンとエネルギー社会のあした.....	51
34. 世界、日本で起きていること～探究型学習に向けて～.....	52
35. 捨てる前に考えよう！ファッションと地球環境の関係.....	53
36. ライブ配信にチャレンジ！.....	54
37. 自分だけの「ない本」を考えよう！.....	55
38. いつもの街並み、目隠ししたらどう見える？.....	56
39. モンナッツ(スイーツ)で商品開発しよう！.....	57
40. 最上の野菜をプロデュースしよう！最上、農業女子会.....	58
○令和5年度 新庄・最上ジモト大学 プログラム参加者アンケート結果.....	59
○令和5年度 新庄・最上ジモト大学 プログラム提供者アンケート結果.....	65
【記事・広報】.....	70
【新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム 規約】.....	86



目的・体制



「新庄・最上ジモト大学」の概要

最上地域の課題

- ・ 高校生の約5割が進学等により県外へ転出
- ・ しかし、卒業後地元に戻らない傾向
- ・ 少子化は加速、地域課題も山積
- ・ 将来の地域を担う人材が不足

地域課題に対し若い世代の関心を高め、地域に貢献する次世代の人材育成が必要

新 庄 ・ 最 上 ジ モ ト 大 学

地域の大人と高校生が
地域のことを**本気で語り、学び、交流する場**づくり

地域の大人



高 校 生

『新庄・最上ジモト大学推進
コンソーシアム』



《プログラムの企画運営》

- 官民においてプログラムを提供
- 内容：課題等の共有、認識のためのワークショップや体験活動等

《高等学校の活動との連携・協働》

- 地域における活動を通じた探究的な学びの実現
- 学校の中だけではできない多様な社会体験の推進

【実施方針】

安全・安心に実施するために、感染症防止対策を講じたうえで実施。

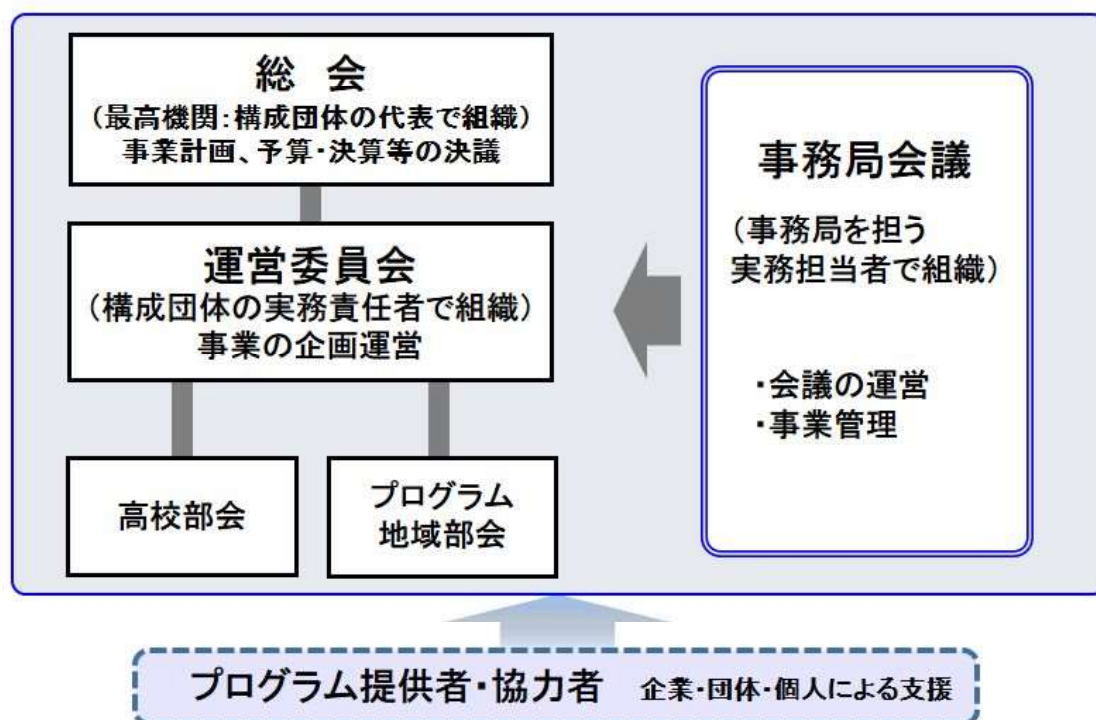
令和3年度からは、「尾花沢キャンパス」が加わる。

・ 北村山高等学校 ・ 尾花沢市 ・ 村山総合支庁 北村山地域振興局



新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム組織体制

(イメージ)





新庄・最上ジモト大学

に寄せて



地域の生命線は「賢い若者」の育成にあり！

大正大学地域創生学部

教授 浦崎 太郎

高校と地域の連携・協働は、一朝一夕に進展するものではない。期待とは裏腹に、面倒な事態が多発するからだ。そのため、せっかく連携を始めたものの、停滞や衰退を余儀なくされた現場は少なくない。そうした傾向も見受けられる中、新庄・最上地域は別格の存在といえる。紆余曲折を経ながらも、長い年月をかけて着実に進化を遂げてきたからだ。

実は、そうした最上地域だからこそ挑みうる次のステージがある。違和感を覚える方も多いと思うが、それは「高い学力をもつ、賢い若者の育成」である。

これまで「学力向上」というと「偏差値アップ→都市部への流出」というイメージがつきまとい、地方にとっては大敵だとさえ考えられてきた。しかし、少し考えれば、高校生本人のキャリア形成や地域の持続可能性向上にとって、本当に大切なのは「専門家と意思疎通をはかって仕事をできる学力」をつける教育だと分かる。

実は近年、地方創生に関わりをもつ在京企業の人たちは「互恵的な事業を提案しようとしても、地方の人たちが十分な専門性を持ち合わせていないために、意思疎通がうまくいかず、撤退せざるをえない場合も少なくない」という旨の実態を異口同音に語っている。

では、専門性とは何か。それは、様々な教科の「見方・考え方」を実社会・実生活で活用できる力のことだ。例えば、牛糞を見たとき、一般人は「排泄物」という見方しかできない。それに対して、専門家は「牛糞といえば、もとは食物だから成分元素は炭素・水素・酸素である」という見方ができ、その先「プロパンやエタノールなどの燃料も成分元素は同じだから、牛糞を上手に発酵させるとメタンなどの燃料が発生し、これを燃やして発電できるかもしれない」という考え方ができる。となれば、前者が後者の会話に入っていけないことは容易に想像できよう。こうした分断が、既に地方と都会の間で起こっているわけだ。それは、都会に出て専門性を高めた若者が「地元には仕事がない」と語るのも、この文脈で理解する必要があることを示唆している。愛郷心を高めて済む話ではないのだ。

となれば、具体的に何をすればよいか。まず、地域の側で高校生一人ひとりにマイプロジェクトを応援する。それを高校の側が引き受け、教科の「見方・考え方」を高める教育を施す。現場で豊富な体験を積んでいけば、難解な内容にも必ずや理解が及ぶだろう。そして再び地域が引き受け、高校で身につけた「見方・考え方」を現場で発揮するのを促す、という流れだ。こうすれば、より深く学ぶべき意義も実感でき、総合型選抜等で大学へ進学し、より高度な専門性を習得できる可能性も高まる。また、学校で身につけた「見方・考え方」をマイプロジェクトで発揮できた経験は、「地元に戻っても高い専門性を発揮できる」という感触の向上につながり、将来、専門家として地元に戻ったり、強力な関係人口として地元に貢献したりといった選択へとつながりうる。

たしかにハードルは高い。だからこそ、最上地域に突破口を開くことが期待されるわけだ。こうした未来に向けて、皆さんが新たな一歩を踏み出すことを願い、結びとしたい。

みすか
『自ら動くこと』の大切さ

学校法人新庄学園 新庄東高等学校
教頭 加藤 義広

「高校生が旅立つ前に学ぶコト」、「地域の大人と高校生が、地域のことを本気で語り交流する場づくり」を主題にスタートした新庄・最上ジモト大学は、8年目を迎えようとしています。年々プログラムは充実し、各市町村や協力団体からご提供いただいた講座から、多くの高校生が学ばせていただきました。近年は、高校生が自ら企画したプログラムも開催されており、とても意義あることだと感じています。

さて、皆さんは、”アントレプレナーシップ”をご存じでしょうか？アントレプレナーシップは、「起業家精神・活動」と訳されています。起業というのは、「新しいサービスや製品を考案すること」、また「埋もれている既存のサービスや製品を組み合わせることによって、より新しい価値を創造する」ことです。コロナ禍を経て、社会の働き方の多様化に伴い注目度も高まっており、さらには、地域の課題を解決する一つの方法としても知られるようになってきました。

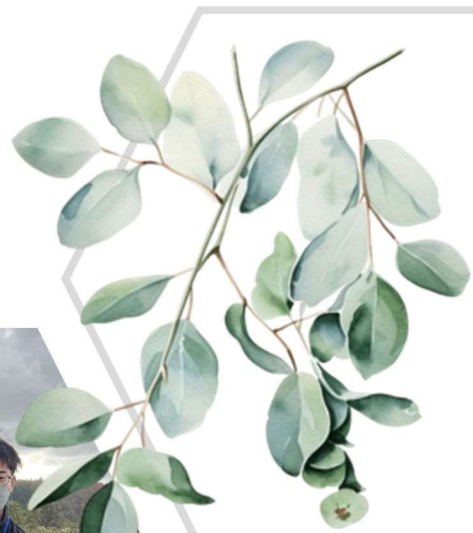
新庄東高校では、この春からアントレプレナーシップを教育の中心に据えたコースをスタートします。しかし、本校のこのコースは、単なる起業家を育成するためのコースではありません。校訓「自らの手で人生を開拓しよう」を具現化するために、自ら動き、周りを巻き込みながら、本校を、さらには最上地域を先導できるコースにしたいと考えています。

高校生の皆さんは、これからの人生を歩む中で様々な課題に直面すると思います。その時にどのように考え、判断し、行動に移していきますか？無理難題であっても、はじめから「これは、できないよね。しかたがないよね。」で終わるのではなく、自分の持っている知識や経験をもとに「こうやったら、どうかな。こうすれば、できるのではないかな。」と様々な方法を模索し、実際に行動に移すことが大切となってきます。結果的に、むしろ失敗することの方が多くなるかもしれませんが、たくさんのトライ＆エラーを重ねて徐々に軌道を修正していくことが正解に近づいていく唯一の方法です。何も動くことなく、後から「あの時、やっておけば良かった。」と後悔するよりも、「挑戦してうまくいかなかったけれども、次はこの方法を試してみよう。」というマインドが大切なのです。そして、このスモールステップを積み重ねていくことが「どんな未来を、自分の手で作り出したいのか。」というアントレプレナーシップの土台を育むことになります。また、もう一つ大事なことは、自分の考えに共感してくれる仲間をつくることです。対話をし、一緒に考えることで新しいアイデアが生まれたり、一人ではできなかったことができるようになったりします。対話と共感には、人を動かす大きなエネルギーが蓄えられているのです。

新庄・最上ジモト大学には、立場の異なる多くの方々と交流があり、アントレプレナーシップを養う貴重な場となっています。また、プログラムを提供する方々も、企画の段階で地域の身近な題材をはじめから見つめ直すことが再評価につながり、新たな発見も生まれています。最上地域の次の世代をつくる高校生が、いずれはこの地に戻り、自分たちの手で新たな魅力ある地域を創り、盛り上げていこうという一つの機会になることを願っています。

令和 5 年度

事業報告



新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム 令和5年度事業一覧

1. ジモト大学プログラムの実施

(1) 実施プログラム数及び参加者数

- ・39プログラム（ジモト大学サポーター活用プログラムを含む）
- ・844名

※各プログラムの実施状況については、P.19～P.58 のとおり

(2) 「ジモト大学サポーター」を活用したプログラムの実施

①高校生が主体的に企画・運営するプログラムの実施数 2プログラム

- ・新庄・最上を盛り上げる「Fiesta Festa2023」（新庄 TCM(株)協力）
- ・いつもの街並み、目隠ししたらどう見える？（たんぽぽくらぶ提供）

②プログラム提供者の働きかけによる企業連携プログラムの実施数 3プログラム

- ・高校生モニター募集！（グラッシーデザイン(株)提供、地元菓子店が協力）
- ・新庄・もがみ SDGs 体験ツアー（㈱ヌマザワ提供、地元企業が協力）
- ・モンナッツ（スイーツ）で商品開発しよう！（新庄信用金庫提供、地元菓子店が協力）

2. 事業への相互理解を図る取組み

(1) 「新庄・最上ジモト大学ミーティング 2023」

日 時：令和5年12月23日（土）13:30～16:00

場 所：ゆめりあ 2階 会議室

参加者：約70名

① ジモト大学の紹介

② 【第1部】プログラム参加者等によるトークセッション

高校生がプログラムやプロジェクトを始めたきっかけや進める中での苦労、そこに同世代や地域の大人がどのように関わっていたかを紐解きながら紹介。

○モデレーター 東北芸術工科大学 コミュニティデザイン学科

専任講師 牛木 力氏

○発表者

・新庄・最上を盛り上げる「Fiesta Festa2023」

新庄東高等学校2年 小向 倖愛さん

新庄 TCM 株式会社 角田 歩さん

・いつもの街並み、目隠ししたらどう見える？

新庄北高等学校2年 渡邊 水晶さん

たんぽぽくらぶ事務局 伊藤 洋一さん

・真室川でナビゲーションスポーツをするには

新庄北高等学校2年 高橋 義さん（当日欠席）

新庄北高等学校探究推進課長 森谷 真美さん



③【第2部】ワールドカフェ形式による意見交換会

第1部の感想等を共有しながら、これからのジモト大学について、高校生・教員・地域の大人がグループになり、意見交換を実施。

テーマ「高校生も大人もワクワクするジモト大学にしていけるには」

(2) 新庄・最上ジモト大学オープンキャンパス

①新庄・最上ジモト大学オープンキャンパス 2023

最上地域の小中高生、保護者へのジモト大学の認知拡大、取組みの周知。新庄市教育の日「コスモスデー」と同時開催。

- ・日にち：令和5年11月11日（土）
- ・場 所：新庄市民プラザ 2階 ロビー・ギャラリー
- ・内 容：
 - ジモト大学紹介パネル等の展示
 - プログラムに参加した高校生がレクチャーするプログラムの疑似体験ブースの設置
 - ・高校生が教える手話体験
 - ・モルック体験で健康に！
 - ・障がいの感覚体験



②パネル展示

地域住民へのジモト大学の認知拡大、取組みの周知。

- ・日にち：令和6年2月26日（月）～3月1日（金）
- ・場 所：ゆめりあ 花と緑の交流広場
- ・パネル作成協力：東北芸術工科大学



3. ジモト大学の管理運営

(1) 総会

日時：令和5年4月13日（木）13:30～15:00

場所：最上総合支庁 5階 講堂

【議事】

- ・令和4年度事業報告及び収支決算
- ・令和5年度運営方針及び事業計画、収支予算
- ・運営委員の選任について

【各団体からの状況報告、意見交換】

- ・新庄商工会議所
- ・新庄南高等学校
- ・東北芸術工科大学



(2) 運営委員会

①第1回

日時：令和5年5月25日（木）10:00～11:15

場所：雪の里情報館 2階 雪国文化ホール

【協議・報告】

- ・運営委員長の選出について
- ・令和5年度運営方針等について
- ・令和5年度ジモト大学ポスター・パンフレットについて

【情報提供】

- ・最上総合支庁地域産業経済課から「高校生の就学・就業に関する意識調査」（令和4年度実施）の結果について」

②第2回

日時：令和6年2月28日（水）13:30～14:30

場所：雪の里情報館 2階 雪国文化ホール

【協議】

- ・令和5年度の事業報告及び収支決算について
- ・令和6年度運営方針及び事業計画、収支予算について

(3) ジモト大学説明会

日時：令和5年6月19日（月）～7月11日（火）

場所：最上管内、尾花沢市の高校において実施

【内容】

- ・ジモト大学の趣旨説明
- ・Web 申込システムへのユーザー登録方法の説明
- ・プログラム内容の紹介



(4) プログラムの質の向上を図る勉強会

日時：令和5年7月14日（金）10:00～11:45

場所：新庄市エコロジーガーデン 多目的ホール

①【第1部】講話・パネルディスカッション

「遊佐町少年議会」の取組みから、若者の興味・関心や考え方を尊重した大人の関わり方や、高校生の学びを深めるための工夫等について学ぶ。

- ・テーマ「高校生のモチベーションを高めるプログラムにするためには」

- ・モデレーター 東北芸術工科大学デザイン工学部
コミュニティデザイン学科 専任講師 牛木 力氏

- ・ゲスト 遊佐町教育委員会教育課 風間 雅文氏
東北芸術工科大学 3年 齋藤 愛彩さん

（遊佐町少年議会少年町長経験者）

②【第2部】参加者による情報交換

今年度実施するプログラムの紹介。工夫した点、昨年度からの改善点などを共有。

(5) 高校部会

①第1回

日時：令和5年5月25日（火）11:25～12:00

場所：雪の里情報館 2階 雪国文化ホール

②第2回

日時：令和5年10月10日（火）10:00～12:00

場所：雪の里情報館 2階 視聴覚研究室

(6) ジモト大学に関する相談対応

- ・プログラム終了後の地域活動に対する伴奏支援
- ・山形県議会総務常任委員会の現地調査対応



4. 情報発信

(1) パンフレット・ポスターの作成について

- ・高校生のアイデアを取り入れたパンフレット・ポスターを作成
表紙デザイン：新庄北高校 2年 阿部 薫人さん

- ・作成部数

パンフレット 5,500部、ポスター 200部



(Facebook)

(2) SNS等での情報発信

- ・プログラムの様子やコンソーシアム事業について随時発信



SHINJO.MOGAMI.JIMOTODAIKAKU

(Instagram)

(3) 最上管内中学校・義務教育学校パネル巡回展示

- ・中学生にジモト大学の取り組みを紹介

日にち：9月～2月 各校1週間程度

実施校：最上管内中学校・義務教育学校 12校



令和5年度は、公益信託荘内銀行ふるさと創造基金の助成を受け、高校生が主体的に企画・運営するプログラムの実施経費等に活用させていただき、事業を実施いたしました。



ジモト大学って何？

地域の大人と高校生が、地域のことを本気で語り、学び、交流する場、それが「新庄・最上ジモト大学」です。

「高校生が旅立つ前に学ぶこと」をキャッチフレーズに、学校だけでは学べない「ヒト・モノ・コト」を体験できるよう、地域一丸となってプログラムを作り上げています。

高校生が“やりたい”を自ら提案しプログラムを立ち上げ、チャレンジすることできます

[グラドルール]

大人と高校生が守るべき共有ルール

③ 地元のことをよく知ろう！

④ もっと自分から積極的に語ろう！

⑤ ともに本気で学ぼう！

注意事項

1. プログラムが変更または中止になる場合があります。詳しくはQRコードを読み取り確認もしくは問合せ先までご連絡ください。
2. WEB会議システム（ZOOM等）を利用することがあります。操作方法がわからない場合は問合せ先までご相談ください。
3. 体調がすぐれない場合は、プログラムへの参加はお控えください。やむを得ず欠席する場合は、事務局まで連絡をお願いします。

個人情報の取扱い
1. 個人情報については、個人情報保護法及びその他関係する法令等を遵守します。
2. 利用者の同意なく、個人情報の目的外利用及び第三者への個人情報の提供はいたしません。

探す。ジモトで、花を。

高校生が旅立つ前に学ぶことに

新庄・最上ジモト大学2023開校

学校では学べない。在学中に学んでおきたいヒト・モノ・コトを地域の大人と学ぶ機会が今年もスタート

主催：新庄・最上ジモト大学実行委員会 関係者：学生、教職員、地域住民など
TEL: 0186-82-2248(90) E: jimoto@shimoda.ac.jp 事務局：山形県最上高等学校 教務課 事務局：山形県最上高等学校 教務課
デザイン協力：新庄市役所 地域課

Instagram Facebook 公式WEB

自分と人生、
好きなように
やろう！

咲かす。ジモトの、花を。

SHINJO-MOGAMI
JIMOTO
DAIGAKU

地元大学

掲載の地。今年度はプレプログラムとして
プログラムを実施です
プログラム提供者：東京電力リニューアブルパワー株式会社
※規定 NPO 法人 IY / いづれも 4/18 実施済

大人と高校生の

グランドルール

(参加者が守るべき共有するルール！)

地元大学

SHINJO-HIGASHI
JIMOTO
DAIGAKU



地元のことを
よく知ろう！



もっと自分から
積極的に語ろう！

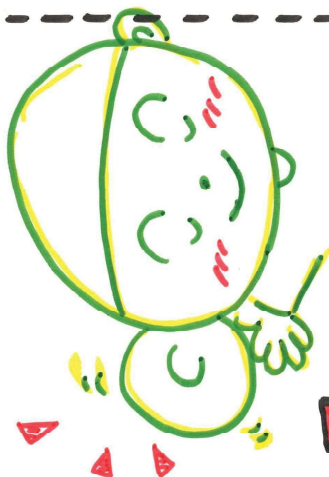


ともに本気で
学ぼう！

グランドルール LOVE のルール

①よく聞こう！
聴こう！！

②心を聞こう！

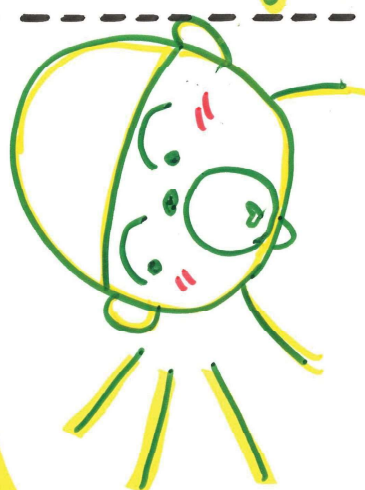


Listen

pen

③声を出そう！

④楽しもう！



Voice

Enjoy

令和5年度 新庄・最上ジモト大学プログラム 参加者数（高校別・延べ人数）

	開催者 (所属)	カテゴリ	プログラム名	開催時期	開催場所	定員	参加者数 合計	新庄北	新庄北 最上校	新庄南	新庄南 金山校	神室産業	神室産業 真室川校	新庄東	北村山	その他
1	新庄市	体験・ フィールド ワーク	新庄歴まち 謎解きウォークラリー	10/1(日)9:00～12:00	新庄市役所、 新庄城址周辺	20	16	8		5				3		
2	新庄市	課題発 見・解決	語りつくそう！自分たちの 暮らす地域について	9/30(土)13:30～15:30	新庄市民プラザ 小 ホール	15	21	21								
3	新庄市	キャリア	「手で話そう」～手話通訳 という資格を知ろう～	①8/5(土)10:00～12:00	新庄市民プラザ	20	14	4		2				8		
				②9/2(土)10:00～12:00		20	12	7						5		
4	金山町	体験・ フィールド ワーク	モルック&ノルディック ウォーク！北欧スポーツ で健康に！	①8/4(金)9:30～11:30	金山町農村環境改 善センター		0	中止								
				②8/11(金)9:30～11:30		20	16	7						9		
5	最上町	体験・ フィールド ワーク	モノづくりの面白さ～「好 き」を仕事に～	10/22(日)10:00～12:00	前森高原自然ふれ あい陶芸館「カムロ 窯」	10	10			5				5		
6	舟形町	キャリア	あつまれ ミライの公務員	①8/2(水)10:00～15:00	舟形町役場	6	5	2		1				1		1
				②8/3(木)10:00～14:00		6	2	1		1						
7 ブレ	真室川町	体験・ フィールド ワーク	ものづくりジモト	①6/23(金)13:00～16:00	真室川町駅前商店 街周辺		0	中止								
				②6/24(土)10:00～16:00		30	23			2		1	20			
				③6/25(日)10:00～15:00			0	中止								
8	大蔵村	キャリア	役場の仕事をみてみよう！	3/16(土)13:00～16:30	大蔵村役場、肘折 温泉いでゆ館前広 場		0	中止								
9	鮭川村	体験・ フィールド ワーク	鮭の食べ方しって？	11/11(土)8:00～12:15	鮭川、 鮭川村役場等	4	3	2						1		
10	戸沢村	体験・ フィールド ワーク	目指せそば職人！～そば 打ち体験～	9/30(土)10:00～13:00	戸沢村農村環境改 善センター	6	8							8		
11	尾花沢市	体験・ フィールド ワーク	尾花沢、最高！アクティブ に活躍する大人と楽しむイ ベントづくり！	1/20(土)10:30～15:00	尾花沢市花笠ふれ あいセンター、スノー ランド	10	8	1						7		
12	尾花沢市	体験・ フィールド ワーク	ヨット体験&イベント運営に チャレンジ ー徳良湖が作 る歴史とドラマー	①8/9(水)8:40～12:00	徳良湖ヨット倶楽部	10	7	1		4				2		
				②8/12(土)8:30～15:00		10	2							2		
13	尾花沢市	課題発 見・解決	尾花沢からのSOS！私た ちの防災チャレンジ	①8/17(木)13:30～15:30	北村山高等学校	40	21								21	
				②10/5(木)13:30～15:30		40	29								29	
14	最上総合支庁	キャリア	しごと……～若手従業 員のリアルなお話～	7/21(金)13:45～15:35	①新庄南高等学校 金山校	45	24				24					
15				7/24(月)13:25～15:15	②新庄北高等学校	150	107	107								
16				9/20(水)15:50～17:20	③新庄神室産業高 等学校	40	26					26				
17				10/19(木)13:25～15:15	④新庄南高等学校	30	59			59						
18				10/27(金)13:20～15:10	⑤新庄東高等学校	100	27							27		
19				11/16(木)13:20～15:20	⑥新庄北高等学校 最上校	40	33		33							
20				1/19(金)9:30～11:20	⑦新庄神室産業高 等学校真室川校	20	10						10			
21	最上総合支庁	キャリア	聞いてみよう！最上の医 療・福祉のはなし	8/7(月)13:45～16:00	新庄市民プラザ	70	13	8		4				1		
22	最上総合支庁	キャリア	最上の暮らしを守る最前 線！医療現場見学会	①8/8 (火) 14:00～16:00	医療法人徳洲会新 庄徳洲会病院	20	8	2		5				1		
				②8/9 (水) 14:00～16:00		20	5							5		
23	最上総合支庁	キャリア	ふるさとをまもり未来をつ くる土木技術者たちのはな し	10/26(木)10:00～12:20	新庄神室産業高 等学校	50	21					18		3		
24	最上教育事務 所	課題発 見・解決	Youは何する？最上(てっ ぺん)で！	①7/28(金)17:30～19:00	ゆめりあ		0	中止								
				②8/18(金)17:30～19:00	オンライン会議	15	2									2
				③10/14(土)9:30～16:00	新庄駅～最上町内	15	2					1				1
				④11/5(日)9:00～15:00	最上総合支庁舎調 理室	10	2									2
				⑤2/3(土)9:00～16:00	ゆめりあ	15	9	5						2		2

	開催者 (所属)	カテゴリ	プログラム名	開催時期	開催場所	定員	参加者数 合計	新庄北	新庄北 最上校	新庄南	新庄南 金山校	神室産業	神室産業 真室川校	新庄東	北村山	その他
25	最上小国川鮎 釣り甲子園大 会実行委員会	体験・ フィールド ワーク	鮎釣り甲子園～最上小国 川の文化に触れる～	7/29(土)8:00～13:00	最上小国川 下白 川橋付近 おらだの 川公園(最上町)	30	25	4		2				18		1
26	グラッシーデザ イン株式会社	体験・ フィールド ワーク	高校生モニター募集!	8/8(火)13:00～15:00	雪の里情報館 雪国 文化ホール	30	24	14		2				7	1	
27	株式会社JPD	体験・ フィールド ワーク	ゆめりあマルシェを一緒に 盛り上げよう!	①10/27(金)13:30～15:30 ②11/26(日)8:00～15:00	最上広域交流セン ター「ゆめりあ」	4	7							7		
							0		中止							
28	株式会社JPD	体験・ フィールド ワーク	未来創造戦士ユメリオン のステージを創ろう	①9/3(日)10:00～14:00 ②9/16(土)14:00～16:20 ③9/17(日)9:00～13:20	最上広域交流セン ター「ゆめりあ」	4	2							2		
						4	4							4		
						4	4							4		
29	株式会社スマ ザワ	体験・ フィールド ワーク	新庄・もがみSDGs体験ツ アー	8/3(木)9:00～17:00	(株)スマザワ、旧明 安小学校、もがみバ イオマス発電(株)	10	8							8		
30	ユニクロ 新庄 店	キャリア	世界2位のアパレル企業、 ユニクロのここがすごい!	①8/19(土)8:30～11:00 ②8/20(日)8:30～11:00	ユニクロ新庄店	10	10	3		2				5		
						10	10			1				9		
31	株式会社宮城	体験・ フィールド ワーク	今年のお祭りは浴衣で出 掛けよう! 着物男子も大 歓迎!	①8/6(日)10:30～12:00 ②8/20(日)10:30～12:00	呉服のみやぎ	10	11	5		2				4		
						10	11	1		1				9		
32	新庄TCM株式 会社	課題発 見・解決	新庄・最上を盛り上げる 「Fiesta Festa2023」	①7/17(月)16:00～17:30 ②7/23(日)15:00～17:00 ③8/19(土)10:00～18:00 ④2/24(土)10:00～18:00 ⑤2/25(日)10:00～18:00	こらっせ新庄 Fiesta	20	5		2			1		2		
						20	10	1		3				6		
						20	21	3		2		1		15		
						20	4	1						2		1
						20	10							9		1
33 ブレ	東京電力リ ニューアブルバ ワー株式会社	キャリア	「18歳のリアル」ジブンとエ ネルギー 社会のあした	4/18(火)13:25～16:15	新庄北高等学校	40	38	38								
34 ブレ	認定NPO法人 IVY	課題発 見・解決	世界、日本で起きているこ と～探究型学習に向けて～	4/18(火)8:50～11:40	新庄北高等学校	40	38	38								
35	認定NPO法人 IVY	課題発 見・解決	捨てる前に考えよう! ファッションと地球環境の 関係	9/9(土)14:00～16:00	雪の里情報館	20	6							6		
36	高校生地域開 発チーム WATS	体験・ フィールド ワーク	ライブ配信にチャレンジ!	7/23(日)13:00～17:00	スタイルハート	10	6	2						4		
37	地域活動グ ループ よりみ ちくら部	体験・ フィールド ワーク	自分だけの「ない本」を考 えよう!	①7/30(日)10:00～16:00 ②8/6(日)10:00～16:00	新庄市エコロジ ーガーデン	12	7							7		
						12	6			4				2		
38	たんぽぽくらぶ	体験・ フィールド ワーク	いつもの街並み、目隠しし たらどう見える?	①8/12(土)10:00～16:00 ②8/27(日)10:00～16:00 ③11/11(土)13:30～16:00	新庄市民プラザ		0		中止							
							0		中止							
						12	14	12						2		
39	新庄信用金庫	課題発 見・解決	モンナッツ(スイーツ)で商 品開発しよう!	①9/9(土)10:00～14:00 ②11/19(日)8:30～15:30	新庄信用金庫 本 店敷地内 レキシント ン新庄、新庄市・金 山町内フィールド等	10	7	1						6		
						10	7	5		1				1		
40	やまがた農業 女子ネットワー ク あぐっと	体験・ フィールド ワーク	最上の野菜をプロデュ ースしよう! 最上、農業女 子会。	9/10(日)9:00～15:00	新庄市エコロジ ーガーデン	10	4	2						2		
合計						1309	844	306	33	110	24	48	30	231	51	11

令和5年度 新庄・最上ジモト大学プログラム 参加者数（市町村別・延べ人数）

	開催者 (所属)	カテゴリ	プログラム名	開催時期	開催場所	定員	参加者数 合計	新庄市	金山町	最上町	舟形町	真室川町	大蔵村	鮭川村	戸沢村	尾花沢市	その他
1	新庄市	体験・フィールドワーク	新庄歴まち 謎解きウォークラリー	10/1(日)9:00～12:00	新庄市役所、新庄城址周辺	20	16	6		2		3	1	1	3		
2	新庄市	課題発見・解決	語りつくそう！自分たちの暮らし地域について	9/30(土)13:30～15:30	新庄市民プラザ ホール	15	21	10	4	4					2		1
3	新庄市	キャリア	「手で話そう」～手話通訳という資格を知ろう～	①8/5(土)10:00～12:00	新庄市民プラザ	20	14	10		1			1	1			1
				②9/2(土)10:00～12:00		20	12	8		2				1			1
4	金山町	体験・フィールドワーク	モルック&ノルディックウォーク！北欧スポーツで健康に！	①8/4(金)9:30～11:30	金山町農村環境改善センター		0	中止									
				②8/11(金)9:30～11:30		20	16	6	1	4	1	2		1			1
5	最上町	体験・フィールドワーク	モノづくりの面白さ～「好き」を仕事に～	10/22(日) 10:00～12:00	前森高原自然ふれあい陶芸館「カムロ窯」	10	10	8		2							
6	舟形町	キャリア	あつまれ ミライの公務員	①8/2(水)10:00～15:00	舟形町役場	6	5	2			1					2	
				②8/3(木)10:00～14:00		6	2	1			1						
7 フレ	真室川町	体験・フィールドワーク	ものづくりジモト	①6/23(金)13:00～16:00	真室川町駅前商店街周辺		0	中止									
				②6/24(土)10:00～16:00		30	23	4				13	1	3	2		
				③6/25(日)10:00～15:00			0	中止									
8	大蔵村	キャリア	役場の仕事をみてみよう！	3/16(土)13:00～16:30	大蔵村役場、肘折温泉いでゆ館前広場		0	中止									
9	鮭川村	体験・フィールドワーク	鮭の食べ方しってる？	11/11(土)8:00～12:15	鮭川、鮭川村役場等	4	3	2			1						
10	戸沢村	体験・フィールドワーク	目指せそば職人！～そば打ち体験～	9/30(土)10:00～13:00	戸沢村農村環境改善センター	6	8	3		1	1	1	1	1			
11	尾花沢市	体験・フィールドワーク	尾花沢、最高！アクティブに活躍する大人と楽しむイベントづくり！	1/20(土)10:30～15:00	尾花沢市花笠ふれあいセンター、スノーランド	10	8	6	1	1							
12	尾花沢市	体験・フィールドワーク	ヨット体験&イベント運営にチャレンジ ―徳良湖が作る歴史とドラマ―	①8/9(水)8:40～12:00	徳良湖ヨット倶楽部	10	7	4			2				1		
				②8/12(土)8:30～15:00		10	2		2								
13	尾花沢市	課題発見・解決	尾花沢からのSOS！私たちの防災チャレンジ	①8/17(木)13:30～15:30	北村山高等学校	40	21	3		1	2					7	8
				②10/5(木)13:30～15:30		40	29	1								14	14
14	最上総合支庁	キャリア	しごきワーク～若手従業員のリアルなお話～	7/21(金)13:45～15:35	①新庄南高等学校金山校	45	24	11	13								
15				7/24(月)13:25～15:15	②新庄北高等学校	150	107	55	11	13	7	6	2	4	5	1	3
16				9/20(水)15:50～17:20	③新庄神室産業高等学校	40	26	11	3	4		3	2	1	2		
17				10/19(木)13:25～15:15	④新庄南高等学校	30	59	33	3	2	2	5	6	3	5		
18				10/27(金)13:20～15:10	⑤新庄東高等学校	100	27	13	3	4	2		2				3
19				11/16(木)13:20～15:20	⑥新庄北高等学校最上校	40	33	3		11	1	1	2			9	6
20				1/19(金)9:30～11:20	⑦新庄神室産業高等学校真室川校	20	10	1				6		2	1		
21	最上総合支庁	キャリア	聞いてみよう！最上の医療・福祉のはなし	8/7(月)13:45～16:00	新庄市民プラザ	70	13	7		1	1		2		1	1	
22	最上総合支庁	キャリア	最上の暮らしを守る最前線！医療現場見学会	①8/8 (火) 14:00～16:00	医療法人徳洲会新庄徳洲会病院	20	8	3		2	1		1		1		
				②8/9 (水) 14:00～16:00		20	5	2				1	1	1			
23	最上総合支庁	キャリア	ふるさとをまもり未来をつくる土木技術者たちのはなし	10/26(木)10:00～12:20	新庄神室産業高等学校	50	21	7	5	2		4	1		1	1	
24	最上教育事務所	課題発見・解決	Youは何する？最上(てっぺん)で！	①7/28(金)17:30～19:00	ゆめりあ		0	中止									
				②8/18(金)17:30～19:00	オンライン会議	15	2	2									
				③10/14(土)9:30～16:00	新庄駅～最上町内	15	2	2									
				④11/5(日)9:00～15:00	最上総合支庁舎調理室	10	2	2									
				⑤2/3(土)9:00～16:00	ゆめりあ	15	9	6	1	1						1	

	開催者 (所属)	カテゴリ	プログラム名	開催時期	開催場所	定員	参加者数 合計	新庄市	金山町	最上町	舟形町	真室川町	大蔵村	鮭川村	戸沢村	尾花沢市	その他
25	最上小国川鮎 約り甲子園大会 実行委員会	体験・ フィールド ワーク	鮎約り甲子園～最上小国川 の文化に触れる～	7/29(土)8:00～13:00	最上小国川 下白川橋 付近 おらだの川公園 (最上町)	30	25	9	4	4		2	1	1		2	2
26	グラッシーデザ イン株式会社	体験・ フィールド ワーク	高校生モニター募集！	8/8(火)13:00～15:00	雪の里情報館 雪国文 化ホール	30	24	15	1	2	1	1	1	1		2	
27	株式会社JPD	体験・ フィールド ワーク	ゆめりあマルシェと一緒に盛り 上げよう！	①10/27(金)13:30～15:30 ②11/26(日)8:00～15:00	最上広域交流センター 「ゆめりあ」	4	7	4	1			1		1			
							0	中止									
28	株式会社JPD	体験・ フィールド ワーク	未来創造戦士ユメリオンのス テージを創ろう	①9/3(日)10:00～14:00 ②9/16(土)14:00～16:20 ③9/17(日)9:00～13:20	最上広域交流センター 「ゆめりあ」	4	2		1	1							
						4	4		1	1	1					1	
						4	4		1	1	1					1	
29	株式会社ヌマ ザワ	体験・ フィールド ワーク	新庄・もがみSDGs体験ツ アー	8/3(木)9:00～17:00	(株)ヌマザワ、旧明安 小学校、もがみバイオ マス発電(株)	10	8	3	1	2	1					1	
30	ユニクロ 新庄 店	キャリア	世界2位のアパレル企業、ユ ニクロのここがすごい！	①8/19(土)8:30～11:00 ②8/20(日)8:30～11:00	ユニクロ新庄店	10	10	6	2			1				1	
						10	10	2		4		2	1			1	
31	株式会社宮城	体験・ フィールド ワーク	今年のお祭りは浴衣で出掛け よう！ 着物男子も大歓迎！	①8/6(日)10:30～12:00 ②8/20(日)10:30～12:00	呉服のみやぎ	10	11	7	1			2	1				
						10	11	1	4	4				1	1		
32	新庄TCM株式 会社	課題発見・ 解決	新庄・最上を盛り上げる 「Fiesta Festa2023」	①7/17(月)16:00～17:30 ②7/23(日)15:00～17:00 ③8/19(土)10:00～18:00 ④2/24(土)10:00～18:00 ⑤2/25(日)10:00～18:00	こらっせ新庄 Fiesta	20	5	4		1							
						20	10	6		3	1						
						20	21	13	1	2	3			1		1	
						20	4	3	1								
						20	10	5	1	2		1				1	
33	東京電力リ ニューアルパ ワー株式会社	キャリア	「18歳のリアル」ジブンとエネ ルギー社会のあした	4/18(火)13:25～16:15	新庄北高等学校	40	38	26	1	2	1	4	1	1	1		1
34	認定NPO法人 IVY	課題発見・ 解決	世界、日本で起きていること ～探究型学習に向けて～	4/18(火)8:50～11:40	新庄北高等学校	40	38	26	1	2	1	4	1	1	1		1
35	認定NPO法人 IVY	課題発見・ 解決	捨てる前に考えよう！フアッ ションと地球環境の関係	9/9(土)14:00～16:00	雪の里情報館	20	6	5		1							
36	高校生地域開 発チームWATS	体験・ フィールド ワーク	ライブ配信にチャレンジ！	7/23(日)13:00～17:00	スタイルハート	10	6	2	1	1						2	
37	地域活動グ ループ よりみち くら部	体験・ フィールド ワーク	自分だけの「ない本」を考えよ う！	①7/30(日)10:00～16:00 ②8/6(日)10:00～16:00	新庄市エコロジーガー デン	12	7	3		1				1	1	1	
						12	6	3					2		1		
38	たんぽぽくらぶ	体験・ フィールド ワーク	いつもの街並み、目隠ししたら どう見える？	①8/12(土)10:00～16:00 ②8/27(日)10:00～16:00 ③11/11(土)13:30～16:00	新庄市民プラザ		0	中止									
							0	中止									
						12	14	8	3	1				1			1
39	新庄信用金庫	課題発見・ 解決	モンナッツ(スイーツ)で商品 開発しよう！	①9/9(土)10:00～14:00 ②11/19(日)8:30～15:30	新庄信用金庫 本店敷 地内 レキシンオン新 庄、新庄市・金山町内 フィールド等	10	7	1	1	3						1	1
						10	7	5								2	
40	やまがた農業女 子ネットワーク あぐつと	体験・ フィールド ワーク	最上の野菜をプロデュースし よう！ 最上、農業女子会。	9/10(日)9:00～15:00	新庄市エコロジーガー デン	10	4	2	1		1						
合計						1309	844	391	73	98	34	63	31	28	29	53	44

令和5年度 新庄・最上ジモト大学プログラム 参加者数（高校別・実人数）

	生徒数（R5.5.1現在）				参加生徒数（実人数）				参加率			
	学年	男	女	計	学年	男	女	計	学年	男	女	計
新庄北高	1年	60	47	107	1年	60	47	107	1年	100.0%	100.0%	100.0%
	2年	71	64	135	2年	26	20	46	2年	36.6%	31.3%	34.1%
	3年	83	67	150	3年	1	14	15	3年	1.2%	20.9%	10.0%
	計	214	178	392	計	87	81	168	計	40.7%	45.5%	42.9%
新庄北高 （最上校）	学年	男	女	計	学年	男	女	計	学年	男	女	計
	1年	8	10	18	1年	6	7	13	1年	75.0%	70.0%	72.2%
	2年	3	6	9	2年	3	5	8	2年	100.0%	83.3%	88.9%
	3年	6	6	12	3年	6	6	12	3年	100.0%	100.0%	100.0%
	計	17	22	39	計	15	18	33	計	88.2%	81.8%	84.6%
新庄南高	学年	男	女	計	学年	男	女	計	学年	男	女	計
	1年	18	45	63	1年	18	41	59	1年	100.0%	91.1%	93.7%
	2年	26	53	79	2年	6	18	24	2年	23.1%	34.0%	30.4%
	3年	43	52	95	3年	0	8	8	3年	0.0%	15.4%	8.4%
	計	87	150	237	計	24	67	91	計	27.6%	44.7%	38.4%
新庄南高 （金山校）	学年	男	女	計	学年	男	女	計	学年	男	女	計
	1年	6	2	8	1年	2	1	3	1年	33.3%	50.0%	37.5%
	2年	6	6	12	2年	5	6	11	2年	83.3%	100.0%	91.7%
	3年	6	7	13	3年	3	7	10	3年	50.0%	100.0%	76.9%
	計	18	15	33	計	10	14	24	計	55.6%	93.3%	72.7%
新庄神室産業高	学年	男	女	計	学年	男	女	計	学年	男	女	計
	1年	61	28	89	1年	1	0	1	1年	1.6%	0.0%	1.1%
	2年	47	28	75	2年	18	26	44	2年	38.3%	92.9%	58.7%
	3年	52	30	82	3年	0	0	0	3年	0.0%	0.0%	0.0%
	計	160	86	246	計	19	26	45	計	11.9%	30.2%	18.3%
新庄神室産業高 （真室川校）	学年	男	女	計	学年	男	女	計	学年	男	女	計
	1年	5	2	7	1年	5	2	7	1年	100.0%	100.0%	100.0%
	2年	2	5	7	2年	2	4	6	2年	100.0%	80.0%	85.7%
	3年	4	5	9	3年	2	5	7	3年	50.0%	100.0%	77.8%
	計	11	12	23	計	9	11	20	計	81.8%	91.7%	87.0%
新庄東高	学年	男	女	計	学年	男	女	計	学年	男	女	計
	1年	112	66	178	1年	82	58	140	1年	73.2%	87.9%	78.7%
	2年	92	55	147	2年	25	19	44	2年	27.2%	34.5%	29.9%
	3年	62	49	111	3年	3	0	3	3年	4.8%	0.0%	2.7%
	計	266	170	436	計	110	77	187	計	41.4%	45.3%	42.9%
北村山高	学年	男	女	計	学年	男	女	計	学年	男	女	計
	1年	13	16	29	1年	13	16	29	1年	100.0%	100.0%	100.0%
	2年	18	11	29	2年	11	10	21	2年	61.1%	90.9%	72.4%
	3年	15	22	37	3年	0	0	0	3年	0.0%	0.0%	0.0%
	計	46	49	95	計	24	26	50	計	52.2%	53.1%	52.6%
合 計	学年	男	女	計	学年	男	女	計	学年	男	女	計
	1年	283	216	499	1年	187	172	359	1年	66.1%	79.6%	71.9%
	2年	265	228	493	2年	96	108	204	2年	36.2%	47.4%	41.4%
	3年	271	238	509	3年	15	40	55	3年	5.5%	16.8%	10.8%
	計	819	682	1,501	計	298	320	618	計	36.4%	46.9%	41.2%
その他	出典：山形県学校名鑑				学年	男	女	計				
					1年	3	0	3				
					2年	1	1	2				
					3年	1	0	1				
					計	5	1	6				

新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	新庄市総合政策課		
プログラム名	新庄歴まち 謎解きウォークラリー						
日時	①令和5年10月1日(日) 9:00~12:00			場所	新庄城址周辺		
					新庄市役所301・302会議室		
協力者							
参加者(延べ)	高校生	16人		地域の大人・大学生	3人	合計	19人
目的 (地域課題・達成目標)	新庄藩初代藩主・戸沢政盛公が新庄に城を築いてから400年を迎える中、地域の歴史的資源に対する理解と認知度向上を図るとともに、まちに対する誇りを持ち、自分自身が関わって地域を良くしていくとする当事者意識を醸成する足掛かりとする。						
プログラム内容	江戸時代の古地図を手掛かりに町名の由来等が記載された標柱をチェックポイントとして、グループで新庄城址周辺を回るウォークラリーを行った。ウォークラリー前には、新庄藩主戸沢家や藩主が行ったまちの整備が現在の町名に継承されていること等を伝えた。振り返りでは、体験から得られた気づきを言語化し、次の行動に促すため「やったこと」「気づいたこと」「今日知ったことを誰に伝えるか」をまとめた。						
実施に 当たって の工夫	・新庄市の歴史について「楽しみながら」学ぶ機会とするため、クイズを解きながら新庄城址周辺を歩くウォークラリー形式とした。 ・グループでの活動となるため、最初にアイスブレイクの時間をとった。 ・ウォークラリー後の振り返りでは、個人ワーク後に班及び全体での発表を行い、参加者の気づきを全体で共有した。						
目的に対する 成果	アンケートでは「今回のプログラムを通じてもっと地域のことを勉強したり、地域と関わりを持ちたいか」との問いには、「とてもそう思う」「そう思う」合わせると100%であった。地域の歴史的資源に対する認知度向上を図ることができた。						
所感・感想 改善点	江戸時代の古地図を見ながらのウォークラリーとしたため難易度が高くなったが、各グループともたくさんのチェックポイントを周ることができていた。地域をより深く知れる内容にクイズなどグレードアップのしていければと思う。プログラムを通じて、多くの高校生がもっと地域のことを勉強したり地域と関わりを持ちたいと思ってもらえた。ジモト大学をきっかけにして、地域活動等に関心がある生徒がその後も活動ができる場が増えると、高校生の将来の地元回帰に繋がると思う。						
高校生の声	・新庄市の成り立ちや、新庄を治めていた戸沢氏について学べた。 ・普段の生活で何気なく見ているものから、新たな発見ができた。 ・昔の地名などの名残りや新庄の歴史や当時の街と今の街の違いなど学んだ。						

活動の様子

新庄藩主・戸沢政盛公や城下のつくりについて学ぶ



標柱に書かれた旧町名の由来を読みながら、クイズを解く①



標柱に書かれた旧町名の由来を読みながら、クイズを解く②



た3高校の生徒さんが参加してくれました



新庄・最上シモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	課題発見・解決			提供者	新庄市総合政策課		
プログラム名	語りつくそう！自分たちの暮らす地域について						
日時	①令和5年9月30日（土） 13:30～15:30			場所	新庄市民プラザ 小ホール		
協力者	地域振興サポート会社 まよひが企画 代表 佐藤 恒平氏（講師）						
参加者(延べ)	高校生	21	人	地域の大人・大学生	13	人	合計 34 人
目的 (地域課題・達成目標)	様々な社会情勢の影響により、地域づくり活動が停滞している状況で、幅広い世代で交流しながら学ぶワークショップを通じ、その交流のなかで地域の現状や将来の地域像を語り合い、地域づくりとは何かを相互に考え、地域に対する気づきや思いを発見すること。						
プログラム内容	講師に元山形県朝日町の地域おこし協力隊であり、着ぐるみキャラクター「桃色ウサヒ」による町のPR活動を実践してきた地域振興サポート会社 まよひが企画の代表である佐藤恒平氏を招き、①「自分ごと化」、②「手段はたくさん」、③「未来のために」をキーワードとして、地域づくりの実践での経験談を交えながらの講話をしていただき、その後に佐藤講師の司会で、7グループに分かれてワークショップを実施した。						
実施に 当たって の工夫	高校生の参加が多いため、ワークショップの際には各グループに大人が1～2名配置される区分けとし、ワークの話し合いの先導役になるようにした。また、若い世代の興味を引く手法として、「こころカルタ」を活用して、雰囲気をはぐくむうえで、ワークショップを開始する展開とした。なお、講師の工夫としては、最低限の資料を準備し、資料を見るのではなく、前方の講師を見て、講話を聞けるような取り組みを行った。						
目的に対する 成果	講座後のアンケートにおいては、この講座を今後の生活や地域活動に活かしていけるかとの設問では、88%の参加者が「はい」と答えた。また、地域づくりとは現状の課題解決だけではなく、地域住民が幸せだとか楽しいと感じらせる取り組みだということが新たな発見であったという意見もあり、目的の気づきを発見してもらうことができた。グループに大人がいることで、新たな視点での話し合いをすることができた。						
所感・感想 改善点	講座全体を通して、多世代間交流を実践できたと感じる。また、参加者同士の笑顔も印象的であった。ワークショップの中では、各グループで活発に意見交換されており、最後のグループ発表では、高校生も発表していたので、有意義な時間を提供できたのかと思う。改善点としては、地域リーダー講座というテーマがあり、その講座テーマを期待した参加者からは、若干物足りなかったとのアンケートもいただいていたため、高校生には内容がつかみやすく、大人には情報不足な講座であったのかと考えるため、テーマ設定を今後、考えていきたい。						
高校生の声	・地域おこしに対しての考え方が変わった。 ・ゲームもあって楽しかった。知らないことをいろいろ知る機会になり、想像以上にとても良い話を聞くことができた。 ・学校での探究活動に活かせることがたくさんあった。 ・自分の将来の夢が起業して、地域活性化に繋げることだから、とてもためになった。						

活動の様子

始まる前の準備運動。昼食後の時間帯だったので、眠くならない様に。



講師の方からの講話の風景。とってもわかりやすい体験談でした。



自分の考えを話して、仲間の考えを聞く。ルールは「否定しない」。



グループ意見を発表。みんなが見ていて緊張するけど、自信を持って。



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	キャリア			提供者	新庄市成人福祉課				
プログラム名	「手で話そう」～手話通訳という資格を知ろう～								
日時	①令和5年8月5日（土）10:00～12:00			場所	新庄市民プラザ 音楽室				
	②令和5年9月2日（土）10:00～12:00				新庄市民プラザ 音楽室				
協力者									
参加者(延べ)	高校生	26	人	地域の大人・大学生	6	人	合計	32	人
目的 （地域課題・達成目標）	手話言語条例が制定されたことを受け、手話及びろう者に対する理解促進と手話の普及を推進するため、新庄・最上ジモト大学に参画し地元高校生にろう者の日常と「手話通訳」という資格について知ってもらう。								
プログラム内容	・市内在住のろう者と手話通訳者から、日常生活での不自由さや手話通訳の必要性和手話通訳資格の種類や資格を身に付けるまでの流れ。ろう者を講師とした手話講座。 ・障がい者への理解促進、手話の普及のためのアイデア出し								
実施に 当たって の工夫	・ろう者が講師をすることで、聞き手との間の「手話通訳」の仕事を体感してもらう。「差別解消条例」「合理的配慮」「手話言語条例」の様々なパンフレットを配布し、「障がい者」について総合的に理解してもらう。ろう者とのコミュニケーションを楽しんでもらう。 ・事前に参加者の氏を手話での表し方をプリントにしてきた。								
目的に対する 成果	手話及び手話通訳、ろう者に興味を持ってもらうことが出来た。ここで会得したことを、学校でも学ぶ場を設ける、設けたいという声が多数あり、実際に校内イベントに組み込む等の成果を得ることができた。								
所感・感想 改善点	手話の必要性や資格について意欲的に学んでもらえ、講師も活き活きと対応していたのが印象的であった。ろう者、通訳も目を見張るほど上達が早く、またその参加者が次の理解促進の場や、普及のための活動に積極的でこの事業の浸透ぶりがうかがえた。								
高校生の声	・とても役に立つ知識を学べた。 ・学校で手話を学ぶ機会を作ることで、手話が普及していくと思う。 ・手話を覚えるのは大変である。								

活動の様子

受講風景①



受講風景②



受講風景③



受講風景④



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク	提供者	金山町総合政策課
プログラム名	モルック&ノルディックウォーク！北欧スポーツで健康に！		
日時	①令和5年8月4日（金）9：30～11：30 ②令和5年8月11日（金）9：30～11：30	中止 場所 金山町農村環境改善センター	
協力者	金山健康ふれあいスポーツクラブ、金山町教育委員会、金山スポーツ少年団		
参加者(延べ)	高校生 16 人	地域の大人・大学生 8 人	合計 24 人
目的 (地域課題・達成目標)	フィンランドで行われている健康づくりスポーツ種目の「モルック」「ノルディックウォーキング」を行い心と体をリフレッシュを図る。1日8,000歩以上歩く習慣づくり。高校生と大人が楽しくスポーツに触れる機会をすることで、健康づくりの意識を高め、健康寿命の延伸を目的とする。		
プログラム内容	1回目は講師を招いて2時間程度の体験会を開催予定だったが、高温で熱中症警戒レベルが高かったことに加え、参加人数が少なかったため中止を決断。2回目はモルック大会を開催。チーム編成は大人と高校生で構成し、交流を図る。高校生と大人たちが、互いを褒めあいながら笑顔で一緒にスポーツを行うことで健康寿命の延伸を狙いとする。		
実施に当たっての工夫	連日猛暑日が続いていたことから、熱中症など参加者の体調不良を防ぐために、事前に会場を屋内開催として、室内エアコンをつけての実施とした。2つの高校の参加申し込みがあったことから、なるべく同じ高校同士が一緒にならないようにチーム編成して交流できるように配慮した。金山町や協力団体から運営予算を確保した。町スポーツクラブとのコラボレーション企画とした。賞品に地域の特産品を用意して地域のPRができた。		
目的に対する成果	1日8,000歩以上歩く成果目標を達成するための、普及啓発になるノルディックウォーキングができなかった。モルックを通して、新しいスポーツに触れたことで、健康づくりの意識を高めるいい機会となった。高校生が家族や先生以外の大人と積極的に会話するいい機会となった。		
所感・感想改善点	参加者を増やすために、高校生の夏休み時期に合わせて日程調整をしたが、スポーツを外ですることを考えると、8月という時期を避けた方が方が良いと感じた。昨年度の参加者は、ほぼ新庄南高金山校の生徒で占めていたが、今年はゼロだった。来年度に向けて学校と改善点の協議をしたい。新庄北高と新庄東高の生徒が増えたことは、金山町を知ってもらう点で良かった。全体的には、楽しんでもらえたし盛り上がった活動になったので来年度も継続の方向で検討していきたい。		
高校生の声	モルックの楽しさを学んだ。いろんな人とコミュニケーションをとることが大切だと学んだ。他校の友達との関わることで、地域の人と関わることの楽しさを学んだ。地元が好きだけど、県外に行っても間接的に山形県にかかわりたい。将来の夢を叶えて地元に戻ってきたい。		

活動の様子			
参加者みんなで集合写真		モルック実技の様子	
チームで作戦会議		モルック実技の様子	

新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	最上町地域おこし協力隊				
プログラム名	モノづくりの面白さ～「好き」を仕事に～								
日時	①令和5年10月22日（日）10:00～12:00			場所	前森高原自然ふれあい陶芸館『カムロ窯』				
協力者									
参加者(延べ)	高校生	10	人	地域の大人・大学生	4	人	合計	14	人

目的 (地域課題・達成目標)	令和3年度より最上町に移住した若き陶芸家の二人から、自分の「好き」を仕事にする良さと大変さについて話を聞き、高校生自身の職業観等を深めてもらとともに、実際に自分で陶器への絵付けを行いモノづくりの楽しさを体験してもらうことを目的とする。
プログラム内容	①オリエンテーション ②プレゼン『モノづくりの仕事の面白さ～「好き」を仕事にするためには～』（内容：陶芸家という仕事の紹介、現在に至るまでの経緯や地域おこし協力隊としての活動内容等） ③陶器への絵付け体験
実施に当たっての工夫	・プログラム提供者がどのように大学や進路を決定し現在に至るかを具体的に説明してもらうことで、高校生自身の進路や職業選択の参考にしてもらうことを心掛けた。 ・最上町の新たな芸術文化として活動を開始した『カムロ窯』やその作品について、体験を通して興味や理解を深めてもらうことを心掛けた。
目的に対する成果	・プログラム提供者の説明や実際の体験を通じて、参加者に仕事や地域の魅力など、様々なことを考えてもらうきっかけになったと感じている。また、様々なことに積極的に参加したり、取り組むことの大切さについても伝えられたと感じている。
所感・感想改善点	・参加申し込みがすぐに定員になったことから、高校生が興味を持ちやすい、または参加しやすいプログラム内容が提供できたと考えている。 ・プログラム提供者は、自身の目標や将来像をしっかりと定めた中での進路や職業選択により現在に至っていることもあり、プレゼン内容がとても心に響くものであった。
高校生の声	・ものづくりの楽しさやみんなでデザインを考えることの楽しさを学びました。 ・後悔のない人生を送るために好きなことを仕事にすることもいいと思いました。 ・普段、学校ではできない経験ができた ・講師の方々の、芸術系の仕事をする上での進路の決め方や覚悟などを学んだ。 ・ものづくりの楽しさやみんなでデザインを考えることの楽しさを学びました。 ・ものづくりの楽しさ、難しさを学びました。あと、好きなことを仕事にするとどんなメリットがあるかなども学ぶことが出来ました。 ・モノを作る楽しさや達成感を感じるということを学べた。 ・今まで知らなかった地域の魅力を知ることができた

活動の様子

地域おこし協力隊のプレゼンの様子



陶芸体験の様子①



陶芸体験の様子②



完成した作品



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	キャリア			提供者	舟形町まちづくり課				
プログラム名	あつまれ ミライの公務員								
日時	①令和5年8月2日（水）10:00～15:00			場所	舟形町役場				
	②令和5年8月3日（木）10:00～14:00				舟形町役場				
協力者	舟形町役場若手職員、町地域おこし協力隊								
参加者(延べ)	高校生	7	人	地域の大人・大学生	5	人	合計	12	人
目的 (地域課題・達成目標)	高校生が役場で働く大人と行動を共にすることで、公務員として働くことを具体的にイメージし、将来のキャリアについて考えることができるようになる。								
プログラム内容	座学だけでなく、より具体的に仕事の内容を知ってもらうために、1日目は役場の若手職員に密着し、仕事振りを観察する「ジョブシャドウイング」を行った。働く姿を見て感じたことについて振り返り、発表してみんなで共有した。2日目は、町の地域おこし協力隊や職員と町の課題のひとつである「観光」について考え、現在検討している農業体験を資源とした交流事業について、高校生と意見交換を行った。								
実施に 当たって の工夫	高校生と接する職員については、話しやすい環境となるように、より年齢の近い若手職員にお願いした。職員にとっても、自身の仕事を高校生へしっかりと伝えるために、あらためて振り返る良い機会となった。								
目的に対する 成果	公務員といっても、職員としての仕事内容は課によって様々であることが、実際に働いている姿から感じてもらえることができた。振り返りの中で、イメージが少し具体的にになり公務員の仕事に興味を持った生徒や、将来のために勉強だけでなくいろいろな経験を積んでいきたいと話す生徒もいた。								
所感・感想 改善点	2日間でプログラムの内容を組んでいたところ、1日だけの参加生徒が多く、内容を若干変更して行った。1日では時間が足りず伝えきれなかったこともあったため、来年度は2日間参加してもらるように生徒への声かけを行いたい。 以前に比べて公務員志望者が減ってきている。地域に興味を持ち、地域のために働きたいと考える若者が一人でも増えるよう、内容を充実させていきたい。								
高校生の声	・公務員の人たちは、職場の人や住民など、様々な人と関わっていることがわかった。 ・将来の職業について、選択肢の幅を広げる機会になった。 ・将来に向け、様々なことにチャレンジし勉強をがんばっていききたいと思った。								

活動の様子

まちづくりの目標やどんな取り組みを行っているかの説明を聞きました



各課をまわりそれぞれの課の業務内容を教えてもらいました



参加して意識がどう変わったかをふり振り返り一人ひとり発表しました



農業体験をツールに関係人口を増やすことができるか意見交換しました



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	真室川町企画課				
プログラム名	ものづくり×ジモト								
日時	①令和5年6月24日（土）10:00～16:00			場所	真室川町駅前商店街周辺				
協力者	さなぶり手仕事まつり出店者、実行委員会								
参加者(延べ)	高校生	23	人	地域の大人・大学生	15	人	合計	38	人

目的 (地域課題・達成目標)	地域課題：商店街の賑わい不足と町の魅力(伝承野菜、特産品、ブランド認定品)の発信力不足 達成目標：①地域の一員であることを自覚し、地域と関わりを持つ。 ②聴く力を養い、多様な視点で思考する。 ③発信力を養う。
プログラム内容	ブース運営：真室川校20名が参加し、伝承野菜を使ったお惣菜を自身で作り、来場者へ提供を行った。また、真室川校生が伝承野菜の学習を行った成果をパネルに掲示した。 スタッフ体験：新庄南高校ほかから計3名が参加し、さなぶり手仕事まつり出店者から話を聴いたり、実際に体験を行った。また、参加者自らが真室川町公式ツイッターに投稿し、情報発信を行った。さらに、本部にてスタッフ体験を行った。
実施に当たっての工夫	・真室川校ブースについて、企画段階から真室川校生自身が行った。 ・スタッフ体験参加者を真室川校ブースへ案内したことで、双方の新たなつながりを作った。 ・スタッフ体験参加者が見たものや思ったことをリアルタイムで発信した。
目的に対する成果	①地元の良さを知り、地域とのつながりを強くすることができた。 ②コミュニケーションの大切さを学ぶことができた。 ③自ら内容を考え、情報発信をすることができた。
所感・感想改善点	真室川校ブースについては、高校生自ら考えた企画が当日とても好評で、お惣菜が早く終了したほど来場者からの関心が高かったと感じる。イベント参加型のプログラムにしたことによって、地元の大人たちにもジモト大学のことを知ってもらいいいきっかけになったと感じた。 スタッフ体験については、参加者が気になった出店者の話を聴いたり体験したりと、参加者それぞれの学び方があった。ひとつのプログラムのなかでも選択肢があるのは良いことではないかと感じた。
高校生の声	・工芸品についてのお話を聞いたり実際に情報発信をしたりして、改めて地元の良さや地域との繋がりを強めることが出来た。 ・人とのコミュニケーションの大切さを学んだ

活動の様子

自分たちで作ったお惣菜を提供しました(真室川校ブース)



お店の人から話を聞いて、いろんなものに触れましたスタッフ体験



写真を撮ってすぐに情報発信しました(スタッフ体験)



高校の枠を超えた新たなつながりができました真室川校ブース×スタッフ体験



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー		体験・フィールドワーク		提供者		鮭川村総務課	
プログラム名		鮭の食べ方しってる？					
日時	①令和5年11月11日（土）8:00～12:15			場所	鮭川、鮭加工場、鮭川村役場		
協力者		サーモンロードの会 矢口会長、 サカタント支配人 松並氏					
参加者(延べ)		高校生	3 人	地域の大人・大学生	5 人	合計	8 人
目的 (地域課題・達成目標)		鮭川村では伝統的にウライで鮭の捕獲を行っている。また、鮭のふ化活動も行っており、鮭川を遡上する鮭を減らさないよう循環型社会をつくる取り組みを行っている。これらの活動を若い世代に伝え、伝統を絶やさないことが課題となっている。					
プログラム内容		・鮭川にてウライ及び釣獲調査の見学。 ・サーモンロードの会のふ化活動の学習。 ・捕獲した鮭の塩漬け体験。 ・鮭に関して地域が抱える課題の学習。					
実施に 当たって の工夫		危険の伴うフィールドワークであったため、けがをしないための事前準備に細心の注意を払った。普段体験できないことを積極的に取り入れ、新たな地元の姿を見てもらえるようなプランを意識した。参加する大人にとっても新たな気づきがあるよう学生と議論する場を設けた。					
目的に対する 成果		・高校生たちに鮭川村伝統の捕獲方法と調理方法を知ってもらった。 ・伝統文化を残していくために地元漁協（サーモンロードの会）が取り組んでいることを知ってもらった。 ・学生たちに鮭の新たな活用方法を提案してもらい、大人たちがヒントを得られた。					
所感・感想 改善点		昨年度につづき、高校生に鮭川村の文化を伝えられてよかった。参加者を増やすために開始時間を後ろ倒しにしたが、考えていたほど参加者が増加しなかったため、プロモーション方法に課題が残った。 また、今回は学生たちに考えてもらうテーマ（採捕した鮭の活用方法）を用意し、参加した大人たちの気づきの場にも活用できた点が前回よりも良かった。					
高校生の声		・今まで知らなかった地域の魅力を知ることができた。 ・普段、学校ではできない経験ができた。 ・地域の大人のひとと活動できてよかった。 ・活動に参加して自分自身が成長できた。 ・将来を考えるきっかけになった。					

活動の様子

鮭川村の探捕場「ウライ」の見学にて鮭と記念撮影



鮭の新切り作りで鮭のさばき方をレクチャー



鮭のふ化場にてサーモンロードの会のふ化事業を説明



鮭の生態を学んだり、鮭の活用方法を大人と一緒に考えた



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	戸沢村まちづくり課		
プログラム名	目指せそば職人！～そば打ち体験～						
日時	①令和5年9月30日（土）10:00～13:00			場所	戸沢村農村環境改善センター		
協力者	NPO法人田舎体験塾つのかわの里						
参加者(延べ)	高校生	8	人	地域の大人・大学生	5	人	合計13人
目的 (地域課題・達成目標)	地域の文化や特産品等を知る機会が無く、知らずに地元を離れる学生が多いのが現状である。また、地域の方との交流が少なくなっているのも課題である。プログラムを通し、最上地域への関心を図り、地域の方と対話しながら活動することの楽しさを知ってほしい。						
プログラム内容	受入団体「NPO法人田舎体験塾つのかわの里」より地域紹介として、最上地域の歴史や文化、伝承野菜について学習の時間を設けた。その後、村内のそば職人を講師に、戸沢村産のそば粉を使用し粉の状態から実際にそばを作った。完成したそばは地域の大人を含めみんなで食べた。						
実施に 当たって の工夫	事前に参加者へ当日の動きを連絡したため、当日はスムーズに進めることができた。当初はそば打ち体験のみの予定だったが、地域について学ぶ良い機会であるため、学習の時間を設けた。そば打ちの際は2～3人の少人数グループに分かれたため、協力的に活動できたのではないかなと思う。						
目的に対する 成果	プログラムを通して、特に最上地域の文化や伝承野菜について知ってもらえた。また学習の時間でSDGsの話題が出てきたが、プログラム中にもSDGsを発見した高校生もいて学びが活かされていた。高校生にとっても、地域の大人にとっても普段交流することが少ない中でこのような活動は双方にとって刺激になったと感じる。						
所感・感想 改善点	地元の団体や、地域の方々の協力がありプログラムを実施することができた。最上地域について学習する場面では、クイズ形式の場面があったが、手をあげたり話し合っていたりして学ぶ姿があり良かったと思う。そばを作る際は、少人数のグループだったため、参加者全員がすべての工程を体験できた。また、分からないことがあったらすぐに大人たちを呼び、対話しながら作業しているのが印象的であった。						
高校生の声	・伝承野菜をこれからも守っていかなければいけないと思った。 ・地元の活気をあげながら、SDGsにも取り組んで行きたい。 ・自分が住んでいる最上地域の良い部分をたくさん知ることができた。 ・伝承野菜や文化などを知り、地域について学ぶことができた。 ・そばがお店で出される形になるまでたくさんの過程があることを学んだ。						

活動の様子	
最上地域の文化や伝承野菜についてSDGsの視点を入れながら学習中。	 戸沢村産そば粉を100%使用し、そば職人に教わりながら調理。 
太くならないように慎重に切ります。	 出来上がったそばはみんなで食べました！ 

新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク		提供者	尾花沢市定住応援課		
プログラム名	尾花沢、最高！アクティブに活躍する大人と楽しむイベントづくり！					
日時	令和6年1月20日（土）10：30～15：00		場所	尾花沢市花笠ふれあいセンター、スノーランド		
協力者	合同会社 OBANAZAWA ACTIVE FIELD 菅野 貴広氏、柴崎 和氏					
参加者(延べ)	高校生	8 人	地域の大人・大学生	2 人	合計	10 人

目的 (地域課題・達成目標)	尾花沢市は、豪雪地帯であり、市民はこの自然と共存することが必然である。また、地域の交流人口や定住促進の面でもその利活用を促進する必要がある。豪雪地帯ならではの雪を活用したイベントを学び、その活用を自分事として考えるきっかけとする。
プログラム内容	- 前半、地域活性化に取り組むOBANAZAWA ACTIVE FIELD 菅野氏からの講話。 - 後半、スノーランドにてイベント運営体験、雪遊び体験等
実施に当たっての工夫	- 前半では地域活性化の取り組みを学び、後半では実際の体験を通じてその魅力を感じるように配慮した。 - 前半の学びについては、一方通行の講話ではなく、参加者と講演者が双方向でコミュニケーションを取れるような対話形式で行った。 - 参加者がスタッフとしての責任や役割を理解し、積極的に行動する意識が醸成されるよう事前に「お客様からは、常にスタッフの一員として見られている」という意識共有を行った。
目的に対する成果	地域課題を「自らの問題」と捉え課題解決の為に奔走しているジモトの大人たちの活動を学び、「自分たちのまちのイメージ」や「今後、どうしていきたい」等のやり取りを通じて「地域課題」について考えるきっかけになったのではないかと思います。 ・スノーランドの運営や雪遊びを実際に体験することで、尾花沢の自然環境や観光資源を直接感じるだけでなく、イベント運営に必要な実務的な知識やスキルを学ぶことができたと思います。
所感・感想改善点	- 参加者には、ジモトの大人に学びイベント運営体験を通じて尾花沢の魅力を感じ、地域活性化に関心をもってもらえたように思う。また、今後尾花沢に限らず地域の発展に向けて、参加者が積極的に行動するきっかけになればと考える。 - 暖冬による雪不足が心配されたが、開催数日前に降雪があり例年より積雪は少なかったものの無事プログラムを行うことができた。参加者には、自然を対象にしたイベントを行う上では、天候に左右されるリスクもあることを含めて学びになったのではないかと思います。
高校生の声	- 雪は悪いイメージがあるけどそれに負けないくらい楽しいことができる。雪に親しむことを忘れないように生きていきたい。 - 人との関わりの大切さや町おこしに尽力する方たちの熱い思いを勉強することができた。 - 人との関わりの楽しさ大切さ、講師の方の優しさに包まれながら雪の楽しさや面白さ、お客さんへの接し方などを学び体験することができた。

活動の様子	
前半は地域活性化について学びました。 	自分たちも冬の遊びを体験します。 
全員で意識の共有を行いました。 	実際に、スノーランドの運営に携わりました。 

新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク		提供者	尾花沢市定住応援課	
プログラム名	ヨット体験&イベント運営にチャレンジー徳良湖が作る歴史とドラマー				
日時	①令和5年8月9日（水）8:40～12:00		場所	徳良湖ヨット倶楽部（徳良湖）	
	②令和5年8月12日（土）8:30～15:00				
協力者	徳良湖ヨット倶楽部、徳良湖冒険少年団				
参加者(延べ)	高校生	9人	地域の大人・大学生	4人	合計13人
目的 (地域課題・達成目標)	「花笠音頭」発祥の地であり自然景観が豊かな徳良湖周辺は、新しいビジネスやレジャーの拠点となるポテンシャルを秘めた地域であり、地域の歴史や文化と融合した観光・交流機能の強化が課題とされる。また、地域の交流人口や定住促進の面でもその利活用を促進する必要がある。				
プログラム内容	・ヨットについて、徳良湖の歴史と継承活動についての講話。 ・実際にヨットへ乗船し操縦を体験。 ・徳良湖冒険少年団の活動に対するイベント運営補助 ※イベント運営補助・・・スイカ収穫時の補助、スイカ割大会の事前レクチャー、ヨット乗船補助				
実施に 当たって の工夫	（１）徳良湖のヨットの魅力をより深く理解してもらい、その活用を「自分ごと」として考えてもらえるよう体験前に講話を行った。 （２）参加生徒へ事前の役割説明や具体的な指示を行うことで、参加者にどのような配慮が必要か、楽しんでもらうためにはどんな工夫をするべきかを学んでもらうよう努めた。				
目的に対する 成果	・地域の歴史や魅力を学び、そしてヨットを体験することによって改めて地域の魅力を考えるきっかけになったのではないかと思う。 ・イベント運営を体験したことによって、将来、自ら企画し事業を行って行くうえでの指針になったのではないかと考えられる。				
所感・感想 改善点	・ヨットは風に左右される乗り物であり、そこが魅力のひとつになっている。１回目開催時には風にも恵まれ、スムーズにヨット体験ができたように思えたが、２回目開催時は風が弱くヨットが風に乗るまでに苦労したように思う。各回で風の状況が違ったものの、参加生徒は柔軟に対応しよとする前向きな姿勢が見られた。 ・２回目開催のイベント運営体験では、初めての経験ということもあり前半には少し消極的な場面もみられたが、後半には能動的に子供たちと話す様子がみられ大変成長を感じられた。				
高校生の声	・地元の良さ、地域の良さを学ぶことができた。 ・活動に参加して自分自身が成長したと感じた。 ・ヨットと風の関係、花笠音頭の歴史を学ぶことができた。				

活動の様子

ジモト大学尾花沢キャンパス開講



徳良湖の歴史と文化、地域振興について学び



徳良湖の風を感じながらヨット体験



尾花沢すいか収穫体験のお手伝い



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	課題発見・解決			提供者	尾花沢市定住応援課		
プログラム名	尾花沢からのSOS！私たちの防災チャレンジ						
日時	①令和5年8月17日（木）13：30～15：30			場所	山形県北村山高等学校		
	②令和5年10月5日（木）13：30～15：30				山形県北村山高等学校		
協力者	ゲンサイデイズ 細谷 真紀子（講師） 山形県防災士会尾花沢支部（防災士派遣）、尾花沢市各地区長						
参加者(延べ)	高校生	50	人	地域の大人・大学生	18	人	合計 68 人
目的 （地域課題・達成目標）	ジモトのことを、防災の面から見つめ直し、主体的に考え積極的なコミュニケーションを大人ととれるような意識の養成を行うことによって、災害発生時に地域の大人と連携して能動的に行動することのできる人材育成を行う。						
プログラム内容	・山形県の防災についての講話。 ・地域防災についての講話。 ・山形県立北村山高等学校を想定したHUGゲーム（避難所運営ゲーム）						
実施に 当たって の工夫	・実際に災害が起こった場合を想定して、避難所に指定されている県立北村山高等学校を開催会場とし、同施設内での避難所運営のシナリオでゲームを行った。 ・HUGゲーム内の運営（カードやイベントを読む）は、防災士が行い、避難者の配置や災害物品の配置等実際の運営を主体的に高校生が行うようにした。						
目的に対する 成果	・高校生からは自身の考えを積極的に発言し、それに対して大人の方が助言する場面があり活発な議論がみられた。 ・具体的な指示がない中でも、役割分担を決め、能動的に行動し、次々と起こる事象に対し柔軟に対応していた。 ・アンケートより「自ら判断することの大切さを学んだ」、「普段学校ではできない経験ができた」、「自分自身が成長できた」等の意見が多く見られ、視野を広げるきっかけになったのではないかと考える。						
所感・感想 改善点	・普段私たちが暮らしている山形県の防災について、また地域の防災について改めて考えるきっかけづくりになったのではないかと考える。 ・細谷先生より「避難所運営に正解はない」とのことなので、今回のプログラムで細谷先生をはじめ、多くの方から参加者には良質な「考える種」をもらうことができたのではないかと思う。今回行われたプログラムだけで終わるのではなく、参加者それぞれが自分なりの答え（花）をだしてもらえればと思う。						
高校生の声	・避難させる側（運営側）になって気持ちや大変さを知りました。 ・避難所対応の際、どう対応すれば良いのか、的確に対処することの大切さを学びました。 ・防災について学ぶことができた。 ・普段学校ではできない経験ができた。						

活動の様子

前半は山形県の防災について学びました。



地域の大人と協力し最適な避難誘導を考えます。



避難者の配置や訪問者の対応を考えます。



避難者が多くなるにつれて、避難場所が減っていきます。



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	キャリア		提供者	最上総合支庁地域産業経済課		
プログラム名	しごとトーク～若手従業員のリアルなお話～					
日時	①令和5年7月21日（金）13:45～15:35		場所	県立新庄南高等学校金山校		
協力者	（株）山形メタル、白岩土木建築（株）、（社）とらいあ（新庄市立図書館）					
参加者（延べ）	高校生	24人	地域の大人・大学生	3人	合計	27人

目的 （地域課題・達成目標）	地域の職場で働く若手社員から、高校生に対して、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらい、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等促進につなげる。
プログラム内容	学年ごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。
実施に当たっての工夫	①今の仕事の紹介、②学生時代の話、③今の仕事との出会い、仕事に就いたきっかけ ④仕事で大切にしている価値観・やりがい・こだわり、⑤高校生へのメッセージ この5項目についてスケッチブック（20枚程度）に記載いただき、当日、それをめくりながらお話をいただく。
目的に対する成果	全体オリエンテーションのあと、生徒らは学年ごと自分の教室に戻り、トークゲストが各学年の教室で、自作の「紙芝居」を使って自らの仕事の内容・魅力などについて話しをした。（質疑応答を入れて約20分） 終了後、トークゲストは別の学年の教室に移り、同じようなトーク交流を3回繰り返し、生徒らは全てのゲストの話を聞くことができた。
所感・感想改善点	トークゲストの話は、生徒のみならず、一緒に聞いていた学校の先生たちも興味深かったようだった。トークゲストからは、「学年が上がると、やはり聞く真剣さも違う気がする。」「10分で話＋10分で意見交換だったが、10分では話すのにとても短かった。」などの声があった。今後の「特別授業」への協力についても、「日程等が合えば」と前向きな声をいただいた。
高校生の声	「山形以外に出て働きたいと思ったが、この講話で地元で働いてみたいと思った。」「自分が考えている進路以外にもおもしろそうな仕事があった。」「コミュニケーションを大切にする。人との関わりを多くする。」「地元で働くのもアリかな。」「地元でもやりがいのある仕事はある。」

活動の様子



大講義室での全体説明の様子



職場の様子を詳しく分かりやすく説明するトークゲスト



ゲストから図書館に関するクイズも！



社会人になってどんな生活を送っているかリアルなお話が聞けました。



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	キャリア			提供者	最上総合支庁地域産業経済課				
プログラム名	しごとトーク～若手従業員のリアルなお話～								
日時	①令和5年7月24日（火）13:25～15:15			場所	県立新庄北高等学校				
協力者	(株)ヤマトテック、沼田建設(株)、特別養護老人ホームかつろくの里、山形銀行新庄支店、新庄市立明倫学園、最上広域市町村圏事務組合消防本部、新庄市教育委員会、最上総合支庁保健企画課								
参加者(延べ)	高校生	107	人	地域の大人・大学生	8	人	合計	115	人
目的 （地域課題・達成目標）	地域の職場で働く若手社員から、高校生に対して、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらう。地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらい、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等促進につなげる。								
プログラム内容	グループごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。								
実施に 当たって の工夫	①今の仕事の紹介、②学生時代の話、③今の仕事との出会い、仕事に就いたきっかけ ④仕事で大切にしている価値観・やりがい・こだわり、⑤高校生へのメッセージ この5項目についてスケッチブック（20枚程度）に記載いただき、当日、それをめくりながらお話をいただく。								
目的に対する 成果	トークゲスト8名が指定された教室で、1回10～15名程度の生徒らに向かって、自作の「紙芝居」を使って自らの仕事の内容・魅力などについて話しをした。（質疑応答を入れて約20分） 終了後、生徒の場所移動の時間があり、同じようなトーク交流を3回繰り返し、生徒はトークゲスト8名のうち、3名の話聞くことができた。（どの生徒がどのゲストの話聞くかは、予め学校側で希望をとり、割り振り）								
所感・感想 改善点	トークゲストの話は、生徒のみならず、一緒に聞いていた学校の先生たちも興味深かったようだった。トークゲストからは、「高校生の年代に仕事と地域の魅力を発信する機会が少ないためいい機会となった。」、「あらためて自分を振り返ることが出来てよかった。」、「高校生の進学や就職についての考え方を知ることができてよかった。」、「質問内容がある程度、考えてもらってたほうがいいかなと思った。」などの感想があり、自分自身にとって充実感や満足感を感じてもらえた。								
高校生の声	「地元で働くメリットや、これから生きていく上で大切なことを学んだ。」、「大学がどんな感じなのか、その職業の就職率、年収、センター試験の合格率など細かいところまで聞くことができた。」、「職業は地域との繋がりが深いということがわかった。」、「視野が広がった。」、「建設業は、やりがいのある素敵な仕事だなと思った。」、「仕事を選ぶにあたって知識が増え、幅が広がった。」、「これからの励みになった。」								

活動の様子

地元の企業を選んだ理由を教えてくださいました。



講師への質問タイム



休憩時間に講師と熱心に語る生徒達



写真を活用しながら仕事の内容をイメージで伝える工夫



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	キャリア		提供者	最上総合支庁地域産業経済課					
プログラム名	しごとトーク～若手従業員のリアルなお話～								
日時	①令和5年9月20日（水）15:50～17:20			場所	県立新庄神室産業高等学校				
協力者	(株)イムシーヒストリ、(株)柿崎工務所、社会福祉法人金山厚生会みすぎ荘、(株)ニチイ学館山形支店（山形県立新庄病院）								
参加者(延べ)	高校生	26	人	地域の大人・大学生	5	人	合計	31	人
目的 (地域課題・達成目標)	地域の職場で働く若手社員から、高校生に対して、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらう。地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらい、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等促進につなげる。								
プログラム内容	グループごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。								
実施に 当たって の工夫	①今の仕事の紹介、②学生時代の話、③今の仕事との出会い、仕事に就いたきっかけ ④仕事で大切にしている価値観・やりがい・こだわり、⑤高校生へのメッセージ この5項目についてスケッチブック（20枚程度）に記載いただき、当日、それをめくりながらお話をいただく。								
目的に対する 成果	フラワー実習室での全体オリエンテーションのあと、生徒らは班ごとに移動し、トークゲストが各教室にて、自作の「紙芝居」を使って自らの仕事の内容・魅力などについて話しをした。（質疑応答を入れて約20分） 終了後、生徒らは別のゲストの教室に移り、トーク交流を3回繰り返し、生徒らは4業種のうち、3業種の話聞くことができた。								
所感・感想 改善点	今回のゲストは5名のうち4名が新庄神室産業高校の卒業生。ゲストからは「高校生からの質問がうれしかった。」「地元の良さを伝えられたと思う。」「会社のPRや地元の良さを伝えられた。」などの感想が聞かれました。 終了後、学校側から、女子だけに限定せず、男子も参加できるようにしてはどうかとの意見があると伺った。来年度以降は女子に限定せず実施することを検討したい。								
高校生の声	「建設業、福祉などのイメージが変わった。」「地元就職のメリットを知ることができた。」「働きながら資格を取れるところもあると分かった。」「いろいろなことに挑戦してどこに就職、進学するかを考えていきたい。」「想像よりも女性も働きやすい環境が整備されていると思った。」「地元の素晴らしいところをもっと伝えていきたい。」								

活動の様子

地元就職のメリットや資格取得について知ることができました。



仕事への質問だけでなく、高校生活へのアドバイスもいただきました。



「建設業のイメージが変わりました」との感想が聞かれました。



楽しく仕事をされている先輩の話から、介護の仕事への理解が深まりました。



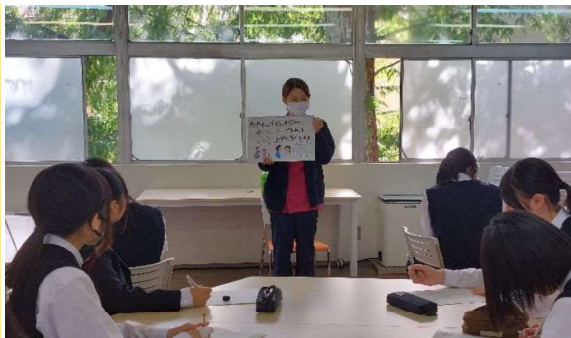
新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	キャリア		提供者	最上総合支庁地域産業経済課		
プログラム名	しごとトーク～若手従業員のリアルなお話～					
日時	①令和5年10月19日（木）13:25～15:15		場所	県立新庄南高等学校		
協力者	(株)ターリングコーポレーション、(株)イム・ヒストリ、(株)山形銀行新庄支店、最上広域市町村圏事務組合消防本部、医療法人徳洲会新庄徳洲会病院					
参加者(延べ)	高校生	59人	地域の大人・大学生	5人	合計	64人

目的 (地域課題・達成目標)	地域の職場で働く若手社員から、高校生に対して、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらう。地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらい、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等促進につなげる。
プログラム内容	グループごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。
実施に当たっての工夫	①今の仕事の紹介、②学生時代の話、③今の仕事との出会い、仕事に就いたきっかけ ④仕事で大切にしている価値観・やりがい・こだわり、⑤高校生へのメッセージ この5項目についてスケッチブック（20枚程度）に記載いただき、当日、それをめくりながらお話をいただく。
目的に対する成果	生徒は5グループに分かれ、各教室ごと担当の先生によるオリエンテーションの後、トークゲストが自作の「紙芝居」を使って自らの仕事の内容・魅力などについて話しをした。（質疑応答を入れて約20分）終了後、生徒らは別のゲストの教室に移り、同じようなトーク交流を3回繰り返し、生徒らは4名のゲストのうち、3名の話聞くことができた。
所感・感想改善点	今回のゲスト5名全員が新庄南高校出身者。ゲストからは「自分自身や仕事のやりがいについて改めて振り返る良い機会となった。」「高校生に仕事の魅力を話せて良い体験ができた。」などの感想が聞かれました。 グループ分けについては学校が行っているが、生徒が希望する3業種でグループ分けをしたため、ゲストによって希望人数がまちまちで、5名のゲストのうち2名は2回のトークとなった。また、グループ分けが生徒に浸透しておらず移動がスムーズに行われなかったように思う。来年度は、希望の業種+割当業種で、ゲスト全員が3回の実施となるよう申し入れようと思う。
高校生の声	「夢をしっかりと持つことや、やりたいこととできることを考えたりすることが大事だと思った。」「何事も挑戦することが大事だと思った。」「自分の将来や進路について考え直すことができたし、この地域には様々な職業があることを知れた。」「地域で働くことの良さや仕事のやりがいを聞くことができた。」

活動の様子

入る生徒達
看護師の仕事について、熱心に聴き



進路に迷いながらも銀行に就職。学んだことを生かせる仕事です。



介護の仕事からサービス業へ。やりがいを感じています。



卒業後すぐには希望していた消防士の募集がなく、別な仕事に就いてから晴れて消防士の道へ！



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	キャリア		提供者	最上総合支庁地域産業経済課					
プログラム名	しごとトーク～若手従業員のリアルなお話～								
日時	①令和5年10月27日（金）13:20～15:10			場所	新庄東高等学校				
協力者	(株)キリウ山形、(株)グリーンコーポレーション、(株)柿崎工務所、新庄市立中部保育所、最上広域市町村圏事務組合消防本部								
参加者(延べ)	高校生	27	人	地域の大人・大学生	6	人	合計	33	人
目的 (地域課題・達成目標)	地域の職場で働く若手社員から、高校生に対して、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらう。地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらい、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等促進につなげる。								
プログラム内容	グループごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。								
実施に当たっての工夫	①今の仕事の紹介、②学生時代の話、③今の仕事との出会い、仕事に就いたきっかけ ④仕事で大切にしている価値観・やりがい・こだわり、⑤高校生へのメッセージ この5項目についてスケッチブック（20枚程度）に記載いただき、当日、それをめくりながらお話をいただく。								
目的に対する成果	体育館での全体オリエンテーションのあと、生徒らは班ごとに移動し、トークゲストが体育館内の各ブースにて、自作の「紙芝居」を使って自らの仕事の内容・魅力などについて話しをした。（質疑応答を入れて約20分） 終了後、生徒らは別のゲストのブースに移り、同じようなトーク交流を3回繰り返し、生徒らは5業種のうち、3業種の話聞くことができた。								
所感・感想改善点	今回のゲストは6名のうち3名は東高の卒業生。 質疑応答では、学校側の協力もあり、生徒も積極的に質問をしていた。体育館での開催は各グループの様子がわかり、ゲストの皆さんも比較的リラックスしてお話されていたように思う。 ゲストの方からは「良い取り組みだと思う。」「資料を作るのが結構大変だった。」「この職業に興味のある生徒とずっと話せたらよかった。」「タイマーがあると話やすいと思った。」といった感想が聞かれました。								
高校生の声	「仕事の大変さや楽しさなどの話をたくさん聞けて進路の視野が広がりました。」「職業に就くきっかけ、大切なことを考えたいと思った。自分のやりたいことを真剣に考えたい。」「自分が知らなかったことを学びました。」「小さい頃の夢はそのまま叶うこともあるし、別の形となって叶うこともある。」「今現在、県外に行ってしまう人が多い中、地元に残り仕事を通して地域貢献しているんだと分かった。」								

活動の様子

生徒からいろいろな質問が出て丁寧



生徒代表から先輩のみなさんへお礼の言葉がありました。



気軽に話ができるグループトークでは、笑い声も飛び交う



先輩講師のみなさん、最後にメッセージをいただきました。



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	キャリア		提供者	最上総合支庁地域産業経済課		
プログラム名	しごとトーク～若手従業員のリアルなお話～					
日時	①令和5年11月16日（木）13:20～15:20		場所	県立新庄北高等学校最上校		
協力者	(株)アイシン精機山形工場、沼田建設(株)、(株)医療救急サービス、農業生産法人(株)アイオイ					
参加者(延べ)	高校生	33人	地域の大人・大学生	4人	合計	37人

目的 (地域課題・達成目標)	地域の職場で働く若手社員から、高校生に対して、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらう。地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらい、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等促進につなげる。
プログラム内容	グループごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。
実施に当たっての工夫	①今の仕事の紹介、②学生時代の話、③今の仕事との出会い、仕事に就いたきっかけ ④仕事で大切にしている価値観・やりがい・こだわり、⑤高校生へのメッセージ この5項目についてスケッチブック（20枚程度）に記載いただき、当日、それをめぐりながらお話をいただく。
目的に対する成果	質疑応答では学校側の要望もあり、各生徒に「ふせん」を1冊渡し、先輩トークの間に質問や感想などをふせんに書いておき、それをもとに生徒が質問する方式。生徒も積極的に質問をしていた。ふせんは各グループの交流時間が終わったらゲストの背面（黒板）に貼ってある模造紙に貼り付け、最後に模造紙を総合支庁で預かり、全てのふせんの内容を後日、ゲストの方にお渡しした。
所感・感想改善点	今回のゲスト4名のうち、2名が「最上校」出身者でうち1名がこの春に卒業したばかりの先輩。ほか2名は「新庄東高」出身者。4名とも地元に住み続けている方々。 最上校出身のゲストの2名は特に緊張している様子だったが、「参加できて少し自分に自信が持てた。」「自分の仕事をしっかり伝えることができた。緊張したけど楽しかった。」との感想が聞かれました。
高校生の声	「高校生活を大切に過ごすことや働くことの大切さを学んだ。」「基本になることをしっかりとし、オンとオフの切り替えをすることを学んだ。」「自分がやりたいことをした方がいいと思った。」「とにかく勉強する。後悔しない高校生活を送ろうと思った。」「地元には私が知らないだけで多くの仕事があることを知ることができた。」「あいさつ、コミュニケーションはやっぱり大事。」「

活動の様子

開会・オリエンテーション



少しでも興味あるある仕事を見つけ
てねとアドバイス。



最上校出身の先輩講師。後輩たちに熱心に仕事を紹介していました。



福祉や介護の仕事もいろいろな分野があることを紹介していただきました。



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	キャリア		提供者	最上総合支庁地域産業経済課					
プログラム名	しごとトーク～若手従業員のリアルなお話～								
日時	①令和6年1月19日（金）9:30～11:20			場所	県立新庄神室産業高等学校真室川校				
協力者	(株)ヨコタ東北、もがみ中央農業協同組合真室川支店、自衛隊山形地方協力本部新庄地域事務所								
参加者(延べ)	高校生	10	人	地域の大人・大学生	3	人	合計	13	人
目的 (地域課題・達成目標)	地域の職場で働く若手社員から、高校生に対して、自身の経験に基づく仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらう。地域の事業所の魅力や地元で暮らすことの良さを感じてもらい、様々な職業で働くイメージ喚起を図り、地元事業所への就職等促進につなげる。								
プログラム内容	グループごとに分かれ、若手社員から仕事のやりがいや暮らしについて語ってもらい、その後意見交換を行う。								
実施に当たっての工夫	①今の仕事の紹介、②学生時代の話、③今の仕事との出会い、仕事に就いたきっかけ ④仕事で大切にしている価値観・やりがい・こだわり、⑤高校生へのメッセージ この5項目についてスケッチブック（20枚程度）に記載いただき、当日、それをめくりながらお話をいただく。								
目的に対する成果	オリエンテーションの後、生徒は3グループに分かれ、トークゲストが各教室にて、自作の「紙芝居」を使って自らの仕事の内容・魅力などについて話しをした。（質疑応答を入れて約20分）終了後、生徒らは別のゲストの教室に移り、同じようなトーク交流を3回繰り返し、生徒らは3名のゲスト全員の話を聞くことができた。								
所感・感想改善点	今回のゲスト3名のうち2名は「真室川校」出身者。 ゲストの方からは、「仕事の魅力を伝えることができた。」「人数がちょうどよかった」「高校生の意見を聞くことができた。」との感想があった。 今回のゲストからは人数がちょうど良いとの意見も出たが、来年度以降も参加者が10人程度であれば、全員でゲストの話を聞く形式にするなど、学校側に相談しながら実施方法を検討していきたい。								
高校生の声	「地元で働くことの魅力を知ることができたので、地元に残りたいと思った。」「自衛隊の組織にはいろいろな職種があることが分かった。」「コミュニケーション力の大切さについて知ることができました。」								

活動の様子

開会・オリエンテーション



ヨコタ東北のはがせる食品トレイをはがしてみよう！



地元での暮らし方やプライベートについての質問がありました。



自衛隊は最上地域で働くこともできるよ。



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	キャリア		提供者	最上総合支庁保健企画課					
プログラム名	聞いてみよう！最上の医療・福祉のはなし								
日時	①令和5年8月7日（月）13:45～16:00			場所	新庄市民プラザ（第4研修室）				
					新庄市民プラザ（第5研修室）				
					新庄市民プラザ（第6研修室）				
協力者	最上地域保健医療対策協議会								
参加者(延べ)	高校生	13	人	地域の大人・大学生	7	人	合計	20	人

目的 (地域課題・達成目標)	最上地域は医師をはじめとした医療・介護従事者が他の地域に比べ不足している状況にある。最上地域の将来を担う若者に医療・介護職への関心を深めてもらい、将来的に最上地域で就業する医療・介護従事者の確保・定着に結び付ける。
プログラム内容	参加者は前半「看護師」、「作業療法士」の2つ、後半は「薬剤師」、「助産師」、「理学療法士」の3つのコースに分かれ、希望する職種で、仕事の具体的な内容・やりがい等について講師から話を聴く。講師については、最上地域で活躍する看護師、作業療法士、薬剤師、助産師、理学療法士の方々に依頼し、参加者からの質問に答えていただきながら、懇談を進めた。
実施に当たっての工夫	参加者が積極的な姿勢で参加できるよう、以下の点を工夫した。 ・申込の時点で希望する職種について、第1希望、第2希望まで記入していただき、その集計結果を基に職種の選定を実施した。 ・各会場でプロジェクタ、スクリーンを使用し、具体的なイメージが参加者により視覚的に伝わるようにした。
目的に対する成果	事業実施後のアンケートでは、「普段聞くことができない、実際に働いている方のお話を聞くことができてすごくよかった」「医療に関わる仕事は、人との関わりが多く大変なこともあるが、その分やりがい大きいことがわかった。今から様々な人と関わり、コミュニケーション能力を上げていきたい」などの感想が寄せられ、医療職の仕事への興味・関心や、医療分野への就業志望意欲を高めてもらうことができた。
所感・感想改善点	令和3年度から、事前に希望職種（1職種）を調査したうえで講師の選定を実施している。今年度は、希望職種の調査を2職種に増やし、可能な限り希望に沿った講師の選定を実施した。今年度の事業実施後のアンケートの結果では、「今回の進め方でよい」との回答が10割となり、好評だった。一方で、参加者数が昨年度に比べ大幅に減少したことから、開催方法（開催時期含む）及び内容についてさらなる検討が必要。
高校生の声	・今までの薬剤師のイメージが一新されて、とても参考になった。 ・さらに最上地域で医療従事者として働きたいという思いが強くなった。 ・実際の理学療法士の方の話を聞くことができ、どのように患者さんと関わっているかなどの細かい部分まで知ることができた。

活動の様子

薬剤師コース



看護師コース



助産師コース



理学療法士コース



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	キャリア		提供者	最上総合支庁保健企画課			
プログラム名	最上の暮らしを守る最前線！医療現場見学会						
日時	①令和5年8月8日（火） 14:00～16:00		場所	①新庄徳洲会病院			
	②令和5年8月9日（水） 14:00～16:00			②新庄徳洲会病院			
協力者	最上地域保健医療対策協議会						
参加者(延べ)	高校生	13人	地域の大人・大学生	7人	合計	20人	

目的 (地域課題・達成目標)	最上地域は医師をはじめとした医療従事者が他の地域に比べ不足している。将来を担う若者に医療職への関心を深めてもらい、将来的に最上地域で就業する医療従事者の確保に結び付けることが目標。
プログラム内容	両日とも同じプログラム内容で実施。①見学場所に配慮して院内を見学（リハビリテーション、透析室、救急外来、薬剤部など）。各日1～2班に分かれ、新庄徳洲会病院の職員の方々から説明を受けながら、院内を回った。②その後、医療従事者の方々（看護師、放射線技師、理学療法士、作業療法士）との懇談を行い、参加者からの質問に対し、様々な職種の視点から回答していただいた。
実施に当たっての工夫	参加者から、「志望職種」「質問事項」を事前に提出していただき、新庄徳洲会病院側にお伝えすることで、あらかじめ懇談に参加する医療従事者の方々が回答を準備することができ、スムーズに懇談を進めることができた。
目的に対する成果	事業実施後のアンケートでは「働いている現場を見ることができて視野が広がった。自分の目指す職に楽しさを改めて考えることができた」「やりがいをもっと感じることができる職業だと改めて話を聞いて思った」などの感想が寄せられており、医療従事者への志望意欲をさらに高めてもらうことができた。
所感・感想改善点	参加者から事前に「志望職種」を提出していただくことで、その志望職種に合わせて懇談に対応いただく医療従事者の方々を手配いただき、自分が志望する職種の方に直接質問することができて、参加者にとって貴重な機会となった。昨年度は新型コロナの影響で開催中止となったが、今年度は見学場所は限られたものの、新庄徳洲会病院の方々から多大な御協力をいただき、無事開催することができて良かった。
高校生の声	・ 普段は見ることができない場所（透析室など）を見せてもらった。これから医療従事者となる進路に向かって頑張ろうと思った。 ・ 有意義な時間が過ごせた。自分が目指す救急の現場に入り、モチベーションが上がった。将来的に地域に貢献できる看護師として還元できればと思った。

活動の様子	
見学の様子①救急外来	
見学の様子②リハビリテーション室	
見学の様子③透析室	
先輩方との懇談	

新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	キャリア			提供者	最上総合支庁建設総務課				
プログラム名	ふるさとをまもり未来をつくる土木技術者のはなし								
日時	①令和5年10月26日（木）10:00～12:20			場所	山形県立新庄神室産業高等学校				
協力者	山形県建設業協会最上支部青年部								
参加者(延べ)	高校生	21	人	地域の大人・大学生	21	人	合計	42	人
目的 （地域課題・達成目標）	人口減少、高齢化が顕著に進む中、我々の社会基盤を支える建設業の担い手の確保が喫緊の課題。地域の仕事の魅力を次代の若者に伝えるとともに、建設業界の理解を深め、ふるさとで活躍する意識を持つ生徒を増やす。								
プログラム内容	①地域の建設業に従事する若手技術者4名から、仕事の充実感、やりがい、夢などをパネルディスカッション形式で紹介。 ②意見交換会で、5～6人の4グループ毎に、建設業に従事する若手技術者達から仕事をする上で必要なもの、職場環境、プライベートのことなど、リアルな話をしてもらった。								
実施に 当たって の工夫	①パネルディスカッションでは、パネラーへの事前アンケートを行い、1日のスケジュールや写真等についてスクリーンに投影し、生徒がリラックスしてイメージしやすい説明に努め、コーディネーターも情報共有しておくことでスムーズな進捗ができた。 ②参加生徒に事前アンケートを行い、アンケート結果を意見交換時の話題とするなど、活発な意見交換が行われる環境づくりに努めた。								
目的に対する 成果	高校生への事前アンケートでは、就職するとき不安に思うことについて、「上司や先輩との人間関係」や「仕事の習得」が上位であったが、先輩から話を聞き出したことにより、それらの不安が軽くなったとの意見が多くあった。また、「建設業」と聞くと、体力的にきつい危険な仕事というイメージが先行していたようだが、休日の取得など働きやすい環境が整っていること等の話を聞いて、考えが変わったという声が聞かれた。								
所感・感想 改善点	来年度（案）⇒「高校生に伝えたい私の仕事の魅力とそれにまつわる物語」をテーマにパネリストに事前アンケートを実施。それを基にプレゼンテーション用パワポを作成する。【構成例】①自己紹介、②仕事の内容（1日のスケジュール）、③私の学生時代、④今の仕事との出会い、きっかけ、⑤仕事で印象に残っているエピソード、⑥この仕事で大事にしている思い・こだわり・やりがい、⑦休日の過ごし方、⑧高校生へメッセージ パネリストは普段の仕事が忙しいので、プログラムを充実させるため可能な限り対応したい。								
高校生の声	・建設業は危険な仕事といったマイナスなイメージがあったが、話をしてくれた人たちもとてもフレンドリーで楽しく話を聞かせてもらいイメージが変わった。土木建築のありがたさや普段では聞けない建設業界の細かい情報、資格取得の大切などを知ることができた。 ・建設業界は休みが少ない仕事だと思っていたがそんな事はなく、意外と休日もあるのだなということがわかった。								

活動の様子

先輩のリアルな話に
聞き入る高校生



パネルディスカッションの様子



意見交換会の様子



意見交換会の結果を
発表する高校生



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	課題発見・解決			提供者	最上教育事務所				
プログラム名	Youは何する？最上（てっぺん）で！								
日時	①令和5年8月18日（金）17:30～19:00			場所	オンライン会議				
	②令和5年10月14日（土）9:30～16:00				新庄駅～最上町内				
	③令和5年11月5日（日）9:00～15:00				最上総合支庁内調理室				
	④令和6年2月3日（土）9:00～16:00				ゆめりあ				
協力者	青年ファシリテーター、お食事処「千起」今井さん								
参加者(延べ)	高校生	15	人	地域の大人・大学生	8	人	合計	23	人

目的 (地域課題・達成目標)	地域の課題をつかみ、地域活動を実践することにより、地域の良さに気づく。さらに、活動によりつながった地域の大人や仲間とともに、今後も地域活動に携わる。
プログラム内容	①プログラム説明会（プログラムの概要、活動スケジュール、手順等の説明、企画書作成と支援体制の説明等） ②プログラムの計画、準備 ③奥の細道最上ラインの実施/最上ラーメンづくりの実施/最上地区ヤングボランティア交流会&フェスティバルで「Youは何する？最上で！ブースの運営」
実施に当たっての工夫	青年ファシリテーターの助言のもと、高校生企画者が最上の魅力を発見するためにやってみたい活動を企画し、実践するという、高校生が主体的に活動できるプログラムとした。 オンライン会議やSNSへの投稿を通して、高校生企画者との情報交換を行った。 お食事処千起と協力することで、実際に食堂で提供することができた。
目的に対する成果	高校生企画者が自分が企画した活動に取り組み、企画を実際に行っていくまでの大変さを感じたり、やってみての充実感などを得ることができた。列車での活動では、最上町の人々と触れあうことで、交流することの楽しさを感じた。また、ラーメンづくりでは、伝承野菜など地元に残る物の価値に触れた。また、ヤングボランティア交流会&フェスティバルでは新たな参加者も加えて、工作ブースの運営を行い、子どもたちと交流ができた。
所感・感想改善点	参加者が少なかったが、その分、自分が考えた企画を考えた通りに近い形で実施することができた。企画する段階では、大変さを感じることもあったが、青年ファシリテーターや地域の大人との関わりの中で実施に向けて計画していくことの楽しさを味わうことができた。参加者が増えることで、多くの方の視点からダイナミックに企画することも可能になると思うので、参加者及び協力者の募集の方法を工夫していきたい。
高校生の声	・計画の難しさやそれを乗り越えた時の楽しさが分かった。 ・料理をまともにしたことのない自分が、地元の食材コーナーを見るようになり、食材の活用法を考えるようになった。 ・創意工夫で地産地消は可能であることが分かった。 ・交流の楽しさを学べた。

活動の様子	
「最上ラーメンづくり」最上総合支庁の調理室を会場に調理に取り組みました。 	「最上地区ヤングボランティア交流会」ブース運営で子ども達と交流しました。 
「奥の細道最上ライン」最上町内の駅に降車し歩いて魅力的な場所等を探索しました。 	「奥の細道最上ライン」沿線で見つけたものを地図に表しました。 

新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	最上小国川清流未来振興機構				
プログラム名	最上小国川鮎釣り甲子園～最上小国川の文化に触れる～								
日時	①令和5年7月29日(土) 8:00～13:00			場所	最上小国川おらだの川公園付近(最上町)				
協力者	鮎釣り指導者(大人)								
参加者(延べ)	高校生	25	人	地域の大人・大学生	17	人	合計	42	人
目的 (地域課題・達成目標)	最上地域には最上小国川という素晴らしい鮎釣りの聖地があるが、高校生はその魅力や文化に親しむ機会がない。鮎釣りを通して郷土愛を育むとともに、歴史文化や清流の素晴らしさを感じてもらうことにより、流域の魅力や文化に対する意識の醸成を図る。								
プログラム内容	鮎釣り指導者(大人)の協力を受け、指導者1人につき、高校生2名の班を作り、3時間の競技時間で鮎の釣果を競った。参加者は競技の間、鮎釣り文化や地域の魅力について話しながら釣りに熱中した。1位から3位の上位入賞者には賞品を準備し、参加者全員に参加賞のほか最上町、舟形町の特産品を使った特製の昼食を振る舞った。								
実施に当たっての工夫	熱中症予防のため、参加者・スタッフ全員に飲料等の配布と呼びかけを行うとともに、本部に保健師を配置し緊急時の体制を整備するなど対策を徹底したため、ケガ人や熱中症等による体調不良者は発生しなかった。また、電車で来場の参加者向けに最寄り駅からの送迎バスを用意し、高校生が参加しやすいよう配慮した。								
目的に対する成果	アンケートの結果、ほぼ全員がプログラムに対し充実感を覚えていた。指導者との交流もあったため、鮎釣りの手法といった学校では学べないことを初め、鮎釣り文化の魅力がとても伝わった内容になったと伺える。プログラムを通じて鮎釣りに興味を持った参加者も多く見られ、郷土愛の醸成や清流文化の素晴らしさを伝えることにおいて大変有意義なものになったと感じる。								
所感・感想改善点	水分補給のアナウンスや釣り場の近くに水分補給用のクーラーボックスを配置することに加え、天気の情報収集や救護体制の徹底など、安全面は十分配慮した。参加者にとっては、楽しみながら地域の文化と地域の大人と関わる貴重な機会になったと思う。参加者の中には、参加申込みしたことを忘れていた者や急なキャンセル者が多くいたため、次回からは学校を通じて事前連絡を行うなど対策を検討したい。								
高校生の声	・鮎の力強さや、知らないだけで身近なところ楽しく遊べる場所がたくさんあることを知った。 ・鮎釣りの楽しさ、地域の自然の良さを学んだ ・鮎釣りの仕方や鮎の習性について学んだ								

活動の様子

集合写真



鮎釣りの指導を受ける参加者



見事鮎を釣り上げた指導者とともに喜ぶ参加者



上位入賞者と指導者の記念写真



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	グラッシーデザイン株式会社		
プログラム名 高校生モニター募集！							
日時	①令和5年8月8日（火）13:00～15:00			場所	雪の里情報館 雪国文化ホール		
協力者	大阪屋 齋藤豪様・深田菓子舗 深田裕介様・Curio 武田秀勝様						
参加者(延べ)	高校生	24人	地域の大人・大学生	12人	合計	36人	
目的 (地域課題・達成目標)	簡単にモノを購入できる今、これからも地元にあるお店がモノを買う場所という選択肢として残っていく時に、地域の人との関わりは必要だと考えた。モニター体験を通し、地元のお店を知る・様々な視点で物事を見る、そのような機会を提供したいと思い開催した。						
プログラム内容	大阪屋 齋藤豪様・深田菓子舗 深田裕介様・Curio 武田秀勝様にお菓子をご提供いただき、参加者の皆様にはモニターとして、商品を試食をしていただいた。お店のこと・商品への想い・製作のストーリーなどパティシエの方の話を聞きながらの試食会となった。						
実施に 当たって の工夫	記入シートに、試食するお菓子の感想やプレゼン内容に関するコメントをいただいた。そのシートを用いることで、参加者の方が意見をまとめること・評価することを意識できるようにした。						
目的に対する 成果	地域のお店とそこに住む人とをつなぐことができた。一度だけでは大きな影響を生むには難しいかもしれないが、今回参加した高校生や一般参加者の方からその周りの人へとつながるきっかけになったと考えられる。						
所感・感想 改善点	アンケートを取る中で、3店舗さんのことを知らない・行ったことがないと答える高校生が多く、そのような方々に働く人を知ってもらい、お菓子を食べていただく機会を提供でき良かった。お菓子の評価内容も、こういった点が良く・ここがこうなったらもっと良いなど具体的に評価し、自分の意見をきちんとまとめてくださっていたので、協力いただいた菓子店さんにも充実したフィードバックができた。 食べ物が関わるプログラム内容なので特に開催する環境・時期はとても大事だと感じた。						
高校生の声	・地域のまだ知らない魅力や特産物を知ることが出来た ・お菓子に対する熱意や、お菓子の劣化などプロ目線の話学ぶことが出来た ・たくさん失敗などをして1つ1つ自分の目標に向かって頑張ることを学んだ						

活動の様子

一つ目のお菓子（大阪屋）に夢中になる参加者



深田菓子店 ピーナッツタルト



キュリオ 武田さんによるプレゼン



パティシエ御三方への質問タイム



カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	株式会社JPD			
プログラム名	ゆめりあマルシェを一緒に盛り上げよう！							
日時	①令和5年10月27日（金）13:30～15:30			場所	最上広域交流センターゆめりあ			
協力者								
参加者(延べ)	高校生	7人		地域の大人・大学生	3人		合計	10人
目的 (地域課題・達成目標)	・イベント準備には当日のツールづくりや人員の配置、演出を含めた総合的な設計が必要となる。マルシェのイベントの舞台裏を知ること、柔軟で創造的な思考と気づきを得る。 ・運営補助として作業の一部を体験してみる。							
プログラム内容	始めにマルシェの概要説明を通じて、イベントを実施する意図と開催までの流れを知ってもらいました。またツールづくりの一環として、次回のイベントに向けた出店者リサーチとポスターの作成を行いました。出店者リサーチでは、Instagramやネットの情報をもとに自分が気になるもの、来場者が興味を持ちそうな店舗を1つ決めて、発表しました。							
実施に当たっての工夫	運営補佐として事務作業をこなすだけではなく、出店者を募集する際はどのようなお店がいいのかリサーチして自分たちで考え伝えられるような場を設けました。マルシェの開催意図や流れを伝えられるように、事前にPPTを作成して活用しました。							
目的に対する成果	イベントを運営するにあたって、どういう背景でイベントを開催することになったのか、開催するまでに必要な作業は何かを伝え、舞台裏を知ってもらいました。また、自分たちでデザインしたポスターを作成しマルシェの宣伝のため掲示。来場者に見てもらうことができました。							
所感・感想改善点	・ツールづくりの際に作成する意図をあらかじめ説明し、助言や見本を見せながらコミュニケーションをとることで高校生が戸惑わないで作業に入れたと思う。 ・時間配分やチーム分けなど、詳細まではっきり決める。 ・設問をきめたりリサーチ用紙を作成するともっと考えを深められたと思う。 マルシェ自体を知らない生徒も多く、今回のプログラムを通じて運営や出店者について知ること、高校生の興味を多方面に拡大するきっかけになればいいと思います。							
高校生の声	・元々のマルシェの意味やゆめりあマルシェがどんな風に行われて人々は何を感じているのか学ぶことができた。 ・マルシェは、地域を活性化させたり、地域の人との関わりが増える素敵な活動だと感じた。 ・お客さんのことを想像していろんな仕事をする運営側の大変さ、企画を立て、実行するまでの大変さを知ることができた。							



活動の様子			
ゆめりあはどんなことしてるの？			
みんなでマルシェのPOPづくり！			
でマルシェに呼ばたいお店をインスタで探してプレゼン！			
作成したPOPは会場のあちこちに掲示！			

新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク		提供者	株式会社JPD	
プログラム名	未来創造戦士ユメリオンのステージを創ろう				
日時	①令和5年9月3日（日）10:00～14:00		場所	最上広域交流センターゆめりあ	
	②令和5年9月16日（土）14:00～16:20			同上	
	③令和5年9月17日（日）9:00～13:20			同上	
協力者	ゆめりあ未来創造共同企業体				
参加者(延べ)	高校生	10人	地域の大人・大学生	6人	合計16人
目的 （地域課題・達成目標）	イベントの準備（ツールづくりや人員配置、演出など）を含めた裏舞台を知り、実体験することでエンターテインメントを立体的にとらえることを目的とし、コンセプトワークの大切さを学んでいただきます。				
プログラム内容	ショー開催の2～3週間前に動線の確認と打ち合わせを行い、それに向けた練習と準備を行います。ショー当日は、運営補助としての参加、エキストラとしてステージ出演もしていただきます。また、同時にショップの運営（グッズ販売）、出演者のサポート、観客の誘導なども行っていただきます。				
実施に 当たって の工夫	適正を判断し、参加者を2グループに分け、演者と裏方（サポート）スタッフとしてそれぞれ業務に取り組んでいただきました。				
目的に対する 成果	エンターテインメント業界を実際に体感していただくという意味では、座学、演者、裏方サポートの全てに取り組んでいただきました。特にアクシデントやトラブル、怪我などもなく、概ね目標については達成できたと評価しています。				
所感・感想 改善点	それぞれが自分の持ち味を活かして一生懸命に業務に取り組んでいただいたこともあって、短い期間ながら精力的に取り組んでいただけたのではないかと思います。最初は硬い印象もありましたが、終盤は表情も和らぎ、楽しんで活動していただけたのかなと思っています。「参加してよかった」という声をいただくことができ、こちらも満足しています。				
高校生の声	「今まで知らなかった地域の魅力を知ることが出来た」「地域の大人と活動できてよかった」「活動に参加して自分自身が成長できた」「将来を考えるきっかけになった」				

活動の様子

ゆめりあ支配人より、エンターテインメントの世界について、講義を受けました。



ステージ上での実際の動きについて台本を片手にレクチャーを受けます。



ステージを作るためのサポートスタッフ、各班も一生懸命者運びと設置作業。



参加者全員で記念撮影、「ありがとう素晴らしいステージだったぜ！（ユメリオン）」



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	株式会社ヌマザワ				
プログラム名	新庄・もがみSDGs体験ツアー								
日時	①令和5年8月3日（木）9：00～17：00			場所	株式会社ヌマザワ				
					明安食学校				
協力者	（株）食のカコーポレーション・もがみバイオマス発電（株）・大学生								
参加者(延べ)	高校生	8人		地域の大人・大学生	7人		合計	15人	
目的 （地域課題・達成目標）	地域課題に対する「当事者意識」と未来を切り拓く「思考力」の醸成を図ることを目的とします。								
プログラム内容	私たちの身近な問題である「食料問題」と「エネルギー問題」についてSDGs思考で学習する体験型プログラムです。食料問題に関しては次世代のお肉と言われている大豆ミートを生産・加工・販売をしている食のカコーポレーション（金山町・旧明安小学校）へ、エネルギー問題に関しては木質バイオマス発電をしているもがみバイオマス発電（株）に見学に行きました。								
実施に 当たって の工夫	参加高校生の学びの主体性を高めるために、課題を与えて自由な形式でグループワークを実施しました。また、伴奏者として新卒社会人やインターン学生にも参加を頂き、先輩後輩の絆を深めました。さらにプログラムの最後に協力企業に参加いただき高校生の発表を聞いて頂きました。								
目的に対する 成果	「食料問題」と「エネルギー問題」に対する知識・認識・見識を深めることで社会課題を自分ごとと感じてもらいました。また、学ぶだけでなく、これからの自分達の行動変容につながる学習ができたと思います。								
所感・感想 改善点	・プログラムの初めに本日の目的とゴールを共有できたことは大変よかったと感じています。 ・グループワークの発表形式を自由にすぎたと反省しています。限られた時間で一つの回答を導き出すにはある程度フォーマットを決めておくべきでした。 ・スタート直後にアイスブレイクを入れるとさらに有意義な時間になったのではないかと反省しています。この反省を次回にいかしたいと思います。								
高校生の声	・今まで知らなかった地域の魅力を知ることができた、活動に参加して自分自身が成長できた、地の大人のひとと活動できてよかった。 ・SDGsのためにこんなにもたくさんのところがたくさん工夫して活動しているんだなあ感じました。								

活動の様子

グループワークの様子



意見発表の様子



明安食学校の様子



もがみバイオマス発電所の様子



カテゴリー	キャリア			提供者	ユニクロ新庄店				
プログラム名	世界2位のアパレル企業 ユニクロのここがすごい！								
日時	①令和5年8月19日（土）8：30～11：00			場所	ユニクロ新庄店				
	②令和5年8月20日（日）8：30～11：00				ユニクロ新庄店				
協力者									
参加者(延べ)	高校生	20	人	地域の大人・大学生	8	人	合計	28	人
目的 （地域課題・達成目標）	高校卒業後、新庄最上から進学で県外へ行かれた方がまた地元に戻ってきて地元を盛り上げてくれるように、高校生の皆さんへ将来のことを考えるきっかけになればいいなという思いで参加いたしました。								
プログラム内容	前半は店長のキャリアの紹介、ユニクロの会社説明、仕事選びの視点、将来何がしたいんだろう？これらを一緒に考えていく。後半はユニクロの商品を使ってコーディネート提案していこう。テーマに沿って、要望通りのコーディネートを組めるかな？スタッフがフォローしつつ行う。								
実施に当たっての工夫	自分が高校生だったら何を知りたいか、どんな使い方なら伝わるか考えて資料を作った。当日は、高校生が自分の考えや意見を発信しやすいよう接した。学びたいことを学べるように、1回目と2回目で内容を少し変更した。								
目的に対する成果	高校生の皆さんのアンケート結果から、将来について考えるきっかけになった。コーディネートが楽しかったとの意見をいただき目標は達成されたと感じている。昨年からの取り組みだがこの先も継続して続けていきたい。新庄最上だけでなく、ユニクロ全店でもできる施策と思うのでこの取り組みをジモト大学の皆さんに全国へ広げてほしい。								
所感・感想 改善点	地元の高校生とお客様という立場以外で関わることはなかったので非常に貴重な機会となりました。本当にありがとうございます。皆さんの興味が、キャリアよりも、コーディネートに寄せられ盛り上がりましたが、アンケート結果ではキャリアについて考えるきっかけになったとの回答をいただき意味のある講演会だったのかなと感じました。改善点として、実施の前に高校生が何を学びたいのかが先に知れるといいなと思います。座席量を作ってお名前を呼べるよう次回移行していきます。								
高校生の声	・店長の話聞いて自分を知る大切さや服の試着をして服の良さをあらためて感じる事ができました。 ・接客するうえで大事なこと、就職する直前に自分のことを分析するのではなく、普段から自分はどんな人なのかを知っておくことが大事だと感じました。 ・オシャレの仕方や将来の仕事の選び方、ユニクロがどのように成長していったかがわかった。								

活動の様子

店長のキャリアについて



ユニクロの接客体験！



TP0にあったまたお客様の要望に合わせたコーディネート



みんな集合写真で！



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	株式会社宮城				
プログラム名	今年のお祭りは浴衣で出掛けよう！着物男子也大歓迎！								
日時	①令和5年8月6日（日）10:30～12:00			場所	株式会社宮城				
	②令和5年8月20日（日）10:30～12:00								
協力者									
参加者(延べ)	高校生	22	人	地域の大人・大学生	4	人	合計	26	人
目的 (地域課題・達成目標)	若い人達たちにとって一番身近な浴衣を実際に着てみることによって、日本が大切に伝えてきた和装文化に興味を持ってもらうと共に、その文化が地域や世代と結びついたものである事に気付いてもらう。								
プログラム内容	女性は浴衣と半幅帯、男性は浴衣と角帯で着方を練習する。高校生3～4名に1名の講師で指導。浴衣を羽織るところから、帯を結んで完成まで実際にやってみる。浴衣を持っていない場合には、こちらでレンタル浴衣一式を用意。								
実施に 当たって の工夫	浴衣の着方を親しみやすいイラストで示したプリントを男女共に用意した。 また着方の手順を口頭で説明する際に必要な、浴衣を構成するパーツの呼び方を知ってもらう為の図を用意。その呼び方を使った慣用句（「袖の下」「懐手」など）を紹介して、着物に関する用語に親しめるように心掛けた。								
目的に対する 成果	浴衣の着方をマスターするだけでなく、服飾史を交えての浴衣の成り立ち、着用する場合のTPOや、現在の着物文化における若い方々の立ち位置なども知ってもらえればと思いお話ししたところ、興味深く聞いてもらえたように思う。								
所感・感想 改善点	着物離れが叫ばれて久しいが、浴衣を1人で着てみたいという高校生の意欲の高さに驚かされた。また親御さんやお祖母様に用意してもらったという浴衣を通じて、地域の風習や家族との思い出を繋ぐものとしての「キモノ」の意義を再認識してもらえたように思う。 また、昨今の着物にブーツや帽子を合わせる自由な着方も総括の中で紹介し、着物＝堅苦しいものではなく、明治大正の若者のように品格を保ちつつ流行を取り入れ自由な着こなしを自ら提案してくれるようになっていってくれたら嬉しいと伝えた。								
高校生の声	○今まで知らなかった地域の魅力を知る事が出来た。 ○プログラム内容に興味・関心があり、将来役に立ちそうだった。 ○地域の大人のひとと活動出来て良かった ○普段、学校では出来ない体験が出来た。活動を通じ自分の成長を感じた。 ○他校との交流の輪が広がった。								

活動の様子

日本における着物文化、着物の性質を学ぶところからスタート！



浴衣の羽織り方、帯の結び方を学び着付けにチャレンジ！



気つけた後は思い思いに撮影会！



最後はしめやかに礼儀作法で終了！



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	課題発見・解決	提供者	新庄TCM株式会社
プログラム名	新庄・最上を盛り上げよう「Fiestafesta2023」		
日時	①令和5年7月17日(月) 16:00~17:30 ②令和5年7月23日(日) 15:00~17:00 ③令和5年8月19日(土) 10:00~18:00	場所	こらっせ新庄Fiesta
協力者	こらっせ新庄、ツルオカクロージングストア、JPD、地域の大人、新庄最上出身の大人		
参加者(延べ)	高校生 36 人	地域の大人・大学生 33 人	合計 69 人
目的 (地域課題・達成目標)	地域の若者が流出している。学生時代の「地域活動への関わりの深さ」とそれが生み出す「地域への愛着の強さ」が回帰要因に大きな影響を与えていると言われるため、学生時代に地域社会に影響を与えた足跡、成功体験を作る場を作る		
プログラム内容	「学生が主催し、地域の大人が支える構図」のイベントを行う。学生の自主的な行動を促すとともに、実現に要する学生で賄えない技術、知識、物品支援を大人が補助する。 全般運営、ステージ、出店者管理、自店舗運営をチームで行い、リーダーシップ、企画力、行動力の向上を図り、やりきる精神力の涵養を行う。		
実施に当たっての工夫	ミーティングにおいて、地域課題とやりたいことの案出を行う。 全般の企画が決まり次第、小セルグループに分割し、実務的な内容を詰めていく 大人がそれぞれの担当に就き、助言を行うが、指導的な誘導はしない。 失敗は当然というスタンスで進めていく		
目的に対する成果	イベントは事故なく、大きな問題なく終了できた。また、イベントの現状を把握分析し、自主店舗等の企画を行い、より良いイベント作りを目指した自主的な行動が良好であった。		
所感・感想改善点	運営をはじめ、ステージ、自店舗のそれぞれの役割を分担し完遂することができたが、全期間を通して、部活等により、学生が参加できるスケジュール確保が困難だった。各部署のリーダーメンバーの学生が全員集まってミーティングを行うことができず、部署間の連絡調整や情報共有が不十分となった。		
高校生の声	実際に仕事にしている大人から教えてもらいながら自店舗やMC等、普通では経験できないことをできた。 部活で全体的に時間確保が難しく、思っていたより企画を詰めることができず、最終的に大人にお願いする部分が多くなってしまった。		

活動の様子

新庄最上の高校生が集まり、イベントを企画		大人が、高校生の企画するものをサポートしていく	
高校生のイベントで商店街に活気が生まれる。また、高校生も商店街との関わりが生まれた。		高校生が商品を考え、仕入れ、売り上げ目標、販売までの流れを経験のある大人から学び実践する	

新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー		課題発見・解決		提供者		新庄TCM株式会社	
プログラム名		新庄・最上を盛り上げよう「FiestaFesta2023」					
日時		①令和6年2月24日(土) 10:00～18:00		場所		こらっせ新庄Fiesta	
		②令和6年2月25日(日) 10:00～18:00				こらっせ新庄中央ホール、キッチン等	
協力者		こらっせ新庄、地域の大人、新庄最上地域おこし協力隊					
参加者(延べ)		高校生	14人	地域の大人・大学生	8人	合計	22人

目的 (地域課題・達成目標)	地域の若者が流出している。学生時代の「地域活動への関わり」の深さ」とそれが生み出す「地域への愛着の強さ」が帰郷要因に大きな影響を与えていると言われているため、学生時代に地域社会に影響を与えた足跡、成功体験を作る場を作る
プログラム内容	「学生が主催し、地域の大人が支える構図」のイベントを行う。学生の自主的な行動を促すとともに、実現に要する学生で賄えない技術、知識、物品支援を大人が補助する。 全般運営、ステージ、出店者管理、自店舗運営をチームで行い、リーダーシップ、企画力、行動力の向上を図り、やりきる精神力の涵養を行う。
実施に当たっての工夫	ミーティングにおいて、地域課題とやりたいことの案出を行う。 全般の企画が決まり次第、実務的な内容を詰めていく 大人がそれぞれの担当に就き、助言を行うが、指導的な誘導はしない。 1回目のメンバーが多いため、持続可能な取り組み意識を加えて、後輩を育成する力、任せる力をつけるため中学生スタッフの募集なども学生に行ってもらおう
目的に対する成果	イベントは事故なく、大きな問題なく終了できた。また、イベントの現状を把握分析し、自主店舗等の企画を行い、より良いイベント作りを目指した自主的な行動が良好であった。 2回目ということもあり、イベント企画から開催に関して、大人とコミュニケーションを取りながら、特に大きな問題もなくできるようになっていた。また、中学生などの後輩に教えることや業務を任せることの難しさを実感したようだった。
所感・感想改善点	1回目と同じく、イベント全般において、それぞれの役割を分担し完遂することができた。 しかしながら、学校行事や部活等により、イベントの重要な部分である企画ミーティングに参加できないことから、一部の学校の学生が離脱せざるを得ない状況になり、学校の環境により参加の偏りが前回に比べ大きくなった。コアメンバー比率：8月(南2、北1、東1)→2月(東4、北1、榎山1、中学2)
高校生の声	後輩と一緒にいることで教えることや責任を任せる度胸のようなものがついた。 大人とのコミュニケーションが前回と比べてより取りやすくなった(話している内容がわかりやすくなった、何をどう話してよいのかがわかるようになった) 部活で時間確保が難しく、幅広くやりたいことを募集しようとしたが思うように進まなかった

活動の様子

新庄最上の高校生が集まり、イベントを企画



中学生や後輩に独自に司会を任せるなど、高校生が大人に代わり次の世代に伝えていく流れを作る



若い人の文化「コスプレ」などを学生が自ら積極的に作り上げることへの理解・環境を大人が作る



高校のカリキュラムの発表の場としても活用していく。学生の活動を拡大させていくためにも、学校も利用できる場へ進化させていく



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	キャリア			提供者	東京電力リニューアブルパワー株式会社				
プログラム名	「18歳のリアル」ジブンとエネルギー社会のあした								
日時	①令和5年4月18日（火）13:25～16:15			場所	新庄北高等学校				
協力者	新庄北高等学校								
参加者(延べ)	高校生	38	人	地域の大人・大学生	2	人	合計	40	人

目的 (地域課題・達成目標)	第4次山形県総合発展計画より「政策の柱1：次代を担い地域を支える人材の育成・確保」に対応の一つとして、『社会の変化』×『自己の成長』を目指したキャリア講座を開催することで、ジモト理解、エネルギーリテラシー向上に貢献する
プログラム内容	近年、持続可能な社会づくりを進めていくための政策として地域にまち・ひと・しごとを取り戻す「地方創生」、自然災害の激甚化に対応する「国土強靱化」、地球温暖化を防ぐ「脱炭素化」という3つの柱が注目されており、それらは「エネルギー」と深い関わりがあることから、エネルギー社会の今を、キャリアデザイン講座の形式のなかで、参加学生自身を主役にした『18歳のリアル』を映し出しながら、ともに考えるプログラム。
実施に当たっての工夫	導入からクロージングまで、参加者とインタラクティブに対話していく方式を採用した。また、途中で学生自らが自身の言葉で宣言するワークや、他者との相互理解を促すためのペアワークを取り入れる等して、講義形式という形ではなく会場一体型の講座方式を志向した。
目的に対する成果	概ね目的は達成できた。地元山形（新庄・最上）から日本、そして世界のエネルギーがどうなるのか。また生きるうえで必要なエネルギーの将来に向けて、山形で何ができるのか。そのような問いについて、自ら考え、同世代の考えを聴くことで、知識としての理解が深まっただけでなく、自らのキャリアを肯定的に捉えていくためのツールを提供したことで、新たな発見があったとの声が多く聞かれた。
所感・感想改善点	会場は教室だったため、グループワークを行う際には少し間隔が近すぎる点が主催者側としては気になったが、生徒さんは慣れている様子で、付箋を使って積極的に意見を出し合っていた。発表が得意な子が多く、もっと多くの生徒さんに人前でのプレゼン機会を作れたなら、もっとよかったかもしれない。総じて、最初から最後までポジティブな空気感で教室が一体化するような場の提供ができた。
高校生の声	・18歳までは子供で、自分で何かを決断することはもう少し先であると思っていたけれど、今から関心できるものを探し、自分の意思で決めていかなければならないという意見が変わった ・きっかけは様々でも社会の役に立ちたいという気持ちが大切だと思った。具体的なキャリアプランを立てられるように沢山の経験をしてみたい。 ・東北地方の風力発電のポテンシャルが大きいことを初めて知った ・再生可能エネルギーの開発事業によって、交通、宿泊などの関連産業も活発になるという具体例で、直接でなくとも社会に貢献していると感じられる仕事にも興味をもった。 ・日本のエネルギー事情の課題の生の話を聞くことが出来て良かった。

活動の様子

SDGsを考慮してもらうための事例紹介のようす



キャリアを考えるうえでの大切な3つの「キ」を説明



入社3年目の新人講師が自身の高校時代に振り返り社会人に必要な経験についてフィードバック



中堅社員として活躍している社員からこれまでの仕事のやりがいを熱く語る



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	課題発見・解決		提供者	認定NPO法人IVY	
プログラム名	世界、日本で起きていること ～探究型学習に向けて～				
日時	①令和5年4月18日（火）8:50～11:40		場所	新庄北高等学校	
協力者	新庄北高等学校				
参加者(延べ)	高校生	38人	地域の大人・大学生	2人	合計40人

目的 (地域課題・達成目標)	最上の人口減は大きな問題であるが、日本・最上のこれからどんな社会になると良いのかを問う。 国際関係の講座が少ないことから、世界から地域を見る、地域から世界を眺める視点を養う。 探究学習のテーマ設定に「国際」の視点を取り入れることを目指す。
プログラム内容	IVYの難民支援活動を紹介し、難民と呼ばれている人たちがどんな生活を送っているのか、なぜ難民の人たちは貧しい人が多いのかを伝えます。また、開発教育協会制作のワークショップ「世界がもし100人の村だったら」「豊かさの開発」のアクティビティの一部を行います。 今の世界の現状、日本の現状をさまざまなデータを用いて示し、生徒の皆さんにこれから生きる世界がどのようにあれば良いかを考えてもらいます。
実施に当たっての工夫	ただ単に、事実を提示するのではなく、生徒自身に考えてもらうことを重視し、ワークショップ形式を講義の時間にも取り入れた。 グループワーク用のホワイトボードを活用できたこと。
目的に対する成果	視点を変えて物事を見つめることを中心に講座を組み立てたが、生徒さんの感想からもわかるように、自分とは違う環境で生活している人に思いを馳せ、また、相手の考える「豊かさ」に触れみんなが同じように考えているわけではないことに気づくことが出来た、物事はさまざまな方向（視点）から見ることで捉え方が違うこと、国際の切り口で地域を見ることを学んだ様子が窺えた。
所感・感想改善点	3コマ連続の講座であり、さまざまな要素を盛り込むことで探究のテーマ設定に役立つのではないかと、あれもこれもと欲張ってしまい、最後時間が足りなくなった。もう少し内容を絞ってもよかったと反省している。 最上にはどんな人が暮らしているかとの問いに、初め「先生・教員」しか出てこなかった。生徒たちの人生が学校中心なのだということが、ジモト大学に参加することで地域に暮らすいろいろな人に出会うことになるだろう。
高校生の声	・これまでは新庄最上など自分の身の周りにしか目を向ける機会がなかったので視野が狭くなっていたことに気づいた。世界のために働いている人も地元のために働きたい自分と本質的には変わらないと思うのでもっといろんな方々のお話を聞いてみたい。 ・豊かさと言っても人それぞれの考える豊かさというのは同じではない、ということがわかった。例えば国にとっての豊かさを考える人もいれば、個人の豊かさを考える人もいる。またお金があれば豊かなのか、時間があれば豊かさにつながるのか？考えを深めることができた。

活動の様子

講座スタート。まずは、IVYの難民支援から説明。



世界の富の偏在をおせんべいで体感する？！



世界で話されている言語を順番に当てるクイズ



地域にはどんな人が暮らしているかを書き出す。



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	課題発見・解決			提供者	認定NPO法人IVY			
プログラム名	捨てる前に考えよう！ ファッションと地球環境の関係							
日時	①令和5年9月9日（土）14:00～16:00			場所	雪の里情報館			
協力者								
参加者(延べ)	高校生	6人		地域の大人・大学生	6人		合計	12人

目的 （地域課題・達成目標）	1 普段何気なく購入している服が、地球環境に影響を与える存在になり得ること、自分の生活が環境と密接に関連していることを知る。 2 消費が地域に与える影響について、自分ごととして捉えられるようになる。
プログラム内容	「服・ファッション」（開発教育協会）をテーマに一人ひとりが問題に向き合い、公正で持続可能な社会のあり方を考えること。 1 服の生産から廃棄に至るまでその背景にある社会問題について理解すること。 2 服とファッション産業をめぐる問題を理解し、わたしたちの生活とのつながりや自分に何ができるのかを考えること。 3 倫理的な行動をすることは、持続可能な未来をつくるポジティブな行動だと捉えられるようになること。
実施に当たっての工夫	・講座のチラシを作成し、学校に配布してもらった。 ・実施に当たっては、IVYのユースチームに協力を仰ぎ、彼らが独自に製作したプログラム内容を盛り込み、当日はファシリテーションの一部を担った。 ・実際にTシャツを持参してもらい、タグを自分の目で確かめた。
目的に対する成果	アンケート回答からもわかるように、背景にある社会問題について理解し、自分たちでできることを考える機会となった。大量に生産されるものに対して、その地球環境に対する影響について、どのように考えていったらいいのか悩む姿が見られたのは、成果の一つだと思う。
所感・感想改善点	高校の新人戦と日程が被ってしまい、高校生の参加が少なかったのは残念だった。来年開催する場合は、高校の日程をきちんと把握する必要があることを学んだ。 地域の方が高校生と一緒にワークショップに取り組んでくださったことで、大人の視点に触れることができたのではないだろうか。
高校生の声	・普段着用している服、また店で販売されている服が私たちに届くまでの工程を詳しく知った。その工程の中では、沢山の問題が多くあり、考えていく必要があると思いました。 ・安い賃金で販売できている理由、服の作りすぎやそれに関連して起こる環境問題、考えたことの無い問題を考える機会になりました。 ・私たちができることの1つの方法として、これから服を買う回数を減らしたり、既に持っている服の着回し方法を考えたりして、ファッションを楽しんでいきたいなと思いました。

活動の様子

会場全体の様子



アイスブレイクの様子



IVYユースによる進行の様子



高校生と大人の対話の様子



カテゴリー	体験・フィールドワーク	提供者	高校生地域開発チームWATS
プログラム名	ライブ配信にチャレンジ！		
日時	①令和5年7月23日（日）13:00～17:00	場所	スタイルハート
協力者	WATS OG・OBグループ		
参加者(延べ)	高校生 6 人	地域の大人・大学生 7 人	合計 13 人
目的 (地域課題・達成目標)	情報発信ツールの1つであるライブ配信を経験して、将来の地域情報の発信などに役立てる。		
プログラム内容	WATSメンバーと一緒に本格的なライブ配信を体験してみよう！ライブ配信のシステムや機材の使い方を知ることが出来ます。と同時にトークライブの配信をおこないます。		
実施に当たっての工夫	ライブ配信というツールを使って、高校生に地域活動に興味を持ってもらえるよう現在、活動している高校生地域開発チームWATSの紹介なども取り入れながら、ライブ配信の仕組みなどを説明した。ライブ配信の実施においては出演、運営共にできるだけ高校生を中心に実施。		
目的に対する成果	参加者が地域活動と共に、普段接している見ているだけのライブ配信に興味を持ってもらえた。参加者の高校生の1人がこのプログラムをきっかけに、地域活動に興味を持ち、WATSに入ってくれました。良かったと思います。		
所感・感想改善点	高校生は普段、身近に接しているライブ配信ですが、実際に機材などを使用しての現場を見たのは初めてのようでした。配信に興味を持ってもらえて良かったと思います。また、地域活動にも興味をもってもらい、良かったと思います。		
高校生の声	ライブ配信の仕方や機材の使い方を学ぶことができた。 ライブ配信の大変さを感じたが、地域で協力して何かをつくっていくプログラムに楽しさを感じた。 今回のように、地域のことをたくさん発信できる企画があったら参加したい。 社会に出たときにも使える知識を学ぶことができた。		

活動の様子

みんなで集合写真！

WATSのメンバーと顔合わせ！

撮影・配信機材の使用体験！

実際に生ライブ配信にチャレンジ！






新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク	提供者	地域活動グループよりみちくら部
プログラム名	自分だけの「ない本」を考えよう！		
日時	①令和5年7月30日（日）10:00～16:00 ②令和5年8月6日（日）10:00～16:00	場所	最上広域交流センター ゆめりあ 新庄市民プラザ 2階 ギャラリー
協力者			
参加者(延べ)	高校生 13 人	地域の大人・大学生 11 人	合計 24 人
目的 (地域課題・達成目標)	同世代の人と妄想をシェアして視野を広げ、新たな気づきや視点を得る。若年層から多様性を尊重し合える意識の醸成を涵養する。		
プログラム内容	1枚の写真からオリジナルの題名とあらすじを考え、ありそうでない、世界にたった一つの「ない本」を考える。		
実施に当たっての工夫	雰囲気づくりのためのアイスブレイクを重視した。		
目的に対する成果	プログラムを通して、良い意味で自分は自分、人は人という感覚を持つことができたと思う。		
所感・感想改善点	・プログラム内容に魅力を感じてくれて参加してくれた人もいれば、何かに参加する必要があって参加してくれた人もいた。参加の動機はいろいろで良いと思い、参加した人それぞれに様々な気づきがあれば良いと思った。 ・ジモト大学プログラムは地域と関わるキッカケなので、その後に少しでもつなげられる工夫を模索していきたい。		
高校生の声	・みんないろんな価値観を持っていることが分かった。 ・知らない人と交流することで、いろんな考え方や視点を知ることができた。 ・考え方が変わり、見方が変わった！ ・人それぞれの感性の違いを学べた。		

活動の様子			
アイスブレイク		アイデア出し	
感想共有		集合写真	

新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク	提供者	たんぽぽくらぶ
プログラム名	いつもの街並み、目隠ししたらどう見える？		
日時	①令和5年11月11日（土）13時30分～16時	場所	新庄市民プラザ 2階 ギャラリー
協力者	地域活動グループ よりみちくら部		
参加者(延べ)	高校生 14 人	地域の大人・大学生 11 人	合計 25 人
目的 (地域課題・達成目標)	障がいについて学ぶことで、自分なりの多様性に対する感覚を養う。		
プログラム内容	実際に向き合っている現場の先生のお話を聞いたり、障がいの感覚体験を行う。		
実施に当たっての工夫	・障がいを考える初めの一歩となるよう、平易な内容とした。 ・和やかな雰囲気づくりのために、テーブルゲームをアイスブレイクとして実施した。		
目的に対する成果	現場の先生のお話を聞いたり、障がいの感覚体験を経験することで、参加者それぞれが多様性について自分なりに考える一助となった。		
所感・感想改善点	座学だけでなく、実際に体験してもらうことで、参加者個々の気づきや学びにつながったと思う。		
高校生の声	・障がいを持って行きている人の大変さや苦労、今私たちが何をすべきかを学べた。 ・障がいについて、深く知ることができた。また、目が見えて歩けることは当たり前じゃないんだということに気付いた。 ・疑似体験をとおして、障がい者の生活の大変さや、多様性を受け入れることの大切さを学ぶことができた。		



活動の様子			
障がい者と接する先生のお話		視覚が遮られた状態でまちを歩く体験	
車椅子の乗車と介助の体験		疑似体験した気づきや感想の共有	

新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	課題発見・解決		提供者	新庄信用金庫					
プログラム名	モンナッツ（スイーツ）で商品開発しよう！								
日時	①令和5年9月9日（土） 10:00～14:00		場所	万場町よろず市					
	②令和5年11月19日（日） 8:30～15:30			2023 kitokitoマルシェ					
協力者	COCODAY kitchen、地域開発チーム「WATS」、一般社団法人 最上のくらし舎								
参加者（延べ）	高校生	14	人	地域の大人・大学生	13	人	合計	27	人

目的 （地域課題・達成目標）	現在地域課題の解決の為、各方面の連携を促進する機能を担うインフォーマター（橋渡し役）の養成が急務となっている。そこで、金山町産落花生を使用した商品開発を行いながら、落花生スイーツ「モンナッツ2023」のアイディア出しと販売まで行う。
プログラム 内容	・「モンナッツ2023」を販売しながら、お客の反応や感想を収集する。 ・「モンナッツ2023」販売を通して、原価計算や利益計算の基礎を学ぶ。 ・同時にドリンクもキッチンカーにてサーブして接客業の基本を学ぶ。 ・当日までに、今回の販売の告知をSNS等で言い、同時に自分の両親や友人知人に来店を促し、実際に自分で接客する。
実施に 当たって の工夫	・販売開始前に高校生と導線オペレーションの確認を行う。 ・会計、接客、呼び込みの3つに役割分担し、各役割ごとに当金庫職員を配置する。 ・kitokitoマルシェは午前中に客足が集中することから13:00までに売り切る。 ・「モンナッツ2023」について、QRコードを使ったアンケートを実施する（所要時間3分）。
目的に対する 成果	・「モンナッツ2023」販売を通して、高校生が接客や、原価計算・利益計算の基礎を学べたことは、人材育成につながった。 ・販売開始前に高校生と導線オペレーションの確認を行ったことで、前回のような問題は起こらなかった。 ・高校生によるキッチンカー前での呼び込み力が凄まじく、販売開始から約1時間で完売できた。 ・QRコードを使ったアンケートを実施したことで、お客の反応や感想を収集できた。
所感・感想 改善点	・高校生ボランティアの当日参加の人数把握が難しかったため、次回はキトキト事務局から名簿を提出してもらい、事前にシフトを組んで、全員がキッチンカーに乗ってもらう仕組みを作りを考えている。 ・モンナッツがセット売りのため、購入時に戸惑っているようなお客様も見られたので、セット売り以外の販売告知方法も次回は明確になるように検討したい。 ・QRコードアンケートはもう少し回答率が上がるような工夫が必要だと感じた。（例えばアンケート回答者は割引特典がある等）
参加者・ 高校生の声	今回参加したプログラムで学んだこと、良かった点 ・言葉を通して、商品の良さ伝えること。 ・将来の経営など、人との関わり。 ・営業、呼びかけ。 ・声出し集客の必要性。 ・営業の効率的な仕方や、決済について学びました。 ・バイトでの経験を活かした。 ・高校生がやる気満々だった。 ・宣伝、広告の効果があつたのかかなり早い段階で完売したので良かった。 ・高校生の呼び込みが効果的だった。

活動の様子



新庄・最上ジモト大学プログラム 実施報告書

カテゴリー	体験・フィールドワーク			提供者	やまがた農業女子ネットワークあぐっと				
プログラム名	最上の野菜をプロデュースしよう！最上、農業女子会。								
日時	①令和5年9月10日（日）9:00～15:00			場所	新庄市エコロジーガーデン多目的ホール				
協力者									
参加者(延べ)	高校生	4	人	地域の大人・大学生	7	人	合計	11	人
目的 (地域課題・達成目標)	農家1人1人の思いを知り、食育、フードロスなどのアイデア出しを行う。								
プログラム内容	農業女子の仕事場を実際に見学する。みんなで野菜やお米を試食し、見学して感じたこと、課題発見、農業での女性の役割などをワークショップ形式で意見交換する。								
実施に 当たって の工夫	苦労話にばかりにならないように、自分たちの発言の仕方について考えた。すでにある農業のマイナスをどう伝えればプラスにしてくれるか？など、わたしたちもワクワクしました。圃場を直接見て、収穫した物をすぐ食べてみるなど、リアルさをプラスしました。メンバー間の連携をよりはかるため、オンラインで打ち合わせも行なった。								
目的に対する 成果	こちらが伝えなかった事が伝わった。農業は、楽しそうと言ってもらえた。食の大切さを再認識し、給食や子ども食堂など、自分たちに出来ることを考える、見つけるメンバーが増えた。ほかのエリアからも、企画に対して好評で、いずれ全エリアに広がる可能性も見えてきた。								
所感・感想 改善点	女性目線の農業の強みについて改めて考えるとともに、PRや発信の仕方を、それぞれ考えたいと思う。次世代につなげたいことを、漠然と考えていたが、少しずつこのような活動で、自分たちのやる事を明確にしていきたい。継続してプログラム提供していきたいと参加したメンバー全員が思いました。								
高校生の声	・最上にも楽しみながら農業をしている女性がたくさんいることがわかった。 ・今まで持っていた農業のイメージと違う視点を持つことができた。 ・農業のやりがい、大変さ、野菜の繊細さを知ることができた。								

活動の様子

なかなか見れないナメコ栽培。チョコキ、収穫しました。



珍しい、イタリア野菜の畑。日本野菜との違いのレクチャーを受けてい



農家めしの試食。玄米をはじめて食べました。収穫したナメコは味噌汁に。



農業について、見て、感じて、思ったことをそれぞれまとめてみました。

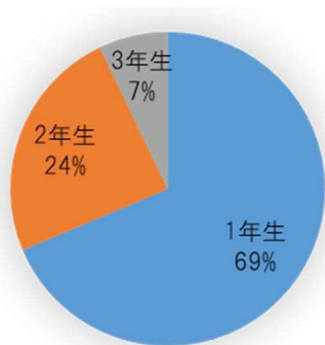


令和5年度 新庄・最上ジモト大学プログラム参加者 アンケート結果

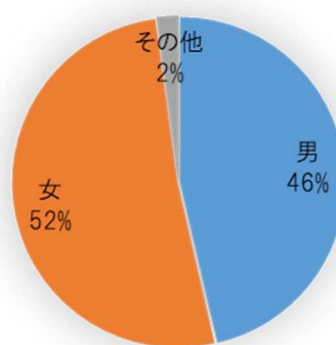
<調査概要>

- ・対 象：新庄・最上ジモト大学プログラムに参加した高校生
- ・回収数：609件

【学年】

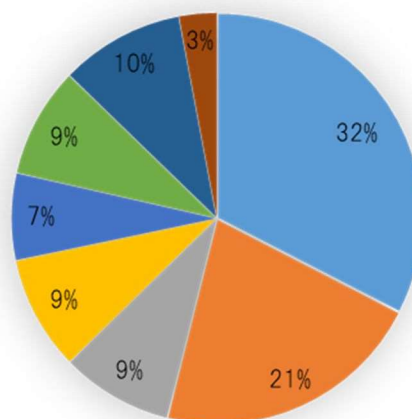


【性別】



問1 このプログラムを選んだ理由を教えてください。(複数回答可)

- プログラム内容に興味・関心があったから
- 将来、役に立ちそうだったから
- 地域の人と関わりを持てそうだったから
- 授業に位置づけられているから仕方なく
- 先生や親などから勧められたから
- 友人が選んだから
- 参加しやすい日程、場所だったから
- その他



主なもの

- ・メンバーだから(プログラム名「ライブ配信にチャレンジ!」)
- ・運営側で参加しました(プログラム名「自分だけの『ない本』を考えよう!」)
- ・日本舞踊をやっているから(プログラム名「今年のお祭りは浴衣で出掛けよう!着物男子也大歓迎!」)
- ・お世話になっているグラッシーデザインさんの活動に協力したかったから(プログラム名「高校生モニター募集!」)
- ・昨年に続いて参加したいと思ったからです(プログラム名「ヨット体験&イベント運営にチャレンジャー徳良湖が作る歴史とドラマー」)
- ・しずくボランティアとして参加しました(プログラム名「モンナッツ(スイーツ)で商品開発しよう!」)
- ・目に留まったから(プログラム名「新庄歴まち 謎解きウォークラリー」)

問2 今回参加したプログラムでは、どのようなことを学んだと思いますか。

社会や地域にとって
の役割や、地元を離
れてみることでわか
るよさなどを学んだ

学生を卒業したあと
の学校からは習わな
いようなことを学べ
た

また違う視野から見
てみるとさらに自分
の中の選択肢が広が
ることを知りました

実際にその仕事をし
ている人の話を聞く
ことができ、将来役
に立つことを学べた

あえて、自分があま
り興味のなかったも
のも選んでみたの
で、視野が広がった

地元にもやりがい
があり楽しく働ける
場所があること

話したことない人との
コミュニケーションや紹
介など今までしたこと
がないことについて取
り組むことができた

知らない人と交流す
ることで、いろんな
考え方や視点を知る
ことができた

地元のものを生かし
て、地域おこしをし
ていこうという考え
方

今まで持っていたイ
メージとは違った農
業の見方。楽しみな
がら農業をしている
女性が多かった

地域おこしとは課題
解決だけではなく自
分の好きなことを共
有するひとつだとい
うことを学びました

コミュニケーション
をとる時の、傾聴す
ることの大切さを
学んだ

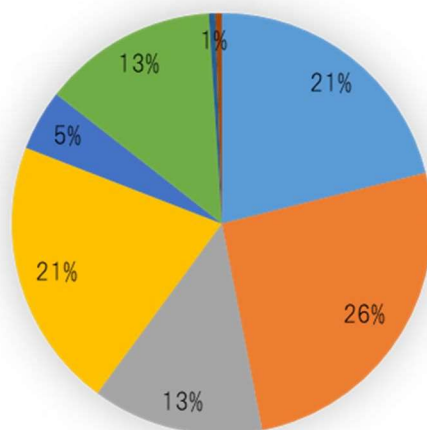
地元で働く魅力や良
さが知れたし、自分
の進路選択について
も考え直すことがで
きた

進路に迷っている
今に必要なことを
学ぶことができた

計画の難しさやそ
れを乗り越えた時
の楽しさ

問3 今回参加したプログラムの良かった点を教えてください。(複数回答可)

- 今まで知らなかった地域の魅力を知ることができた
- 普段、学校ではできない経験ができた
- 活動に参加して自分自身が成長できた
- 将来を考えるきっかけになった
- 他校の生徒との交流の輪が広がった
- 地域の大人のひとと活動できてよかった
- 良かった点はなかった(イメージしていたものと違った)
- その他

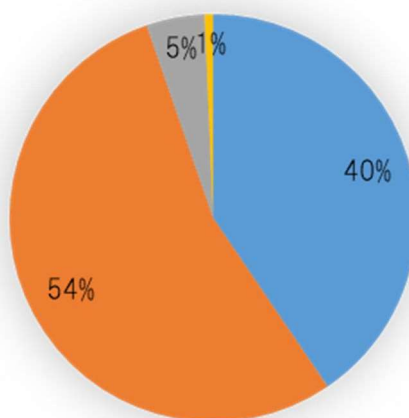


主なもの

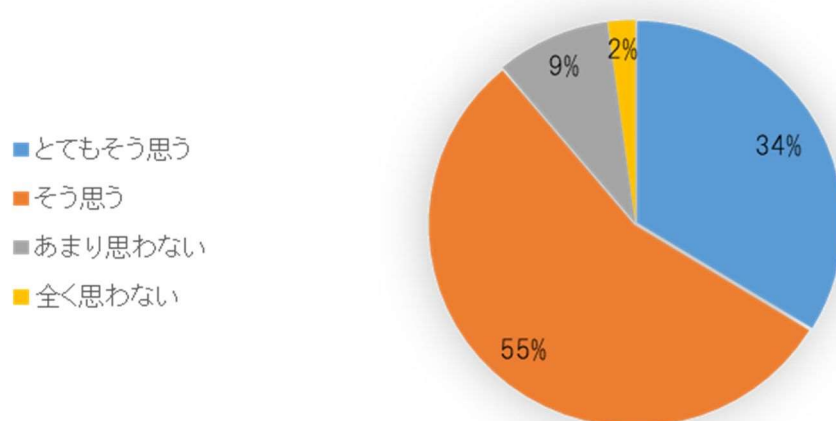
- ・いつか役に立つかもしれない事を知れた(プログラム名「『手で話そう』～手話通訳という資格を知ろう～」)
- ・耳が聞こえない人とも会話できるようになった(プログラム名「『手で話そう』～手話通訳という資格を知ろう～」)
- ・すごく楽しかったです!ありがとうございました(プログラム名「『手で話そう』～手話通訳という資格を知ろう～」)
- ・いろいろな仕事内容や大事なことを知ることができた(プログラム名「しごとトーク～若手従業員のリアルなお話(新庄南)」)

問4 今回参加したプログラムを通して、もっと地域のことを勉強したり、地域と関りを持ちたいと思いましたか。

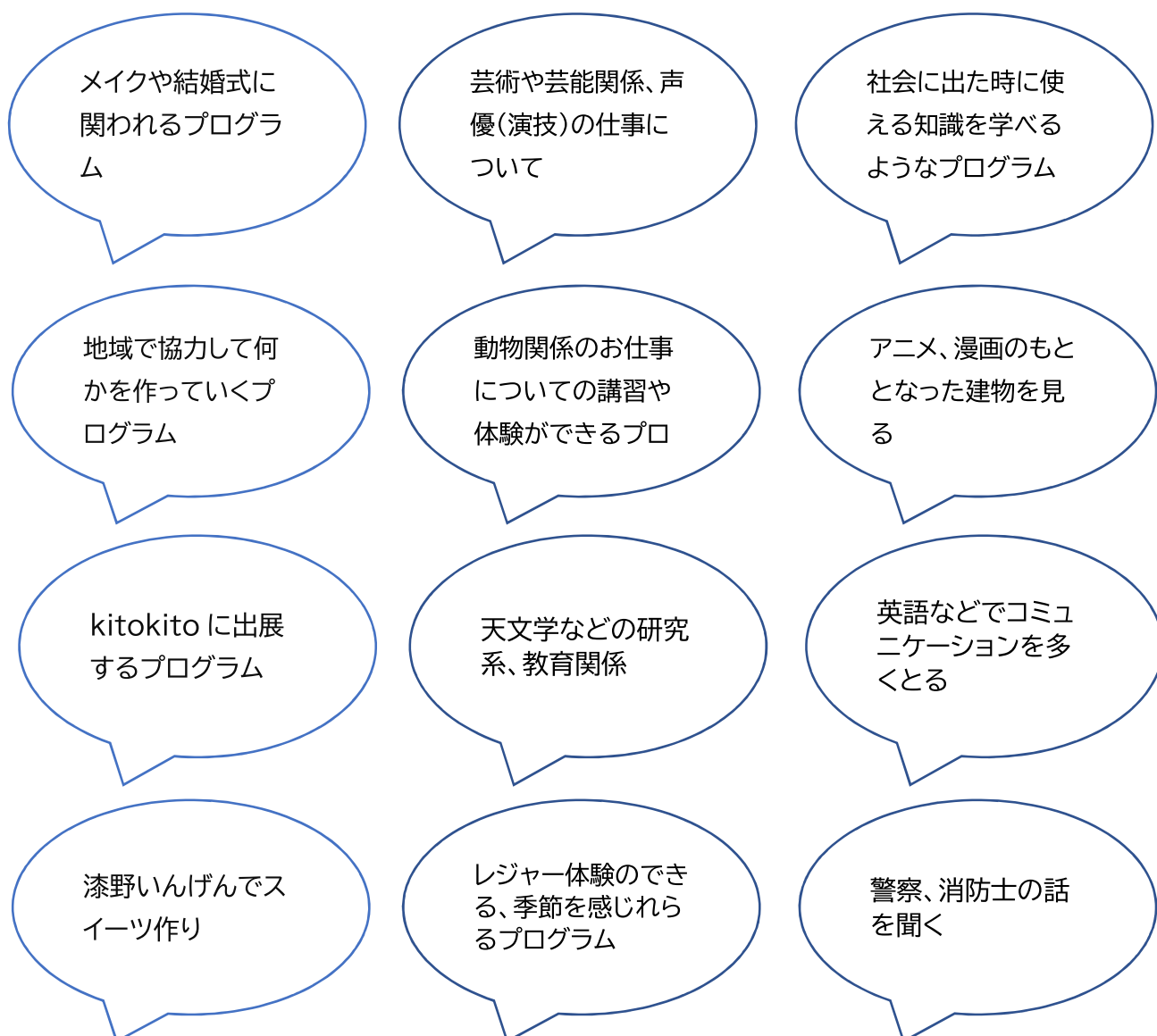
- とてもそう思う
- そう思う
- あまり思わない
- 全く思わない



問5 またジモト大学に参加したいと思いますか。

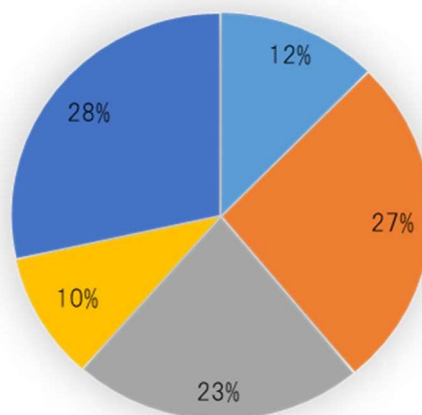


問6 具体的にどのようなプログラムがあったら、また参加したいと思いますか。



問7 最後にあなたの今後について、今の考えを教えてください。将来、地元とどのように関わっていきたいですか。

- このまま地元に残りたい
- 地元からいったん出るがいずれ地元に戻ってきたい
- 地元には残らないが何らかの形で地元に関わっていきたい
- 地元に残りたくない
- まだ分からない



問8 その理由を教えてください。

生まれ育った場所
の魅力をまだ知り
尽くしていないから

自分の地元が将来の
事について頑張っ
ていたので自分も地
元で頑張りたいと思
ったから

自分の育った地域
が好きだから

地元の良さを再確認
して、慣れ親しんだ
土地に戻ってきたい
と考えているから

地元で自分が学び
たい学校がないか
ら。でもいずれかは
山形に戻って仕事
がしたい

地元から一旦離れ
てたくさんしたこと
学んでから、安心感
のある地元で働きた
いから

なりたい職業で活
躍するには地元
から出る必要があ
ると思ったから

地元に残ることだけ
が、私の地元新庄市
を盛り上げていく方
法では無いと思っ
ていて、新庄から離
れても盛り上げる方
法はあると思ったか
らです

地元は好きだが、車
を運転しなくていい
交通の便利なところ
に就職したいから

自分の知らない土
地で暮らしてみたい

自然豊かでいいけど
不便なところが多い
から

働きたい職種が地
元にはないから

まだ将来について
はっきりと考えられ
ていないから

他の県や海外に行
って挑戦もしてみたい
と思うから

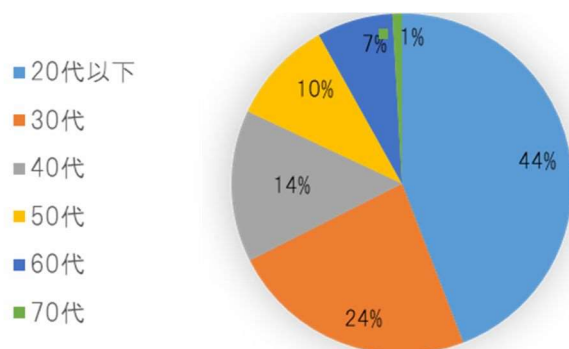
地元についてまだ
よくわかっていな
いから

令和5年度 新庄・最上ジモト大学プログラム提供者 アンケート結果

<調査概要>

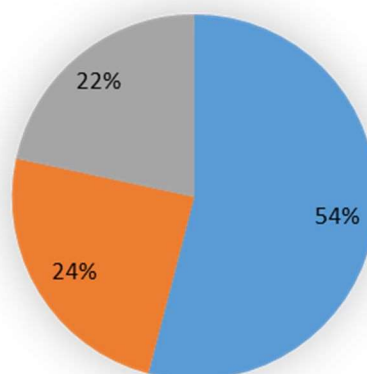
- ・対 象：新庄・最上ジモト大学プログラムに協力してくれた大人の方
- ・回収数：114件

【年齢】



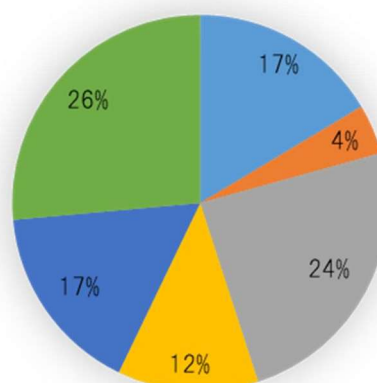
問1 「新庄・最上ジモト大学」を知っていましたか。

- 内容まで知っていた
- 名前だけ聞いたことがあった
- 今回初めて知った



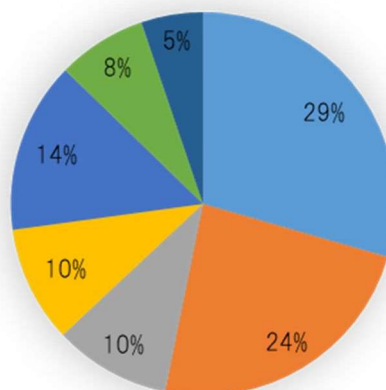
問2 問1で「内容まで知っていた」、「名前だけ聞いたことがあった」と回答した場合、どこで知りましたか。

- ホームページ
- 新聞記事
- パンフレット・ポスター
- SNS
- 口コミ
- その他



問3 今回、プログラムに参加した理由を教えてください。

- プログラム提供者から頼まれたから
- 会社(団体)から参加するよう言われたから
- 高校生と交流してみたいと思ったから
- 高校生の力になりたいと思ったから
- 地域のために役に立ちたいと思ったから
- 地域のことを学びたいと思ったから
- その他

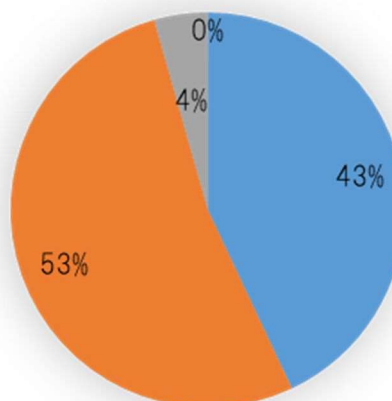


主なもの

- ・将来の就活の役に立てばと思ったから(プログラム名「しごとトーク～若手従業員のリアルなお話～(新庄北)」)
- ・無い本作りを試してやったとき面白かったので、地元大学のプログラムでも参加しようと思った(プログラム名「自分だけの『ない本』を考えよう!」)
- ・商品開発やイベント(試食会)について学びたかった(プログラム名「高校生モニター募集!」)
- ・ワークショップの運営側としてお話を頂いたため(プログラム名「捨てる前に考えよう!ファッションと地球環境の関係」)

問4 プログラムに参加してみて、自分自身にとって充実感や満足感がありましたか。

- とてもそう感じる
- そう感じる
- あまり感じない
- 全く感じない



問5 参加してよかったと感じた点を具体的に教えてください。

仕事の魅力を伝える工夫ができた

今時の子と言うが、素直でまじめさを感じる子供達であった

地元就職の良さや強みを学生に伝えることができてよかった

高校生たちがワイワイ話していてとても面白かったです

高校生の進学や就職についての考え方を知ることができてよかったです

地元と関連して SDGs のことを学ぶことで、自分事として地元のことを考えるきっかけになりました

自分の職場での意識を再確認できた

建設業の魅力を伝えられたこと
高校生からイメージが
いい方に変わったという
声が聞けたこと

少しでも高校生の皆さんの助けになれたのかなと思った

高校生からの質問が、嬉しかったです

ジモト大学の取り組みがどのようなものか理解することができた

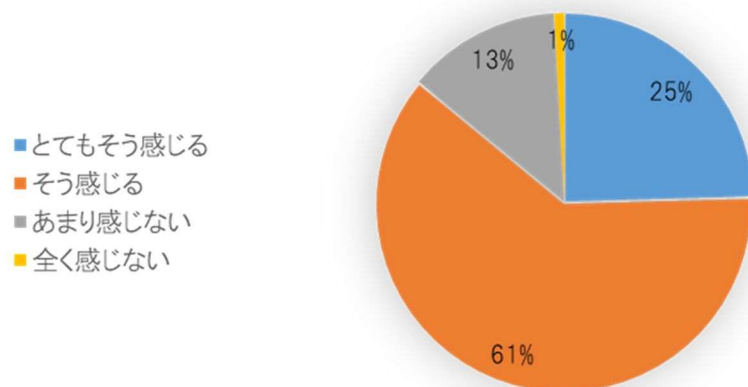
ファッションについて色々な年代の人の意見が聞けたこと

高校生の農業に対するイメージを知ることができ、私たちの農業に対する思いも知ってもらうことができた

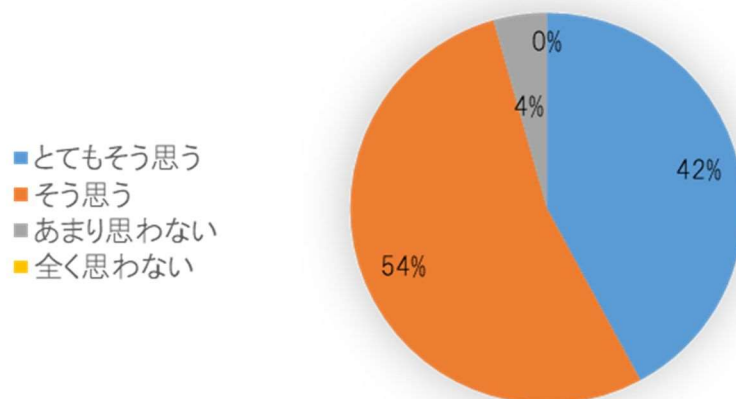
あらためて自分を振り返ることが出来てよかった

初対面の方々と協力して研修をやり遂げられたこと

問 6 プログラムを通して、高校生の変化や成長を感じることができましたか。



問7 このようなプログラムにまた協力したいと思いましたか。



問8 プログラムについて、改善した方が良かった点がありましたら教えてください。

昼食の提供がある
プログラムは午後
のプログラムを追
加しても良いと思
った

質問内容をある程
度、考えてもらっ
ていたほうがいい
かなと思った

机についたほうが
話しやすい雰囲気
ではないかと感じ
ました

けっこうなボリュー
ムだったので、もう
少し遅い時間だと
ありがたかった

職場を見てもらう
時間が少なかった

参加人数がもう少
し多いと盛り上が
ります

高校生の新人戦と日程
が被ってしまったとの
事だったので、高校生
が集まりやすい日程な
ど教えて頂けたら嬉し
いです

プログラム提供の
後に何があるのか
が大事と思う

パネリストの顔は見
えた方が良くと思
います

男女比を想定して
いない内容だった
ので改善したい

高校生の出欠のあ
りかた

カリキュラムに一度
きり参加ではなく、
複数回参加すること
でプロセスがわかる
ものを入れたい

何故？「地元には働
く場所がない」とい
う話になるのか？

高校生の学びにつ
いて
時間内でフィードバ
ックの場があるとよ
いと思いました

学生の参加意欲の
バラつきと運営側
の準備の部分で行
き違いがあるのが
残念



記事・広報



山形新聞(2023年4月14日)



「サポーター」を設置
多様な学びの場創出
新庄・最上ジモト大学総会
最上地域と尾花沢市内の
高校に通う生徒に、多様な
学びの場を提供して人材育
成につなげる「新庄・最上
ジモト大学推進コンソーシ
アム」(代表・菅原和彦県
最上総合支庁長)の総会が
13日、新庄市の同支庁で開
かれた。2023年度は、
学びのプログラムを提供す
る企業・個人を「ジモト大
学サポーター」と位置付け
る制度を設け、より多様な
学びの場を創出していく。

ジモト大学は17年度に始
まり、各自治体や地元企業
などが高校生向けのプログ
ラムを提供。22年度は▽地
元食材を使った居酒屋のメ
ニュー開発▽アユ釣り甲子
園▽SDGs(持続可能な
開発目標)を学ぶ講座―な
ど過去最多となる40事業を
実施し、延べ781人が受
講した。

7年目となる23年度はジ
モト大学サポーターを活用
した講座を二つ以上実施
し、全体の延べ参加者数7
20人以上を目指す。

総会には最上地域と尾花
沢市の各首長や高校長、商
工団体の代表ら約30人が出
席。参加者から「県内全域
あるいは隣県の高校生を対
象にした講座があってもい
い」「高校としても起業家
精神を持つ生徒を育ててい
きたい。行政、企業との連
携を一段と深めていく必要
がある」などの意見が出さ
れた。(石井秀明)

本年度の事業計画を決めた
「新庄・最上ジモト大学推進
コンソーシアム」の総会
〓新庄市・県最上総合支庁

助成先50団体など発表

荘内銀ふるさと創造基金

荘内銀行は28日、2023年度の公益信託荘内銀行ふるさと創造基金の地域貢献大賞贈呈先2団体と助成先50団体を発表した。

地域貢献大賞は、家庭教育応援・ボランティア活動団体「アベルんち」(新庄市)と、フードバンクなどの活動を繰り広げる「やまがた福わたし」(山形市)に贈られた。同賞は12年に始め、歴代の助成団体の中から豊かな地域社会の創造に向けた独自の活動を展開し、活動の継続性と発展性の面で顕著な取り組みがあった団体を顕彰している。

ふるさと創造基金は、県内の学校教育、社会教育、文化活動への支援を通して地域社会の発展に寄与する

ことを目的に01年に設立された。鶴岡市に製造・開発拠点を置くオリエンタルモーター(東京)が趣旨に賛同し寄付を続けており、本年度も助成金の一部に同社の寄付金を充てた。助成件数は延べ978件となった。贈呈式は6月2日を予定している。23年度助成先は次の通り。

明日のとびら、NPO法人公益のふるさと創り鶴岡、Fishing Samurai、山五十川古典芸能保存会、鶴岡スペースステーション、鶴岡中央高総合学科学部家政科学系列保育系、加茂水産高、致道館文化振興会議、湯野浜小、とまり木つくる会、庄内自然博物館構想推進協議会、NPO法人やまこや(以上鶴岡市)松山能伝承団体、松楓社、浜田小、鳥海ビエンナールアートプロジェクト委員会、東

北公益文科大マルチプロジェクト研究機構地域産業活性化研究所、東大町三丁目自治会、子どもの自立を支援する会SR会、酒田光陵高ビジネス流通科サウ

ンドテーブルテニスプロジェクト(以上酒田市)NPO法人しえば(遊佐町)最上マイプロジェクト推進委員会、新庄南高総合ビジネス科、雪の里まつり実行委員会、ULC制作部、新庄・最上シモト大学推進コン

ンシウム以上新庄市)金山地域区長サミット(金山町)最上町社会福祉協議会(最上町)、山形紙芝居研究会、やまがた移住者ネットワーク、やまがたAI部運営コンソーシアム、Ymgei Eats・山形大地域教育文化

学部、県立保健医療大(以上山形市)NPO法人グラウンドワーク寒河江(寒河江市)nicocoe・県青年の家コーデイナー、とちにあるところ、やまがたマイカースネットワーク・YMN(以上大館市)ひがしねブックトークの会きらきらぼし(東根市)徳長湖「森のようちえん」実行委員会、徳長湖ヨット倶楽部(以上尾花沢市)西川中(西川町)大石田にぎりばつと部(大石田町)NPO法人米沢市芸術

文化協会、綱木獅子踊り保存会(以上米沢市)伊佐沢小、やまがたアルカディア観光局(以上長井市)南陽8ミリクラブ(南陽

市)川西町文化財保護協会(川西町)NPO法人飯豊朝日を愛する会(小国町)手ノ子小(飯豊町)(大滝玲)

県政運営 23年度の方針

県幹部に聞く

⑨



―東北中央自動車道の新庄以南が昨秋、全線開通した。これをどう生かすか。

「開通後は観光客が増加傾向だ。今後はインターネットや交流サイト(SNS)を活用した情報発信、村山・置賜総合支庁と連携したスタンプラリーなどを実施し、開通メリットを最大限に生

最上総合支庁長 菅原和彦さん

SNS活用し誘客促進

かし最上地域への誘客を促進する」

―県立新庄病院が10月に移転・開院する。住民サービスはどう変わるのか。

「新病院には患者の入院から退院までを支援する『総合患者サポートセンター』が設置される。最上8市町村共同の『在宅医療・介護連携拠点』も設置され在宅医療と介護の一体的な提供体制が構築される。『最上保健所サテライト』を設置し、指定難病や肝炎に係る医療費助成の申請などの行政手続きを支援するほか、生活習慣病予防の啓発や健康づくり講座なども開く。関係機関が連携し、医療・介護・福祉の切れ目ないサービスが受けられる体制づくりを進めていく」

―若者の定着と人材育成にどう取り組んでいくか。

「高校生が地域の大人と対話し共に学ぶ『新庄・最上ジモト大学』はプログラムを充実させ、地域への愛着が深まるよう工夫したい。さらに、大学生の地元回帰に向けてインターンシップの対応企業を拡充し、地域の発展を支える人材の確保に向け取り組んでいく」

(石井秀明)



舟形町が新しく作成したデジタル観光マップのチラシ・QRコードを街中と町内の観光施設で表示される。

50地点登録観光マップ

舟形巡り デジタル対応

舟形町は町内の観光スポットを一瞥できるデジタル版パンフレット「ふながたをめぐる観光マップ」の提供を始めた。インターネット上の地図サイトと連携しているため、初めて訪れた人でも目的地までの道のりが分かりやすいように工夫されている。パンフレット作りには地元の高校生も携わり、写真撮影や、紹介文を考えたり、作成作業を通じ、地域の魅力を再発見し、理解を深めた。

チラシに印刷されたQRコード（左下）をスマートフォンなどで読み込めると、地図のサイトに接続される仕組み。マップ上には、観光施設や飲食店、ビューポイントなど10項目の計約50地点が登録されている。今後、順次追加する予定だ。

関わったのは、新庄東高と新庄北高の生徒で、登録した3地点の紹介文や西ノ前公園の写真撮影も担当した。学校とは違った学びの場を提供する「新庄・最上ジモト大学」のプログラムとして実施。同町舟形の南のたかはしの紹介文では、カズ蔵を「出来たてもおいしいですが、タイタアットでちょっと時間があった後も、タレがご飯にしみて、二度、おいしい！」と紹介している。

町はチラシを町内の温泉施設や飲食店などに掲示して利用を呼び掛けている。町まちづくり課の担当者は「デジタル観光マップを活用して多くの人に町を訪れてもらいたい」と話している。（上原隆）

地図サイトと連動 ■写真や文、高校生が一役



新庄公共職業安定所の奥田広樹所長は、今年3月の高卒就職内定者が昨年より

若者定着に向け 企業の魅力発信

オールもがみ推進会議

最上地域の行政・教育機関や商工団体などでつくる「オールもがみ若者定着・人材確保推進会議」の本年度初会合が7日、新庄市の雪の里情報館で開かれた。写真、関係者が管内の雇用状況や本年度の活動内容を確認し、若者の定着に一丸となって取り組むことを誓った。

本年度事業について県の担当者は、高校生に多様な学びの場を提供する「新庄・最上ジモト大学」に引き続き取り組むほか、新たに

山形大学生が作成するフリーペーパーを活用して企業の魅力発信を始めることとした。

県最上総合支庁と山形航空電子（新庄市）による事例発表もあった。管内商工団体や学校職員ら約50人が出席した。（斎藤吉貴）

最上総合支庁の施策

花開く 次世代への投資

最上地域では次世代につながる大規模な公共投資が続き、大きく花開こうとしている。今年10月に県立新庄病院が新庄市金沢に移転開院し、来年4月には念願の4年制高等教育機関である東北農林専門大学（仮称、旧市角沢）の開学が予定されている。最上総合支庁はこの好機を捉え、最上8市町村と連携しながら波及効果を生むための各種施策を打ち出すとともに人材確保、産業振興などを通じて地域活性化に取り組む。

「サポーター」新設 より充実

ジモト大学

高校生が地域の大人と対話し、共に学ぶ「新庄・最上ジモト大学」は2023年度、学びのプログラムを提供する企業・個人を「ジモト大学サポーター」と位置付ける制度を設け、より多様な学びの場を創出していく。

ジモト大学は17年度に始まり、各自治体や地元企業などが高校生向けのプログラムを提供。22年度は▽地元食材を使った居酒屋のメニュー開発▽アユ釣り甲子園▽SDGs（持続可能な開発目標）を学ぶ講座―など過去最多となる40事業を実施し、延べ781人が受講した。

7年目となる23年度はジモト大学サポーターを活用した講座を二つ以上実施し、全体の延べ参加者数720人以上を目指す。

この引きが 癖になる

鮎釣り甲子園 高校生30人が釣果競う



地元の釣り愛好者から指導を受けアユ釣りの魅力に触れた高校生
最上町・最上小国川

部真甫さん(16)は「釣れた瞬間の引きが癖になる」と満足げだった。

地元の自然の豊かさを感じてもらおうと、最上小国川清流未来振興機構（悪七幸喜本部長）が主催し4回目。最上地域の高校生などに多様な学びの場を提供する「新庄・最上ジモト大学」のプログラムとして実施した。入賞者は次の通り。

①佐藤連・菅繁音（新庄東）
②阿部真由・阿部真大（新庄北）
③佐藤広成（新庄東）
④10匹

（土屋隆）

最上 最上小国川鮎釣り甲子園大会が29日、最上町のおらだの川公園付近で開かれた。高校生約30人が地元愛好者の指導を受けてアユとの駆け引きを楽しんだ。

高校生を講師役の愛好者が指導し、約3時間、各ポイントに竿を伸ばした。釣果が出ると、各所で歓声が上がった。新庄北高2年阿

山形新聞(2023年8月3日)

食の魅力 豊かだね

近岡 史

大豆ミートからSDGsを学ぶ
シモト大学 体験ツアー
新庄・もがみSDGs（持続可能な開発目標）体験ツアーが3日、新庄市と金山町を巡るコースで開かれ、高校生が大豆由来の代替肉「大豆ミート」などについて学んだ。

ルギー問題に関心をもち、新庄東高の1年生7人が参加。ヌマザワでSDGsの基礎を学んだ後、金山町の旧明安小に移動した。同



所で大豆ミートのレストラン「明安食学校」を運営している食のカゴボレシヨン（新庄市）の福原和輝社長（47）が講話し、牛肉1kgの生産に必要な穀物は6〜20gといわれている。肉の食事をたまたま大豆食品に置き換え、食品ロスを減らしていくことが環境負荷の低減につながることを訴えた。参加者は大豆ミートを使った昼食を味わった。

一行は、もがみバイオマス発電（新庄市）も見学した。（石井秀明）
福原和輝社長（左）の講話に聞き入る高校生ら
〓 金山町・旧明安小

山形新聞(2023年8月12日)

うきうき ムキムキ 夏の ほのぼの

湖上の風 体いっぱい
「シモト大学」開講
尾花沢 域で学ぶ機会を創出する「新庄・最上シモト大学」の尾花沢キヤンパスが9日、尾花沢市の徳良湖で開講し、生徒がヨットに乗り込み、湖上の風を体いっぱい受け止めた。



新庄市内3校の計7人が参加した。一般社団法人徳良湖ヨット倶楽部（同市提供）のメンバーの指導を受け、実際に操船も体験した。

やや強い風が吹く場面もあり、新庄北高1年の石川阿蓮さん15は「うまく風を受けた時に帆がピンと張る手応えがあり、気持ち良かった。またヨットに乗ってみたい」と話した。

12日には同会場で、子どもたちを対象にした「徳良湖冒險少年団」の運営補助などに取り組む。（木村敏郎）

最上地域の高校生

仕入れ、販売 カフェ体験

最上地域の高校生が金山町産落花生を使った洋菓子仕入れて販売し、その改良版の意見を出し合う「高校生カフェ体験」が今月、新庄市の喫茶店「万場町のくらし」で行われた。高校生のアイデアを取り入れた改良版は今後、試作を行い、順調に進めば11月19日のキトキトマルシェ(新庄市エコロジーガーデン)で販売する予定。

高校生が地域の大人と対話し共に学ぶ「新庄・最上シモト大学」の一環として新庄信用金庫が企画。新庄北高生1人と新庄東高生6人が参加した。

洋菓子師はクリームに金山町産落花生を練り込んだモンブランケーキで、2019年のシモト大学で考案され、「モンナッツ」と名付けられた。試作を担当した菓子店「おかしの家」(新庄市、鈴木康志店長)が22年末から販売している。

活動は今月9日にあり、高校生がモンナッツ50個を

仕入れ、適正利益を上乗せして1個500円で販売した。店内で味わった人から感想を聞き取り、改良点を考える参考にした。家族や友人らに宣伝したこともあり、わずか1時間半で完売となった。

高校生は損益計算の基礎を学び、商品改良に向けてレポートを提出。モンナッツには、落花生の粉末を砂糖でコーティングした「アラリネ」をかけて食べてもらうが、それがこぼれやすいことが判明した。新庄北高3年長倉和花さん(17)は「アラリネを入れる袋を

新庄「モンナッツ」改良へ感想聞き取り



カフェ体験でモンナッツ50個を完売し、記念写真に納まる高校生ら
＝新庄市

細長い形状に変えてはどうか。スポンジケーキもコーア味などを加えて味の種類を増やしたい」と提案

(石井秀明)

最上地域の高校生、落花生ケーキ販売

カフェ体験 将来の力に

最上地域の高校生が金山町産落花生を使った洋菓子仕入れて販売し、改良に向けた意見を出し合う「高校生カフェ体験」が19日、新庄市エコロジーガーデンのイベント「キトキトマルシェ」で行われた。高校生は今回を含めた今年の活動で、商品改善や販売の経験を通じ、将来に生かせる貴重なノウハウを学んだ。

高校生が地域の大人と対話し共に学ぶ「新庄・最上シモト大学」の一環として新庄信託を販売して購入者に感想を用意が企画し、今年2回目の開催。新庄北高生6人と新庄南高生4人、新庄東高生1人が参加した。

商品改善や仕入れ／課題も見えた

販売した洋菓子はクリームに金山町産落花生を練り込んだモンブランケーキ「モンナッツ」。2019年のシモト大学に参加した当時の高校生らが考案し、試作を担当した菓子店「おかしの家」(新庄市、鈴木康雄店長)が、22年分を加えて1セット2個入り

の販売を通して問題改善に取り組んだ経験は、社会に出て使えるものだと思う」と話した。

(八木沢 麗)



カフェ体験でモンナッツ50セットを完売し、記念撮影する高校生たち
＝新庄市エコロジーガーデン

本年度参加者800人 講座の成果を報告

新庄・最上シモト大学

高校生が多様な学びを得る「新庄・最上シモト大学」の2023年度の参加者の2023年度の参加者が、約800人となった。

7年目の23年度は「シモト大学サポーター」を活用した講座を一つ以上実施し、全体の延べ参加者数720人以上を目標に設定。23年度はこれまでに約40講座が行われ、生徒たちは、学校とは違った形でそれぞれの力を培っている。

新庄・最上シモト大学推進



進コンソーシアムは昨年4月の総会で、学びのプログラムを提供する企業・個人をシモト大学サポーターと位置付ける制度を設け、より多様な学びの場を創出することを確認した。

23年度活動の一環として、成果を報告する「シモト大学ミーティング」が昨年12月23日に新庄市のゆめりあで開かれ、参加者が講座を通して得た成果や、今後の展望を語り合った写真。

目隠しをして街を歩き、視覚障害への理解を深める▽コスプレイベントの実施▽古着やジュエリーの販売といったテーマのプログラムに参加した高校生らが報告。「いろいろな視点から意見をくれる仲間のおかげで活動ができた」「活動が楽しくて大変と思うことはなかった」などと述べた。

(土屋 隆)

R5.8 舟形町広報



新庄・最上ジモト大学

「新庄・最上ジモト大学」は『高校生が旅立つ前に学ぶこと』をキャッチフレーズに、地域のことを知り、学ぶために最上地域全体で取組んでいる事業です。

8月2日～3日、舟形町では「おかえり！ 孫プロジェクト」の一環として、公務員の仕事に興味を持つ高校生を対象にプログラムを提供し、町内外から5名が参加。役場職員の業務に密着し働き方を観察したり、町の課題への意見交換を行ない、公務員の仕事についての理解を深めました。

R5.9 尾花沢市広報

ジモト大学尾花沢キャンパス 私たちの防災チャレンジ

8月17日、北村山高校にてジモト大学の防災プロジェクトが行われ、同校の生徒をはじめ、区長さんや防災士の方々あわせて36名が参加。山形県自主防災アドバイザーの細谷真紀子氏を講師に迎え、ゲームを取り入れたプログラムで避難所運営を疑似体験しました。老若男女、持病や障がいがある人など、避難所に集まる様々な避難者や災害の情報をデキバキと処理します。参加した生徒からは「瞬時に判断するのは大変だったが、防災士さんに教えてもらいながら楽しくできた。本当に災害が起きたら今日のことを思い出したい」といった感想が聞かれ、地域の大人と高校生が、いざというときでも命と笑顔を守る方法を一緒に学びました。



▲相談しながら情報を処理していく高校生



◀避難所に見立てたシートに避難者情報カードを配置していく

R5.9 金山町広報



▲福原社長による講話を聞く高校生

8月3日、新庄・もがみジモト大学による「SDGs体験ツアー」が開催され、企画に参加した最上管内の高校生7名がSDGs（持続可能な開発目標）を先進的に取り組んでいる企業の訪問を行い「食料問題」「エネルギー問題」について学びました。体験ツアーで訪問した明安食学校では、福原社長による講話が行われ、食料問題・食料自給率などについて学びました。講演後は、大豆ミートを使用した「ハンバーグランチ・キーマカレー・ガパオライス・ハンバーガー」を味わい、企画に参加した高校生はSDGsに対する理解を深めました。

ジ

モト大学・体験ツアーが開催
明安食学校でSDGsについて学ぶ

R5.10 金山町広報

ジモト大学×ふれスポ主催 金山モルック大会を開催

8月10日、高校生と大人の交流事業「新庄・最上ジモト大学」と、金山健康ふれあいスポーツクラブ主催による、「金山モルック大会」が農村環境改善センターで開催されました。

新庄北高と新庄東高校の生徒18名を含む子どもから大人まで27名が参加。フィンランド由来のレクリエーションスポーツ「モルック」で、3人1チームの勝ち抜き戦を行い、上位6チームに美杉ちゃん商品券や町特産品などがプレゼントされました。新庄北高1年・笹原拓巳君（羽場）は、「モルックは頭も使うけど楽しい競技。プレゼントをもらえたし参加して良かった。」と笑顔で挨拶しながら会場を後にしました。



R5.11 最上町広報

下記QRで「カムロ窯」のInstagram、X (旧Twitter)、Facebookを見ることができます！






地域おこし協力隊通信

カムロ窯の製品と陶芸体験

今年に入り、カムロ窯では新作の器や陶製アクセサリー作りにも取り組み始めました。陶製アクセサリーは、粘土に色を練り込み焼成して作っています。沢山の色から好みの色を選ぶことができるのと同時に、シンプルな形状です。どんな服にも合わせやすいです！贈り物にもオススメです。陶芸と言っても、器に限らず様々なジャンルがあります。現代陶芸から日常的な器、雑貨など、多種多様です。カムロ窯では日々試行錯誤し作陶しており、年齢や性別を問わず多くの方にその魅力が伝わるよう活動しています。

また、新庄・最上ジモト大学では、高校生に向けて「好きを仕事に」をテーマにプレゼンを行いました。絵付け体験してもらいました。高校生の今後の進路選択に少しも



こんにちは！
今月号は秋元がお伝えします！

も参考になれば嬉しいです。出張陶芸体験では、赤倉や上満沢のサロン活動へ出向いたり、新庄市の方への出張も行なったりしています。自分で作った物がどう焼き上がるのか楽しみであるのも陶芸の魅力です。体験いただいた方にも大変好評いただいております。出張陶芸体験はサロン活動や行事等でもご利用できますので、ぜひお気軽にカムロ窯までご連絡下さい！



高校生が絵付け体験を行なっている様子

カムロ窯 ☎0233-43-2928

R5.12 鮭川村広報

11/11 ジモト大学鮭川プログラム開催

県の事業である新庄・最上ジモト大学の鮭川プログラムが開催され、3名の高校生が「鮭川の鮭」について学びました。

当日はサーモンロードの会会長の矢口春巳さん（鶴田野）と元鮭川村地域おこし協力隊の松並三男さんが講師となり、鮭の採捕現場見学と加工場での鮭さばき体験を行いました。また、座学では採捕された鮭の活用方法について大人と高校生で意見を交わしました。

参加した高校生たちは初めての体験に戸惑いながらも真剣に取り組んでいました。



R5. 4～R6.2 最上エコポリス通信

新庄・最上ジモト大学を振り返って

「高校生が旅立つ前に学ぶコト」をキャッチフレーズに、地域の「ヒト・モノ・コト」を学ぶ新庄・最上ジモト大学の取組みが始まってから昨年度で6年が経過しました。昨年度は、これまでに最も多い40プログラムを実施し、延べ781名の高校生に参加いただきました。

参加した高校生からは、「豊かな自然や様々な人と触れ合うことができ、地元でしかできないことがあると学べた」や「今まで知らなかった地域の魅力を知ることができた」など、地域や自分自身にも新たな発見があったと感想がありました。

また、プログラムに参加した地域の大人にとっても、若い世代の考え方やニーズが把握できる機会となっていたり、高校生との活動を通して、新たな気づきや学びを得られたといった声をいただいております。

令和5年度は、より地域に根ざした取組みとなるよう、企業や団体等のさらなる参加を得て、高校生も大人も、より深く地域を知り、学ぶことができるジモト大学を目指してまいります。〔連携支援室 29-1236〕



新庄・最上ジモト大学コンソーシアム総会 ～さらに地域に根ざしたジモト大学へ～

最上地域では、「高校生が旅立つ前に学ぶコト」をキャッチフレーズに、学校では学べない、地元のヒト・モノ・コトを地域の大人と一緒に学ぶ「新庄・最上ジモト大学」を開校しています。

4月13日、新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム総会を開催し、令和4年度の事業報告や令和5年度の運営方針等について協議しました。

今年度は、市町村や企業・団体等が提供するプログラムのほか、高校生自らが企画するプログラムも実施する予定です。

また、今年度から新たに、技術やノウハウの提供、施設の貸出等、様々な形で地域の皆さんからジモト大学に関わっていただけるよう、「ジモト大学サポーター」の取組みをスタートします。

参加の輪を広げ、さらに地域に根ざしたジモト大学となるよう、引き続き地域一丸となって取り組んでまいります。

〔連携支援室 29-1236〕



新庄・最上ジモト大学2023 スタート！

“高校生が旅立つ前に学ぶコト”をキャッチフレーズに、学校では学べない、地域のヒト・モノ・コトを地域の大人と一緒に学ぶ「新庄・最上ジモト大学プログラム」が今年度もスタートしています。

今年度のパンフレットデザインは、新庄北高等学校の生徒が作成しました。真っすぐに歩き出す高校生と、管内市町村の花々を描き、地域の中で夢を見つけに行く姿を表現した素敵なデザインになっています。

高校生自らが企画するプログラムも続々始動しています。7月17日・23日には、新庄・最上を盛り上げるイベント「Fiesta Festa」（8月19日～26日開催予定）

を企画するプログラムが開催されました。どんなことをやったら地域の人たちが喜んでくれるか、高校生たちがアイデアを出しながら、自分たちで出店依頼を行うなど着々と準備を進めていますのでご期待ください。

他にも、スポーツ、農業、ものづくり、イベント運営など、市町村や企業が工夫を凝らしたプログラムが多数開催される予定です。

高校生の皆さんのご参加をお待ちしております！

[連携支援室 29-1236]



激闘！ 第4回最上小国川鮎釣り甲子園大会

7月29日、最上小国川おらだの川公園（最上町）付近で第4回最上小国川鮎釣り甲子園大会を開催しました。最上地域のほか鶴岡市からも参加者が集まり、計25名の高校生が快晴の中、鮎の友釣りに熱中し、地元の鮎釣り名人の指導のもと3時間の熱戦を繰り広げました。

「鮎の力強さや、知らないだけで身近なところ楽しく遊べる場所がたくさんあることを知った。」「鮎釣りの楽しさ、地域の自然の良さを学んだ。」といった声をいただきました。

鮎釣り体験を通して、ふるさと最上への愛着を一層深めてもらうことができました。

[連携支援室 29-1238]



【大会結果】

- ◆第1位 新庄東高等学校（1年）佐藤蓮さん
新庄東高等学校（1年）菅紫音さん
- ◆第2位 新庄北高等学校（2年）阿部真宙さん
新庄北高等学校（2年）阿部真大さん
- ◆第3位 新庄東高等学校（1年）佐藤広成さん



Enjoy! シモト大学!

ジモト大学
instagram



地域の大人と高校生が、地域のことを本気で語り、学び、交流する場が「新庄・最上ジモト大学」です。今年度も続々プログラムが実施され、多くの高校生に参加いただきました。

■高校生発案!「Fiesta Festa2023」

8月19日～26日、こらっせ新庄において高校生たちが企画したイベント「Fiesta Festa2023」が実現しました。古着販売、緣日運営、映えるジュースの販売など、高校生がスタッフとなり奮闘し、地域を盛り上げてくれました。

■世代間交流で健康づくり! モルック大会 (金山町提供プログラム)

8月11日、金山町農村環境改善センターにおいてモルック大会が開催されました。小学生や地域の大人も参加し、世代を超えて盛り上がりしました。

■モンナッツ第2弾始動! (新庄信用金庫提供プログラム)

9月9日、万場町「のくらし」で「モンナッツ」(金山町産ビーナッツを使ったスイーツ)の販売、さらなる開発に向け購入者への聞き取りを実施しました。高校生のアイデアで、次はどんなスイーツができるのか楽しみです。

今後も、キャリア、ものづくり、イベント運営など様々なプログラムを実施予定ですので、高校生の参加をお待ちしております。SNSでも活動の様子を発信していますので、ぜひご覧ください。

[連携支援室 29-1236]



～新庄・最上ジモト大学関連事業～

高校生が教えるジモトの魅力 ジモト大学オープンキャンパス開催!



11月11日、新庄市教育の日コスモスデーにあわせて、「新庄・最上ジモト大学オープンキャンパス 2023」を開催しました。

当日は、実際のプログラムの中で高校生が地域課題を検討した内容や活動に関するパネル等の展示を行ったほか、今年のプログラムに参加した高校生から説明を受けながら、来場者の皆さんに手話とモルックの体験をしていただきました。また、障がいへの理解を深める活動を行っている高校生グループ「たんぽぽくらぶ」が企画したプログラム(障がいの感覚体験)も実施され、多くの高校生にご参加いただきました。

小さなお子さんから大人までたくさんの方にご来場いただき、ジモト大学の楽しさ、地域の魅力を知っていただく機会となりました。

今後もさらにジモト大学の活動の輪を広げていけるよう取り組んでまいります。

[連携支援室 29-1236]



ふるさとをまもり未来をつくる土木技術者のはなし



10月26日、新庄神室産業高校を会場に、地元の高校生21名(神室産業高校2年生18名、新庄東高校1年生2名及び2年生1名)が参加し、新庄・最上ジモト大学「ふるさとをまもり未来をつくる土木技術者のはなし」を開催しました。

第1部のパネルディスカッションでは、最上地域で意欲的に建設業に携わる若者4名から、写真とリアルな会話で仕事の充実感・やりがい・夢などを紹介していただき、第2部の意見交換では、進路選択を控えた高校生が、地元で働く山形県建設業協会最上支部青年部員の方々と職場環境などについて話し合いました。

[建設総務課 29-1391]

新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム 規約

(名称)

第1条 この会は、新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）と称する。

(目的)

第2条 コンソーシアムは、新庄・最上地域の高校生を対象に地域課題等に関する住民等との対話や協働等を通じて、高校生の主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、地域住民としての当事者意識を醸成することにより、将来の定住や地域の中核となる人材育成を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 コンソーシアムは、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 地域課題等に関する新庄・最上地域及び尾花沢市に在住又は通学する高校生（以下「高校生」という。）と住民等との対話や協働等を行うプログラムの実施に関する事
- (2) 高校生を対象とした尾花沢キャンパスの設置・運営に関する事
- (3) その他コンソーシアムの目的を達成するために必要な事項に関する事

(構成団体)

第4条 コンソーシアムは、別表及び別表2に掲げる団体（以下「構成団体」という。）をもって構成する。

(役員)

第5条 コンソーシアムに代表及び監事を置く。

- 2 代表及び監事は、構成団体の代表者（以下「委員」という。）の互選により定める。
- 3 代表は、コンソーシアムを代表し、会務を総理する。
- 4 監事は、財務及び会計を監査する。
- 5 代表及び監事の任期は、2年とする。

(総会)

第6条 コンソーシアムに総会を置く。

- 2 総会は、委員をもって構成する。
- 3 総会は、代表が招集し、代表はその議長となる。
- 4 総会は、委員の過半数が出席しなければ、開くことができない。
- 5 総会の議事は、議長以外の出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 6 委員は、やむを得ない場合は、代理者を出席させることができる。
- 7 代表は、必要に応じて、委員以外の者に総会への出席を求めることができる。

(議決事項)

第7条 総会は次に掲げる事項を議決する。

- (1) 事業計画及び予算
- (2) 事業報告及び決算の承認
- (3) 規約の変更
- (4) その他コンソーシアムの事業及び運営に関する重要な事項

(運営委員会)

第8条 コンソーシアムに執行機関として運営委員会を置く。

- 2 運営委員会は、総会において選任された運営委員をもって構成する。
- 3 運営委員会に委員長を置き、運営委員の互選により定める。
- 4 第6条第3項から第7項までの規定は、運営委員会について準用する。この場合において、同条第3項及び第7項中「代表」とあるのは「委員長」と、同条第4項から第7項までの規定中「委員」とあるのは「運営委員」と読み替えるものとする。

(部会)

第9条 運営委員会は、必要に応じて部会を置くことができる。

(事務局会議)

第10条 コンソーシアムに事務局会議を置く。

- 2 事務局会議の運営に関し必要な事項は、運営委員会において定める。

(ジモト大学サポーター)

第11条 コンソーシアムの目的及び事業に協賛する企業、団体、個人をジモト大学サポーター（以下「サポーター」という。）とする。

- 2 サポーターに関し必要な事項は、運営委員会において定める。

(経費)

第12条 コンソーシアムの経費は、負担金及びその他の収入をもって充てる。

- 2 前項の負担金の額は、総会の議決を経て定める。

(補則)

第13条 この規約に定めるもののほか、コンソーシアムの運営に関し必要な事項は、運営委員会において定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規約は、平成31年3月19日から施行する。

(経過措置)

- 2 コンソーシアムの設立当初の代表及び監事の任期は、第5条第5項の規定にかかわらず、平成33年4月30日までとする。

附 則

- 1 この規約は、令和3年4月13日から施行する。

別表（第4条関係）

団 体 名	代 表 者
新庄北高等学校	校長
新庄南高等学校	校長
新庄神室産業高等学校	校長
新庄東高等学校	校長
最上総合支庁	総合支庁長
新庄市	市長
金山町	町長
最上町	町長
舟形町	町長
真室川町	町長
大蔵村	村長
鮭川村	村長
戸沢村	村長
東北芸術工科大学	学長
最上教育事務所	所長
一般社団法人とらいあ	代表理事
新庄商工会議所	会長
もがみ北部商工会	会長
もがみ南部商工会	会長
新庄中核工業団地立地企業協議会	会長
新庄横根山工業団地企業協議会	会長
最上地域農業協議会	会長

別表2（第4条関係）

団 体 名	代 表 者
北村山高等学校	校長
尾花沢市	市長
村山総合支庁北村山地域振興局	局長



発行:令和 6 年3月

発行者:新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアム

事務局:最上総合支庁 総務課連携支援室

TEL 0233-29-1236 FAX 0233-23-2615

E-mail ymogamirenkei@pref.yamagata.jp

一般社団法人とらいあ

TEL&FAX 0233-29-8150

E-mail toraia@ic-net.or.jp